漢字から文章へ

第四冊

全十八回　三百六十字

心　言　犬　天

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。前の冊で出会った字も含みます。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	順序と区切りを表す	三枚のパンと五枚のパン	5	10	12
第二回	地域と地形	台車に合う道	14	19	21
第三回	立場と支え合い	せりふのない姫	23	28	30
第四回	症状と手当て	痛い役の注文	32	37	39
第五回	徳と心の構え	まだ悔しいままの返事	41	46	48
第六回	知らせる・描く	四行の先を歌う	50	55	57
第七回	見方と方法	二つ目を待つ箱	59	64	66
第八回	操作と働きかけ	箱を離さない宅配便	68	73	75
第九回	変化を進める	帰ってきても終わらない	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	人が集まる場	笑い声を消さないで	86	91	93
第十一回	裁きと統治	王さまの昼寝	95	100	102
第十二回	生産と流通	小さい袋を選ぶ理由	104	109	111
第十三回	水・熱・気象	夕日が二つあった日	113	118	120
第十四回	育つ・飼う・実る	林の中の名札屋	122	127	129
第十五回	繊維と金属	煮炊きをしない釜	131	136	138
第十六回	家と日々の道具	お客さまは座らない	140	145	147
第十七回	構造と計測	長い坂道が先に着く	149	154	156
第十八回	芸能と信仰	踊りの輪の外で	158	163	165

漢字から文章へ 第四冊

第一回

順序と区切りを表す

同じパンなのに、三枚の人と五枚の人。
たくさん買ったのは、どちらでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

年	月	早	初
一年を数える	月や一年の区切り	時期が前 速い	いちばん初め
終	番	週	株
おしまいになる	順や区別を示す	七日間のまとまり	植物の根元など

いっしょに覚える漢字

三	五	元	全	千	枚
冊	寸	斤	零	齢	丙

この回で読むお話

三枚のパンと五枚のパン

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
年	ネン とし	一年の期間／年を数える 年・年月・年度・年表	終	シュウ おわる おえる	物事がおしまいになる 終わる・終了・終点・最終
月	ゲツ ガツ つき	月／一年の区切り 月・月末・年月・月日	番	バン	順序／受け持つ順 番号・順番・当番・一番
早	ソウ サッ はやい	時期が前／速度が速い 早い・早朝・早期・早急	週	シュウ	七日間のまとまり 今週・毎週・週間・週末
初	ショ はじめ はつ	いちばん初め 初め・初回・最初・当初	株	シュ かぶ	植物の根元／株式を数える単位 一株・株式・株価

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
三	サン み みつ	数の三 三つ・三人・三角	冊	サツ サク	本を数える 一冊・冊数・冊子・別冊
五	ゴ いつ いつつ	数の五 五つ・五日・五月	寸	スン	長さの単位／わずか 一寸・寸法・寸前
元	ゲン ガン もと	始まり／もと 元年・元日・地元・復元	斤	キン	重さの単位／パンを数える単位 一斤・斤量
全	ゼン まったく すべて	すべて／欠けていない 全部・全体・全国・完全	零	レイ	数のゼロ／わずか 零・零時・零点・零下
千	セン ち	数の千 千円・千人・数千・千年	齢	レイ よわい	生まれてからの年数 年齢・高齢・樹齢・適齢
枚	マイ	薄く平たい物を数える 一枚・枚数・二枚目	丙	ヘイ	十干の三番目／第三の区分 甲乙丙・丙種・丙欄

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「月末の集計」の「月末」が示すものを選びなさい。
ア　月の初めの七日間　　イ　月ごとの売上の合計
ウ　その月の終わりの時期　　エ　月が出ている夜だけ

(2)「早期に見つける」の「早期」に合うものを選びなさい。
ア　物事が進みきらない早い段階　　イ　一日の中で必ず午前の時間
ウ　決めた順番の最後　　エ　動作を速くすることだけ

(3)「当初は三人だった」の「当初」に合うものを選びなさい。
ア　三回目に行ったとき　　イ　三人のうち最も年上の人
ウ　今月の終わり　　エ　物事が始まったころ

(4)「番号」の働きとして適切なものを選びなさい。
ア　大きい数ほど注文が重要だと保証する　　イ　注文を区別し、照合の手がかりにする
ウ　必ず注文した年齢を表す　　エ　番号だけで品物の量を決める

(5)「苗を三株」とあるとき、数えているものを選びなさい。
ア　苗の葉を三枚　　イ　作業した三週間
ウ　植物としての苗を三つ　　エ　三人の年齢

(6) 分類に使う「甲・乙・丙」の「丙」に合うものを選びなさい。
ア　第三の区分を示し、価値の低さとは限らない　　イ　必ず売上が零の分類
ウ　最も古い年を表す　　エ　本を数える単位

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　元年　早期　一枚　番号　年表　年齢　株
終了　千人　月末　寸法　週間　当初　全集

文	解答	文	解答
(1) 店の百年間の出来事を□□にまとめる。		(8) 苗を一□ずつ鉢へ移した。	
(2) 今月の最後の日、□□に集計する。		(9) 新しい年号の最初の年を□□という。	
(3) 問題を小さいうちに□□に見つける。		(10) 同じ作家の作品を集めた□□を読む。	
(4) 計画が始まった□□は三人だった。		(11) 参加者が□□を超えた。	
(5) 本日の受付は五時に□□する。		(12) 薄い写真を□□取り出す。	
(6) 注文票を区別する□□を付けた。		(13) 本の大きさの□□を測る。	
(7) 七日間、つまり一□□だけ店を手伝った。		(14) 生まれてからの□□を尋ねる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「当初」と「初回」の関係に合うものを選びなさい。

当初は毎週開く予定だったが、初回の相談で月一回に変えた。

ア　どちらも必ず同じ一日だけを表す。
イ　前者は始めのころ、後者は一回目の相談。
ウ　当初の予定は一度も存在しなかった。
エ　初回は月の最後の日を表す。

（2）この「終了」と「終点」の使い方に合うものを選びなさい。

店番を終了し、終点までバスに乗った。

ア　両方とも必ず同じ場所。
イ　前者はバスの最後の停留所。
ウ　後者は仕事をやめる行為。
エ　前者は活動の終わり、後者は路線の最後の地点。

（3）この注文票だけから言えることを選びなさい。

甲も乙も同じ種類のパンを一斤。甲は三枚切り、乙は五枚切り。

ア　買った枚数は違うが、どちらも一斤である。
イ　乙は甲の五倍のパンを買う。
ウ　一枚の厚さは必ず同じ。
エ　乙のパンは必ず甲より重い。

（4）この「年齢」と「年数」に合うものを選びなさい。

店主の年齢と、その帳簿を保管した年数を調べる。

ア　どちらも店主が生まれてからの期間。
イ　年数は本を数える単位。
ウ　前者は店主が重ねた年、後者は保管を続けた期間。
エ　帳簿の年数から店主の年齢が必ず分かる。

（5）「順番」を使い、何を先にするかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「全体」を使い、一部分との関係が分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 一年の半分に当たる**ハントシ**をかけて作った。	
(2) 今月の次の**ヨクゲツ**に開店する。	
(3) 今日は**ハヤオキ**して、店を手伝った。	
(4) 使い方を**ショシンシャ**にも分かるように書く。	
(5) 列車の**シュウテン**で降りた。	
(6) 甲種・乙種に続く区分を**ヘイシュ**と呼ぶ。	
(7) 図書室へ**マイシュウ**通っている。	
(8) 苗を**サンカブ**買って植えた。	
(9) 一年の五番目の月である**ゴガツ**に訪ねる。	
(10) 気温が**レイカ**になり、氷が張った。	
(11) 代金の**センエン**を封筒へ入れた。	
(12) 同じ大きさの紙を**ニマイ**重ねた。	
(13) 案内をまとめた**サッシ**を配る。	
(14) 昔の長さの単位の**イッスン**を調べた。	
(15) 同じ種類のパンを**イッキン**注文した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 一冊	(17) 零点	(18) 三日	(19) 初回	(20) 早朝

この回を終えたら もう一度確かめる

何の数なのか、数字の後ろの語まで読みましょう。
期間・順序・物の量を、同じものとして比べていませんか。

七　文章の中で考えよう

三枚のパンと五枚のパン

五枚のほうが、三枚より得だろうか。祖母のパン屋で初めて店番をする律は、注文票の前で首をかしげた。月末の土曜日。いつもは早朝から働く祖母の隣で、今日は自分が番号を呼ぶ。開店を待つ間に、古い年表も見せてもらった。

店は今年で百年、祖母が働き始めて七十年になる。年表の元年に当たる年の写真では、店先に小さな鉢が三株並んでいた。改装の初期と終わりの写真もある。律と祖母では年齢が違う。それでも、焼けたパンに鼻を近づけたくなる気持ちは同じらしい。

「丙の注文、五枚でいいんだね。」律が言うと、祖母は切る前のパンを二つ置いた。どちらも同じ種類で、大きさも同じだ。「まず、票の全体を見てごらん。」律は一冊の帳面を脇へよけ、三つの区分を読み直した。

同じ種類のパンの注文票

区分	注文する量	切り方
甲	一斤	三枚切り
乙	一斤	五枚切り
丙	二斤	五枚切り

甲は一斤を三枚に、乙は一斤を五枚に切る。切る前のパンの量は同じだ。五枚に切れば、一枚ずつは薄くなる。律は、皿に載せた三枚と五枚を指で交互に追った。枚数が多いほうの皿が、急に小さくなったわけでもない。

丙は、五枚切りの一斤が二組。律は袋を二つ出した。五枚だけなら一斤分で、注文の半分になってしまう。「切り方を確かめて、量も確かめる。」声にしながら、二斤分で十枚あるか数えた。祖母は、仕事には手順があると言った。

昼前には、包み紙を置く板の寸法も測った。端に一寸ほど余裕を取り、札を並べる。壁には、昔この店が一週間で千個のパンを焼いたという記事があった。今日の仕事は、まだ一日目だ。間違いを零にしようと気を張っていた律は、自分の昼食を忘れていた。

祖母が、焼きたての端を二枚くれた。

二枚だけ、と言いかけて律は口をつぐんだ。数の前に、厚さを見てみよう。両手で受け取ると、まだ温かい。一枚をかじり、もう一枚は、注文を渡し終えた祖母のために皿へ戻した。

人物・店・注文票は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と注文票を根拠にして答えなさい。

（1）店を開いて営業を始めることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）仕事を進める順序や方法を表す「テジュン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）注文票の甲と乙について、正しいものを選びなさい。

ア　乙は甲よりパンの量が二斤多い。
イ　切ったあとの一枚の厚さが必ず同じ。
ウ　同じ一斤を、それぞれ違う枚数に切る。
エ　番号が後なので乙の注文を先に渡す。

（4）丙の注文を正しく用意したものを選びなさい。

ア　一斤を五枚に切ったものを二組。
イ　一斤を三枚に切ったものを一組。
ウ　二斤全部を三枚に切ったもの。
エ　五枚切りの一斤だけ。

（5）最後に律が、パンの数を比べる前に厚みを眺めたのはなぜですか。
店番での気づきと結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）丙を渡す係への確認の言葉を、「単位」「枚数」を使って 70〜90 字で書きなさい。量と切り方の両方を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　順序と区切りを表す

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　月末はその月の終わり。集計する数や、夜の時刻そのものを表す語ではない。
（2）ア　物事の初めに近い段階を表す。朝か夜か、動作が速いかとは別に考える。
（3）エ　当初は始まったころの時期。初回は繰り返す活動の一回目を表す。
（4）イ　番号は区別や順番を示す。重要さや数量まで分かるとは限らない。
（5）ウ　株は植物の根元からの一まとまりを数えるときにも使う。株式の意味とは文脈で区別する。
（6）ア　甲乙丙は順序や区分を示すことがある。ここでは分類名であり、優劣は示していない。

四　熟語を広げよう

（1）年表　（2）月末　（3）早期　（4）当初　（5）終了
（6）番号　（7）週間　（8）株　（9）元年　（10）全集
（11）千人　（12）一枚　（13）寸法　（14）年齢
（10）全集は、ある作家の作品などをまとめたもの。（14）年齢は、生まれてから経た年数。数を表す語でも、何を数えているかを確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　始めの計画と、一回目の出来事を分ける。両者が同じ時期に重なることはある。
（2）エ　何が終わるかを確かめる。終了は活動が終わること、終点は道や路線の最後の地点など。
（3）ア　一斤という量と、何枚に切るかを区別する。枚数だけをパン全体の量と考えない。
（4）ウ　何の始まりから数えるかが違う。二つの数字が同じとは限らない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

注文を受けた順番が分かるように、紙へ番号を付けて並べた。

☆自分で確かめる点　何の前後の並びかを伝えたか。

（6）解答例

表紙だけで決めず、本の全体を読んでから感想を書くことにした。

☆自分で確かめる点　一部分に限らず、まとまり全部を指したか。

六　短文で使ってみよう

（1）半年　（2）翌月　（3）早起き　（4）初心者　（5）終点
（6）丙種　（7）毎週　（8）三株　（9）五月　（10）零下
（11）千円　（12）二枚　（13）冊子　（14）一寸　（15）一斤
（16）いっさつ　（17）れいてん　（18）みっか　（19）しょかい　（20）そうちょう
（3）は送り仮名を含め「早起き」。（6）丙種は、甲種・乙種などと並ぶ区分名。優劣はこの語だけでは決まらない。（8）は苗の数。（14）は長さ、（15）はパンの量を表す。

七　文章の中で考えよう

（1）開店　店を開いて営業を始めること。律は、店を開くまで注文票を読んでいた。
（2）手順　律は切り方と量を順に確かめる。仕事をどう進めるかという順序や方法を表す。
（3）ウ　甲も乙も同じ種類を一斤。違うのは切り分ける枚数。
（4）ア　二斤を、一斤ずつ五枚に切る。合計十枚である。

七　記述問題の考え方

（5）　厚みを眺めた理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

同じ一斤でも切り方で枚数と一枚の厚さが変わると学び、二枚という数だけでは量の多さを決められないと思ったから。

（5）別解例　51 字

店番で、五枚でも三枚でも元は同じ量のパンだと分かり、もらった二枚も数だけで少ないと考えなくなったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 同じ量でも切り方で枚数が変わる気づきを示したか。
② その気づきと、最後に厚みを見る行動を結んだか。
③ 二枚の重さや、律の満腹を決めつけていないか。

量は枚数だけで決まらないという説明もよい。最後の二枚が何斤分かは、本文に書かれていない。

（6）　注文の確認 70〜90 字

（6）解答例　84 字

丙はパンを二斤注文しています。量を表す単位の斤と、切ったあとの枚数を分けて確かめ、一斤ずつ五枚に切ったものを二組用意してください。合計が十枚で、二斤分あるか確認します。

（6）別解例　82 字

丙の注文では、量の単位は斤で、必要なのは二斤です。切り方は一斤を五枚にするので、その二組をそろえて渡します。五という枚数だけを見て、一斤分だけ用意しないでください。

☆（6）自分で確かめる点

①「単位」「枚数」を使ったか。
② 二斤と、一斤につき五枚という切り方を分けたか。
③ 二組、合計十枚を用意することが分かるか。

実際のパンの重さを推測する必要はない。この店の注文票に示された条件で説明する。

漢字から文章へ 第四冊

第二回

地域と地形

いちばん短い道を選んだはずなのに。
本を積んだ台車の前で、道の見え方が変わります。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

東	野	原	港
日の出る方角	広く開けた土地	平らな土地 もと	船が出入りする所

坂	津	浦	岳
傾いた道や土地	船着き場 渡し場	入り江の岸辺	高く大きな山

いっしょに覚える漢字

下	洋	里	街	埼	阜
巣	阻	郭	附	陵	隔

この回で読むお話

台車に合う道

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
東	トウ ひがし	日の出る方角 東・東方・東西・東口	坂	ハン さか	傾いた道や土地 坂・坂道・急坂・上り坂
野	ヤ の	広く平らな土地 野・野原・平野・分野	津	シン つ	船着き場／渡し場 津・津波・津々浦々
原	ゲン はら	広い平地／もと 原・原野・高原・原因	浦	ホ うら	海や湖が入り込んだ岸 浦・浦辺・津々浦々・浦風
港	コウ みなと	船が出入りする所 港・港湾・空港・入港	岳	ガク たけ	高く大きな山 山岳・岳

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
下	カ ゲ した さがる	低い所／下方 下・地下・下流・低下	巣	ソ す	動物の住みか／集まる所 巣・鳥の巣・巣立ち・営巣
洋	ヨウ	広い海／西洋 海洋・大洋・東洋・洋上	阻	ソ はばむ	行く手をさえぎる 阻む・阻止・険阻・阻害
里	リ さと	人の住む土地／距離の単位 里・郷里・里山・一里	郭	カク	囲い／囲われた区域 城郭・外郭・輪郭
街	ガイ カイ まち	人家や店の集まる所 街・街道・市街・街路	附	フ つける	つけ加える／つけそえる 附属・附記・寄附
埼	さい	水辺へ突き出た土地 埼玉・埼京	陵	リョウ みささぎ	大きな丘／天皇の墓 丘陵・陵・陵墓
阜	フ	小高い丘／土の盛り上がり 岐阜・阜	隔	カク へだてる へだたる	間を離す／さえぎる 隔てる・間隔・隔離・隔岸

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「山岳地帯」の「岳」に関わるものを選びなさい。
ア　人家の集まる町だけ　　イ　高く大きな山
ウ　川の流れの先　　エ　海辺の船着き場

(2)「津々浦々から便りが届く」に合うものを選びなさい。
ア　全国のすみずみから届く　　イ　港からの便りしか届かない
ウ　東の一つの町から届く　　エ　船便だけで届く

(3)「下流の橋」の「下流」に合うものを選びなさい。
ア　地図の下側にある道すべて　　イ　山を上る方向
ウ　川が流れていく先のほう　　エ　橋の真下にある場所だけ

(4)「城郭の外郭」に共通する「郭」の意味を選びなさい。
ア　水を流すこと　　イ　高い山の頂
ウ　船を数えること　　エ　囲い、または囲われた区域

(5)「地図に附記する」の意味を選びなさい。
ア　地図を一枚減らす　　イ　地図に説明を書き添える
ウ　地図から地名を消す　　エ　川の向きを変える

(6)「丘陵」を説明したものを選びなさい。
ア　低い山や丘が続く土地　　イ　船が泊まる水域と施設
ウ　海の向こうの外国　　エ　必ず人の住まない土地

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　下流　高原　営巣　津々浦々　東方　丘陵　高山
坂道　街道　平野　海洋　浦辺　港湾　里山

文	解答	文	解答
(1) 朝日が昇る □□を眺める。		(8) 高い □□に登る。	
(2) 低く平らに広がる □□に田が続く。		(9) 川の流れる先、 □□に橋がある。	
(3) 標高の高い平地、 □□で夏を過ごす。		(10) 暮らしと関わる 身近な□□を守る。	
(4) 船が出入りする □□の設備を調べる。		(11) 地域を結ぶ古い □□を歩く。	
(5) 傾いた□□を ゆっくり上る。		(12) 鳥が巣を作る □□の様子を記録する。	
(6) 便りが全国の □□□□から届く。		(13) 広い□□の 環境を調べる。	
(7) 海の入り江の □□を歩いた。		(14) 低い山や丘の続く □□を越えた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「隔てる」と「阻む」の関係に合うものを選びなさい。

二つの町を隔てる川に橋ができ、川は通行を阻まなくなった。

ア　橋ができると川は必ず消える。
イ　二つの語はどの文でも同じ意味。
ウ　川が間にあることと、通れないことは区別できる。
エ　自然の物には阻むを使えない。

（2）この二つの道の呼び方に合うものを選びなさい。

町と町を結ぶ街道の途中に、長い坂道がある。

ア　道の役割と傾きに着目しており、両方に当てはまる道もある。
イ　街道には坂がない。
ウ　坂道は必ず新しく、街道は必ず古い。
エ　二つは歩く人の年齢で区別する。

（3）この「港湾」と「海洋」に合うものを選びなさい。

港湾の整備を調べたあと、海洋全体の環境も学んだ。

ア　前者は広い海全体、後者は岸辺の設備。
イ　どちらも必ず一つの建物。
ウ　海洋には港が含まれない。
エ　前者は船の利用に関わる水域や施設、後者は広い海。

（4）この資料だけから言えることを選びなさい。

地名に「浦」がある。しかし、昔の海岸線を示す資料はまだない。

ア　地名だけで昔の海岸線が決まる。
イ　地名は手がかりになるが、昔の姿は他の資料でも確かめたい。
ウ　現在も必ず海辺である。
エ　その地名は必ず誤りである。

（5）「隔てる」を使い、何と何の間にあるかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「阻む」を使い、何の進行を妨げるかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 駅の**ヒガシグチ**で待ち合わせる。	
(2) 晴れた日は**ヤガイ**で絵を描く。	
(3) 数直線の**ゲンテン**に印を付けた。	
(4) 船が予定どおりに**シュッコウ**した。	
(5) 長い**ノボリザカ**では、台車を押す手に力が入る。	
(6) 海岸の地図で**ツナミ**の避難場所を確かめた。	
(7) 海辺を吹く**ウラカゼ**が旗を揺らした。	
(8) 険しい**サンガク**の写真を見た。	
(9) 頂上から夕方までに**ゲザン**した。	
(10) 大きな海を指す**タイヨウ**という語を調べた。	
(11) 祖母は久しぶりに**サトガエリ**する。	
(12) 川の向こうにも**シガイ**が広がる。	
(13) 県名の**サイタマ**を漢字で書いた。	
(14) 県名の**ギフ**を地図で探した。	
(15) 城を囲む構えを示す**ジョウカク**の跡を歩いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 城下	(17) 丘陵地	(18) 間隔	(19) 街角	(20) 険阻

この回を終えたら もう一度確かめる

地図の線の長さだけで、道の使いやすさを決めていませんか。
方角・高低差・使う人や運ぶ物も確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

台車に合う道

港の広場に、一日だけの本屋ができる。紗季は、里山の集会所から本を運ぶ係になった。埼玉や岐阜の古本市でもらった本もあり、積み終えた台車は思ったより重い。紗季は、箱の下へ入り込んだ地図を引き抜いた。

いちばん近いのは、東へ向かう浦坂の道だ。祖父も「昨日は十分で歩けた」と言っていた。城郭の外を回り、海洋の本を売る店の脇へ出る。紗季は迷わず、その道に丸を付けた。

ところが、道の途中に四十段の階段があった。手ぶらなら上れる。台車の車輪は、一段目で止まる。紗季は引き返した。まだ広場には着いていないのに、箱の角が少しへこんでいた。

祖父の十分は、間違いだったのだろうか。

集会所へ戻り、別の道も確かめる。丘陵の道は階段がないが、長い上り坂がある。下流の道は遠くても、ほぼ平らだ。山岳や高原へ続く道まで見ていた仲間も、今日運ぶのはこの台車だ、と地図を広場の辺りへ寄せた。

台車を運ぶために確認した道

道	距離	道の条件
浦坂の道	六百メートル	階段が四十段
丘陵の道	八百五十メートル	階段なし、長い上り坂
下流の道	千百メートル	階段なし、ほぼ平ら

「下流を回ろう。」紗季は距離だけでなく、本の重さや道の条件を考えて選んだ。祖父は身軽な散歩で、自分は重い本を運ぶ。どちらも同じ地図を見られるが、通りやすさは同じとは限らない。出発の時刻にも、余裕を取ることにした。

街道沿いの野原では、鳥が細い枝を運んでいた。営巣するのだろうか。仲間が、津々浦々の津や浦は水辺に関わる字だと言い、浦坂の名も海に関係するのかと尋ねた。由来までは、まだ分からない。紗季は原本の地図にある附記を読み返した。

広場との間を隔てる川には、下流に橋があった。遠回りでも、その橋なら階段に阻まれず渡れる。着いて箱を開くと、本は崩れていなかった。

広場で待っていた祖父は地図の浦坂を指し、「手ぶらなら、この道も気持ちいいよ」と笑った。紗季も、次は一緒に歩いてみたいと思った。

人物・地名・道と距離は創作です。実際の道案内には使いません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と道の記録を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、段になっていて台車の車輪が止まった道の部分を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）地図へ書き添える「フキ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）祖父の十分という記録を、そのまま使わなかった理由を選びなさい。

ア　祖父の時計が壊れていたから。
イ　祖父と紗季は必ず違う港へ行くから。
ウ　六百メートルは必ず千百メートルより時間がかかるから。
エ　身軽に歩くことと、重い台車を運ぶことでは条件が違うから。

（4）本文で紗季が下流の道を選んだ理由に合うものを選びなさい。

ア　三つの中で最も距離が短かった。
イ　階段や長い上り坂を避け、本を積んだまま運べた。
ウ　浦や津の由来が全て分かっていた。
エ　祖父が昨日十分で歩いた道だった。

（5）最後に祖父が浦坂を指しても、紗季の選択と矛盾しないのはなぜですか。45〜55 字で書きなさい。

（6）次に本を運ぶ人へ、「距離」「条件」を使って 70〜90 字で道を勧めなさい。本文にない所要時間は決めません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　地域と地形

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　岳は高く大きな山を表す。山岳は山々や高い山を指す。
（2）ア　全国のあちらこちら、すみずみを表す。今の使い方は港や海辺に限られない。
（3）ウ　川の流れる向きに沿って、先のほうを指す。紙の上下と同じとは限らない。
（4）エ　城郭は城を囲む構えなど、外郭は外側の囲いなどを表す。
（5）イ　附記は、本文や図などに説明を書き添えること。
（6）ア　小高い丘や低い山が続く地形。人が住むかどうかまでは、この語だけで決まらない。

四　熟語を広げよう

（1）東方　（2）平野　（3）高原　（4）港湾　（5）坂道
（6）津々浦々　（7）浦辺　（8）高山　（9）下流　（10）里山
（11）街道　（12）営巣　（13）海洋　（14）丘陵
（8）高山は高い山。（12）営巣は鳥などが巣を作ること。津々浦々は全国の至る所を表す。地名に使う字と地形を表す語も、文の中で区別する。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　隔てるは間を離す、阻むは進行などを妨げること。同じ川が両方に関わる場合もある。
（2）ア　街道は地域を結ぶ主要な道、坂道は傾斜のある道。役割と形は重なり得る。
（3）エ　注目する範囲が違う。港湾の語に施設だけでなく水域が関わる点にも注意する。
（4）イ　字の意味は調べる入口になるが、具体的な土地の歴史をそれだけで確定しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

二つの集落を隔てる川に、新しく歩行者用の橋が架けられた。

☆自分で確かめる点　隔てられる二つのものと、間にあるものを示したか。

（6）解答例

道に倒れた大木が車の通行を阻んでいたので、別の道を探した。

☆自分で確かめる点　妨げられた動きや実現を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）東口　（2）野外　（3）原点　（4）出港　（5）上り坂
（6）津波　（7）浦風　（8）山岳　（9）下山　（10）大洋
（11）里帰り　（12）市街　（13）埼玉　（14）岐阜　（15）城郭
（16）じょうか　（17）きゅうりょうち　（18）かんかく　（19）まちかど　（20）けんそ
（7）浦風は海辺を吹く風。（11）は送り仮名を含め「里帰り」。（13）（14）は県名。（15）城郭は、城を囲む構えや城全体を表す。（20）険阻は、地勢が険しく通りにくいこと。

七　文章の中で考えよう

（1）階段　浦坂の道には四十段ある。台車の車輪が止まった理由となる、道の条件。
（2）附記　ここでは地図に案内を書き添えること。
（3）エ　通る人や荷物の条件が違う。祖父の記録が誤りだとは書かれていない。
（4）イ　階段と長い上り坂を避けられる。最短だとは述べていない。

七　記述問題の考え方

（5）　別々の道を選べる理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

身軽に散歩する祖父と、重い本を台車で運ぶ紗季では通りやすさが違い、それぞれに合う道を選んでいるから。

（5）別解例　50 字

祖父は身軽に歩けるが、紗季は台車で階段を避ける必要があり、同じ地図でも選ぶ道の条件が違っているから。

☆（5）自分で確かめる点

① 身軽な散歩と、本を積んだ台車を比べたか。
② 利用する条件により合う道が違うことを示したか。
③ どちらかの道を誰にとっても最善としていないか。
祖父が台車を持ち上げる、下流の道が必ず速いなど、本文にないことを補わない。

（6）　次に運ぶ人への案内 70〜90 字

（6）解答例　87 字

本を積んだ台車なら、距離は千百メートルでも下流の道を勧めます。最短の浦坂には階段があり、丘陵の道には長い上り坂があります。階段がなくほぼ平らという条件を確かめて選びましょう。

（6）別解例　84 字

台車で重い本を運ぶ条件に合うのは、階段がなくほぼ平らな下流の道です。距離は三つで最も長い千百メートルですが、浦坂の階段や丘陵の長い上り坂を避け、本を下ろさずに運べます。

☆（6）自分で確かめる点

①「距離」「条件」を使ったか。
② 下流の道と、その距離・平らさを示したか。
③ 他の道の階段や長い上り坂と比べたか。
距離だけで所要時間は確定しない。別の人や別の荷物なら、結論が変わることもある。

漢字から文章へ 第四冊

第三回

立場と支え合い

姫の役なのに、せりふが一つもありません。
読み合わせの途中で、思いがけない声が上がります。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

男	氏	童	姓
男の人 男性	名字 敬称	子ども	家族を表す名字
娠	某	婆	雌
子を身ごもる	名を伏せる	年配の女性を指す	動物などのめす

いっしょに覚える漢字

何	付	徒	士	博	俊
威	偶	姫	姻	睦	人

この回で読むお話

せりふのない姫

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
男	ダン ナン おとこ	男性／男の人 男性・男女・長男・男児	娠	シン	子を身ごもる 妊娠
氏	シ うじ	名字／人への敬称 氏名・氏族・某氏・氏	某	ボウ それがし	名を明かさない人や物 某氏・某所・某日
童	ドウ わらべ	子ども 児童・学童・童話・童心	婆	バ ばあ	年を取った女性を指す字 老婆・産婆
姓	セイ ショウ	家族を示す名字 姓・姓名・旧姓・改姓	雌	シ めす	動物などのめす 雌・雌雄・雌花

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
何	カ なに なん	どれ／いくつ 何・何人・何者・何度	威	イ	人を従わせる力／おごそかさ 威厳・威力・威圧・権威
付	フ つける つく	そえる／くっつく 付ける・付き添う・付属・日付	偶	グウ	対になる／たまたま 配偶者・偶然・偶数・偶像
徒	ト	仲間や弟子／歩いて行く／むだ 生徒・徒弟・徒歩・徒労	姫	ひめ	身分の高い人の娘など 姫・姫君・歌姫
士	シ	専門の技や役割をもつ人 弁護士・福祉士・剣士	姻	イン	結婚によるつながり 婚姻・姻族・姻戚
博	ハク バク	広く深く知る 博士・博識・博物館・博愛	睦	ボク むつむ むつまじい	仲よくする 親睦・和睦・睦まじい
俊	シュン	才能が優れている 俊才・俊敏・俊秀	人	ジン ニン ひと	ひと／人々 人物・人柄・本人

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「氏名を書く」に合うものを選びなさい。
ア　役のせりふだけを書く　　イ　名字と名前を書く
ウ　相手との年齢差を書く　　エ　学校名だけを書く

(2)「某氏から届いた手紙」の「某氏」に合うものを選びなさい。
ア　名前を明かさずに示した人　　イ　必ずその場にいない人
ウ　必ず名前を忘れられた人　　エ　家族全員の名前

(3)「生徒」「徒弟」に共通する「徒」に近いものを選びなさい。
ア　速く走ること　　イ　結婚した相手
ウ　名を明かさないこと　　エ　学ぶ人や仲間としてのまとまり

(4)「博識」に合うものを選びなさい。
ア　体の動きが速い　　イ　立場が必ず高い
ウ　広い範囲のことをよく知っている　　エ　いつも他人を命令で動かす

(5)「婚姻」に関わる説明を選びなさい。
ア　同じ役を演じること　　イ　結婚による夫婦の結びつき
ウ　動物の雌雄を分けること　　エ　師から技を学ぶこと

(6)「親睦を深める」の意味を選びなさい。
ア　必ず全員が親族になる　　イ　全員の意見を一つに決める
ウ　名字を同じにする　　エ　親しく交わり、仲を深める

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　徒弟　童話　威厳　老婆　氏名　姫君　生徒
某氏　男子　姓　配偶者　雌雄　産婆　博士

文	解答	文	解答
(1) 役者の名前を、□□の欄に書く。		(8) 学校の□□が劇の練習をする。	
(2) 家族を表す名字のことを□という。		(9) 職人に付き、技を学ぶ□□として働く。	
(3) 子どもが読む□□を書いた。		(10) 学位を持つ□□に研究の話を聞く。	
(4) 昔、出産を助けた□□の仕事を調べる。		(11) 男の子を表す□□という語を使う。	
(5) 名前を明かさず□□と記す。		(12) おごそかな態度に□□を感じる。	
(6) 昔話に登場する年配の女性、□□。		(13) 結婚している相手を□□□という。	
(7) 動物のめすとおすを□□という。		(14) 物語で、高い身分の娘を□□と呼ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この二つの欄の違いに合うものを選びなさい。

名札には本人の氏名を、配役表には演じる役名を記した。

ア　氏名と役名は必ず同じ。
イ　氏名があれば役名はどの劇でも不要。
ウ　本人を示す名前と、物語の中の人物の呼び名を分けた。
エ　役名から本人の家族関係が分かる。

（2）「偶然」と「配偶者」の使い方に合うものを選びなさい。

駅で偶然、知人とその配偶者に会った。

ア　前者はたまたま、後者は結婚している相手。
イ　どちらも、たまたま出会った人。
ウ　配偶者は必ず初対面の人。
エ　偶然は結婚するという意味。

（3）この「威厳」と「威圧」に合うものを選びなさい。

王の威厳を出したいが、大声で相手を威圧する演技にはしたくない。

ア　威厳を出すには必ず怒鳴る。
イ　どちらも同じなので区別できない。
ウ　威圧は必ず相手を安心させる。
エ　おごそかな様子と、力で相手を押さえつけることを分けている。

（4）この「徒弟」と「生徒」に合うものを選びなさい。

昼は学校の生徒として学び、休日は職人の徒弟として技を習う。

ア　生徒は技を習えない。
イ　学校で学ぶ立場と、師に付いて技を学ぶ立場を使い分けた。
ウ　徒弟は歩いて通う人だけを表す。
エ　一人が両方になることは絶対にない。

（5）「親睦」を使い、仲を深める活動が分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「博識」を使い、知識の豊かさが伝わる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 大きな音にも、まるで**ナニゴト**もなかったように座っていた。	
(2) 歴史の本で、同じ祖先を持つ**シゾク**について読んだ。	
(3) 公園で**ジドウ**が遊んでいる。	
(4) 二人は名字が同じ**ドウセイ**の友人だ。	
(5) 物語に、**ニンシン**している旅人が出てくる。	
(6) 詳しい場所を伏せて**ボウショ**と書いた。	
(7) 図鑑で**メスドリ**の羽の色を見た。	
(8) 登場する**ジンブツ**の気持ちを考える。	
(9) 学校の**フキン**を散歩した。	
(10) 物語の**キシ**は馬で旅をする。	
(11) 古い道具を**ハクブツカン**で見た。	
(12) 才能の優れた人を**シュンサイ**と呼ぶ。	
(13) 嵐の**イリョク**に驚いた。	
(14) 駅で友人と**グウゼン**会った。	
(15) 物語に出てくる**コンイン**の約束を読み直す。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 長男	(17) 歌姫	(18) 人柄	(19) 何者	(20) 親族

この回を終えたら もう一度確かめる

名前や肩書から、その人の行動を決めつけていませんか。
物語の人物と、演じる本人も分けて読みましょう。

七　文章の中で考えよう

せりふのない姫

姫の帽子は、大きな紙の三角形だった。菜穂がかぶると、先が窓の枠に引っかかった。教室中が笑う。菜穂も笑った。

昔の童話を劇にすることになり、この帽子と姫君の役が気に入って、自分から手を挙げたのだ。

名簿には氏名を書く。同じ姓の生徒が二人いるので、下の名まで確かめた。台本では、威厳のある王、博識の医師、俊敏な剣士が次々に話す。妊娠した旅人と老婆が橋の前で困っている。大きな雌の竜が、橋を壊してしまったらしい。

ところが、姫のせりふは一つもなかった。帽子を押さえる、窓を開ける、うなずく。王は剣士の働きを認め、姫との婚姻を許す。姫の思いは書かれていない。

「姫を剣士に変えれば？　男子だけの役じゃないし。」仲間が言った。菜穂は帽子を持ち、考えた。「姫をやめたいわけじゃない。窓からこの人たちを見ている姫は、何をするのかな。」

台本の余白へ、相談しながら書き足してみる。老婆を演じる子は、昔は産婆として働いた人という設定を提案した。ならば旅人を休ませる手伝いができる。医師役は、長い説明の代わりに図を使う案を出した。

姫には、剣士と同じ働きでなくても、できることがありそうだ。

菜穂は、窓から布を振って、城の人へ休む場所を用意するよう知らせる案を出した。剣士は橋を直す。某氏としか名前のない門番にも、道具を届ける役を頼める。王の配偶者はまだ登場しないし、結婚する結末も決め直すかもしれない。今日の提案だけで、全てを完成にしない。

休み時間は、役を離れて親睦を深めるおやつの時間になった。医師の徒弟役は、せんべいを二つに割る。竜役の子が「ぼくは、わざと橋を壊したことにしたくない」と言った。

急いで台本を付け足すのでなく、菜穂は聞き返した。「竜には、何があったの？」帽子を脱ぐと、内側に小さな消しゴムのかすが付いていた。

人物・童話・台本は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、劇のせりふや動作などを書いたものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）どうすればよいかを話し合う「ソウダン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）菜穂が姫の役について考えたことに合うものを選びなさい。

ア　帽子が嫌になったので、役をやめたい。
イ　どの人物にも同じせりふを言わせたい。
ウ　剣士以外は劇から外したい。
エ　姫のままでも、見ている出来事に応じて行動したい。

（4）読み合わせの時点で、まだ決まっていないことを選びなさい。

ア　古い台本に姫のせりふがあるか。
イ　婚姻という結末まで変えるか。
ウ　菜穂がどの役を希望したか。
エ　旅人が川を渡れず困っているか。

（5）菜穂が「姫を剣士に変えれば」という案だけでは納得しなかった理由を、
45〜55 字で書きなさい。

（6）姫の提案と竜の希望を比べ、劇を直すときに大切にしたいことを、
「役割」「行動」を使って 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　立場と支え合い

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　氏名は名字と名前。姓は名字を指す。役名と、演じる本人の氏名も分ける。
（2）ア　名前をはっきり示さずに人を指す。なぜ名を伏せたかは、別に確かめる必要がある。
（3）エ　生徒は学校などで学ぶ人、徒弟は師について技を学ぶ人。徒歩や徒労の徒とは意味が違う。
（4）ウ　知識の広さや豊かさに着目する。俊敏は動き、威厳はおごそかさなどに着目する。
（5）イ　婚姻は結婚して夫婦となること。親しい友人であることだけを表す語ではない。
（6）エ　人々が交流して親しみを深めること。意見がいつも同じになることではない。

四　熟語を広げよう

（1）氏名　（2）姓　（3）童話　（4）産婆　（5）某氏
（6）老婆　（7）雌雄　（8）生徒　（9）徒弟　（10）博士
（11）男子　（12）威厳　（13）配偶者　（14）姫君
（4）産婆は、出産を助ける人の昔の呼び名。（10）学位の博士は「はくし」。（14）姫君は高い身分の娘などへの呼び名。氏名・姓・某氏は、人を示す範囲がそれぞれ違う。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　誰が演じるかと、どの人物を演じるかを区別している。
（2）ア　偶の字を含むが、熟語全体の意味が違う。共通の一字だけで同義とはしない。
（3）エ　両方に威があるが、相手への働きや様子の捉え方が違う。
（4）イ　同じ人物でも、場面と学ぶ関係に応じて違う呼び方を使える。

五　自分で書く問題

（5）解答例

初めて会う参加者どうしが親睦を深めるため、短い遊びをした。
☆自分で確かめる点　交流して親しくなるという意味で使ったか。

（6）解答例

博識な祖父は、庭に来る鳥の名前だけでなく習性も教えてくれた。
☆自分で確かめる点　何をよく知っているかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）何事　（2）氏族　（3）児童　（4）同姓　（5）妊娠
（6）某所　（7）雌鳥　（8）人物　（9）付近　（10）騎士
（11）博物館　（12）俊才　（13）威力　（14）偶然　（15）婚姻
（16）ちょうなん　（17）うたひめ　（18）ひとがら　（19）なにもの　（20）しんぞく
（4）同姓は名字が同じこと。（7）雌鳥はめすの鳥。（10）騎士は、馬に乗って戦った武人など。
（12）俊才は才能の優れた人。（15）婚姻は、結婚することを表す。

七　文章の中で考えよう

（1）台本　役のせりふや動作、物語の進行などが書かれている。菜穂たちは、その余白へ案を書き足している。
（2）相談　どうしたらよいかを話し合うこと。菜穂は仲間の案も聞きながら考えている。
（3）エ　帽子も姫の役も気に入っているが、何を考え、何をするかを探している。
（4）イ　結婚する結末も決め直すかもしれないとあり、変更はまだ決定していない。

七　記述問題の考え方

（5）　役を変えるだけではない理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

帽子も姫の役も気に入っており、剣士になるのでなく、旅人を見ている姫自身が何を考え行動するかを探したかったから。

（5）別解例　51 字

姫をやめたいのではなく、窓から困る旅人を見ている姫として、せりふや自分にできる行動を考えたかったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 姫や帽子を気に入っていることを押さえたか。
② 姫のまま考え、行動したいという望みを示したか。
③ 剣士の役や橋を直す仕事を否定していないか。

目立つ役が欲しいだけ、結婚を絶対に嫌がっているなど、本文にない気持ちに限定しない。

（6）　劇の直し方を考える 70〜90 字

（6）解答例　83 字

姫は困る旅人に休める場所を知らせたいと考え、竜には偶然橋を壊したという希望がある。役割の名前だけで人物を決めず、何を考えて行動するのかを演じる人と話し合って直したい。

（6）別解例　85 字

姫は剣士の役割を奪わず、自分から旅人を助ける行動を提案した。竜にも橋を壊した事情への希望がある。呼び名だけで悪者や見物人にせず、それぞれの思いと動きを聞いて劇を直したい。

☆（6）自分で確かめる点

①「役割」「行動」を使ったか。
② 姫の具体的な提案と、竜の希望の両方に触れたか。
③ その二つと結び、自分が大切にしたいことを示したか。

人物の事情を聞く、行動の理由が伝わる劇にするなどの考えもよい。竜が偶然壊した設定は、まだ希望の段階である。

漢字から文章へ 第四冊

第四回

症状と手当て

いちばん大きな声で「痛い」と言ったのに。
聞く役の生徒は、もう一度尋ねたいようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

歯	療	脚	疫
物をかむ部分	病気や傷を治す	足 支える部分	流行する病気

股	腫	痩	腺
足の付け根など	体の一部がふくれる	体が細くなる	体内で液などを出す

いっしょに覚える漢字

的	薬	荷	仰	汁	尻
盲	呂	腐	唇	脇	嗅

この回で読むお話

痛い役の注文

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
歯	シ は	口の中で物をかむ部分 歯・歯科・乳歯・歯痛	股	コ また	足の付け根／分かれ目 股・股関節・二股・股下
療	リョウ	病気や傷を治すことに関わる 治療・医療・療養・診療	腫	シュ はれる はらす	体の一部がふくれる 腫れ・腫れる・腫瘍・腫脹
脚	キャク キャ あし	足／物を支える部分 脚・脚部・脚力・三脚	痩	ソウ やせる	体が細くなる 痩せる・痩身・痩せ型
疫	エキ ヤク	広く流行する病気 疫病・防疫・免疫・検疫	腺	セン	体内で液などを出す器官 汗腺・涙腺・甲状腺

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
的	テキ まと	ねらう点／その性質をもつ 目的・標的・的確・具体的	盲	モウ	見えない／気づかず見落とす 盲点・盲導犬
薬	ヤク くすり	病気や傷に用いるもの 薬・薬剤・服薬・薬局	呂	ロ	音律などに関わる字 風呂・律呂・呂律
荷	カ に	運ぶ物／負担 荷物・重荷・負荷・出荷	腐	フ くさる くされる	くさって性質が変わる 腐る・腐敗・豆腐・防腐
仰	ギョウ コウ あおぐ おおせ	上を向く／敬う 仰ぐ・仰向け・信仰・仰天	唇	シン くちびる	口の外側の縁 唇・口唇・読唇
汁	ジュウ しる	物から出る液 汁・果汁・煮汁・汁物	脇	キョウ わき	体の横／中心から外れた所 脇・脇腹・脇道・脇役
尻	しり	腰の後ろ側／物の最後 尻・尻餅・目尻・帳尻	嗅	キュウ かぐ	においを感じ取る 嗅ぐ・嗅覚

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「歯科の治療」に共通して関わるものを選びなさい。
ア　道を平らにすること　　イ　料理の味付け
ウ　歯の病気などを診たり治したりすること　　エ　植物の株分け

(2)「脚力」の「脚」が表すものを選びなさい。
ア　走ったり歩いたりする足　　イ　脚本に書いたせりふ
ウ　机の値段　　エ　汗を出す器官

(3)「防疫」の意味に合うものを選びなさい。
ア　必ず薬を飲むことだけ　　イ　体の大きさを比べること
ウ　痛みを我慢すること　　エ　感染症の発生や広がりを防ぐこと

(4)「涙腺」と「汗腺」に共通する「腺」に合うものを選びなさい。
ア　骨をつなぐ所　　イ　液などを出す器官
ウ　物をかむ部分　　エ　物の端を表す線

(5)「計画の盲点を見つける」の意味を選びなさい。
ア　人の視力を測る　　イ　計画をすべて取りやめる
ウ　気づかず見落としていた点を見つける　　エ　明かりを必ず消す

(6)「嗅覚」に関わる感覚を選びなさい。
ア　色を見る感覚　　イ　音を聞く感覚
ウ　重さを感じる感覚　　エ　においを感じる感覚

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　標的　脚力　仰向け　発熱　歯科　口唇　涙腺
股関節　荷物　治療　果汁　疲労　防疫　服薬

文	解答	文	解答
(1) 歯の具合を診る □□の医院を訪ねた。		(8) 涙を出す □□の場所を調べる。	
(2) 病気や傷を治すため □□を受ける。		(9) 狙う所を定めて □□に向けて放つ。	
(3) 毎日の運動で □□を高める。		(10) 指示に従って □□の記録を付ける。	
(4) 感染症の広がりを防ぐ □□について学ぶ。		(11) 届いた □□を棚に置く。	
(5) 足の付け根の □□□を図で確かめる。		(12) 顔や胸を上へ向け、 □□□になる役を演じる。	
(6) 熱が出る □□の場面を台本に書く。		(13) 果物を搾った □□を瓶に入れる。	
(7) 仕事の後の □□を感じる。		(14) 口のくちびるを指す □□という語を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「診療」と「治療」に合うものを選びなさい。

医院の診療時間を確認し、歯の治療について相談した。

ア　診療は病気を診たり治したりすること、治療は治すための働きかけ。
イ　診療は必ず薬を渡すことだけ。
ウ　治療は診療と無関係。
エ　どちらも医院の建物の名前。

（2）この「荷物」と「負荷」の使い方に合うものを選びなさい。

運ぶ荷物を軽くして、持つ人にかかる負荷を減らした。

ア　どちらも箱の個数だけ。
イ　荷物は必ず体の症状を表す。
ウ　負荷は道の長さの単位。
エ　前者は運ぶ物、後者はそれを持つ人にかかる負担。

（3）この観察と解釈の区別に合うものを選びなさい。

役者の頬が赤く塗られているので、見る人が「熱がある役かな」と思った。

ア　塗った色だけで本当の病名が決まる。
イ　見えた色と、見る人が考えたことは区別できる。
ウ　赤い化粧なら本人は必ず発熱している。
エ　考えたことは全て見えた事実と同じ。

（4）この「的確」の意味に合うものを選びなさい。

聞いた言葉を取り違えないように、短く的確に伝える。

ア　とにかく大声で伝える。
イ　専門の語だけを使う。
ウ　要点を外さず、ぴったり伝える。
エ　分からない所を想像で埋める。

（5）「負荷」を使い、何にどんな負担がかかるかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「盲点」を使い、気づかず見落としていたことを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 毎朝、**ハミガキ**をする。	
(2) 資料で、治療の方法を表す**リョウホウ**という語を調べた。	
(3) カメラを**サンキャク**に据えた。	
(4) 昔の物語で、**エキビョウ**の流行が語られる。	
(5) ズボンの**マタシタ**の長さを測った。	
(6) 打った所が**ハレル**場面を台本に書いた。	
(7) 登場人物が少し**ヤセル**という設定を考えた。	
(8) 汗を出す**カンセン**について図で学んだ。	
(9) 昔、薬に使った**ヤクソウ**の名前を調べた。	
(10) 鍋の**ニジル**が少し残っている。	
(11) 猫が**シッポ**を揺らした。	
(12) 物語の登場人物が**フロ**に入る。	
(13) 果物が**クサル**場面を絵で表した。	
(14) 劇の**ワキヤク**にも、せりふを足した。	
(15) においを感じる**キュウカク**を表す語を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 脇腹	(17) 足湯	(18) 尻餅	(19) 唇	(20) 腐敗

この回を終えたら もう一度確かめる

見えた様子、本人が話したこと、聞く側の推測を分けましょう。
分からないことを、分かったことにして書いていませんか。

七　文章の中で考えよう

痛い役の注文

「痛い、すごく痛い！」奏が叫ぶと、結衣は台本を閉じた。教室で、病院を舞台にした短い劇を撮影している。奏は重い荷物を運んで転んだ役で、実際にけがをしたわけではない。唇を震わせ、脚を押さえ、さっきより大きな声を出した。

「痛い役なんだから、痛そうにしてるよ。」

結衣はうなずいた。それから、「聞く役の私は、次に何を尋ねたらいいんだろう」と言った。痛みを疑っているのでなく、場所も、いつからかも、まだ分からないのだ。奏は台本を開き直した。

設定には、転んだあと右の脚の付け根、股の辺りが痛む、とある。腫れがあるかは書いていない。赤い化粧は衣装に合わせた飾りで、腫れた証拠ではない。奏は指で場所を示し、「転んだあと、ここが痛くなりました」と言ってみた。結衣は、やっと次のせりふを選べた。

教室の壁には、歯の治療、薬の使い方、防疫について調べた紙が並ぶ。汗腺の図まである。難しい言葉だけで、的確に伝わるわけでもない。結衣が脇腹も痛いかと聞くと、奏は迷った。そこは設定にない。「まだ分からないです」と答え、二人で台本に印を付けた。

尻餅をつく動きは、ゆっくり練習した。痩せて見せる衣装の工夫や、仰向けになる案も出たが、それで痛みの原因が決まるわけではない。奏は、演じ方の盲点に気づいた。大声だけに力を入れ、相手に必要なことを伝えていなかった。結衣は、最初の「痛い」も大切な訴えだと考え、その言葉は消さずに台本へ残した。

別の場面では、風呂上がりに果汁を飲んだ人物が登場する。瓶のにおいを嗅ぎ、「腐っていたのでは」と言う。飲んだあとに具合が変わった順序と、何が原因かは同じではない。二人は確かめられた事実と推測を分け、断定していたせりふに線を引いた。

撮り直しでは、奏の声は少し小さかった。それでも、いつ、どこが痛むかは伝わった。細かな説明にも、演じる負荷はある。うまく説明できない人の痛みを軽く見ないように、と結衣はせりふを一つ足す。「分からない所は、一緒に確かめよう。」次の役の子もうなずいた。

授業・人物・台本は創作です。実際の症状の判断や手当ての手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、痩せて見せる工夫をした劇の服装を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）カメラで場面を写す「サツエイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）台本の情報に合う書き方を選びなさい。

ア　脇腹も必ず痛い。
イ　痩せて見える服が痛みの原因だ。
ウ　転んだあとから右脚の股の近くが痛い。
エ　赤い化粧なので腫れがあると確定する。

（4）別の台本のにおいについて、正しい読み方を選びなさい。

ア　起きた順は分かるが、においが不調の原因とは決められない。
イ　果汁を運ぶと必ず具合が悪くなる。
ウ　においの話は、実際には台本になかった。
エ　奏の推測を台本の確定事項として扱う。

（5）結衣が、最初の「痛い」を消さずに残したことには、どんな意味がありますか。撮り直しの工夫と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の撮影係に、記録の工夫を「事実」「推測」を使って 70〜90 字で伝えなさい。赤い化粧と脇腹の例に触れます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　症状と手当て

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　歯科は歯や口に関わる医療の分野。治療は病気や傷を治すための働きかけ。
（2）ア　ここでは体の足に着目している。三脚なら物を支える足を指す。
（3）エ　疫は流行する病気に関わる字。防疫という語だけでは、具体的な方法までは決まらない。
（4）イ　涙腺は涙、汗腺は汗に関わる。漢字の「線」と取り違えない。
（5）ウ　ここでは見落としていた点という意味。体の感覚の検査をしている文ではない。
（6）エ　においを感じ取る感覚。何かのにおいを感じたことと、その原因を確定することは別。

四　熟語を広げよう

（1）歯科　（2）治療　（3）脚力　（4）防疫　（5）股関節
（6）発熱　（7）疲労　（8）涙腺　（9）標的　（10）服薬
（11）荷物　（12）仰向け　（13）果汁　（14）口唇
（6）発熱は熱が出ること。（7）疲労は心身が疲れること。（11）荷物と、重さや負担を表す負荷を使い分ける。（14）口唇は、くちびるを指す。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　診療は診察や治療を含む医療の営み。二つが全く重ならないと考えない。
（2）エ　荷物そのものと、その荷物などによって生じる負担を区別する。
（3）イ　見える色は手がかりでも、そこから考えた理由や病名は別の内容。本文の芝居でもこの違いを考える。
（4）ウ　短いだけでなく、要点や内容に合っていることが大切。分からないことを無理に決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

一人に仕事の負荷が集中しないように、担当を二人に分けた。
☆自分で確かめる点　負担がかかる相手や対象を示したか。

（6）解答例

雨の日の荷物置き場を考えていなかったのが、計画の盲点だった。
☆自分で確かめる点　何を見落としていたのかを具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）歯磨き　（2）療法　（3）三脚　（4）疫病　（5）股下
（6）腫れる　（7）痩せる　（8）汗腺　（9）薬草　（10）煮汁
（11）尻尾　（12）風呂　（13）腐る　（14）脇役　（15）嗅覚
（16）わきばら　（17）あしゆ　（18）しりもち　（19）くちびる　（20）ふはい
（1）（6）（7）（13）は送り仮名も書く。三脚は三本の脚で支える台。（8）汗腺は汗を出す器官。（14）脇役は、主役を助ける役や中心以外の役。症状や体の部位と、原因の推測を混ぜない。

七　文章の中で考えよう

（1）衣装　劇で役に合わせて着る服。赤い化粧は飾りであり、腫れの証拠ではない。
（2）撮影　教室で劇をカメラに収めている。病院で実際のけがを診てもらっている場面ではない。
（3）ウ　場所と、転んだあとからという時期は台本にある。腫れの有無は確定していない。
（4）ア　出来事が順に起きたことと、原因の確定を区別する。

七　記述問題の考え方

（5）　最初の訴えを残す意味 45〜55 字

（5）解答例　52 字

場所や始まった時期を具体的に加えつつ、うまく説明できない痛いという訴えも大切にし、聞き取ろうとするため。

（5）別解例　50 字

詳しい説明に直すことだけを求めず、痛いという本人の訴えを残しながら、場所や時期も確かめて伝えるため。

☆（5）自分で確かめる点

① 詳細が言えなくても訴えを大切にする点を示したか。
② 場所や時期を確かめる工夫と結んだか。
③ 小さな声なら軽い症状だと決めていないか。

本人の言葉を受け止めて一緒に確かめる、という表現もよい。説明の上手さで痛みの有無を決める問題ではない。

（6）　撮影係への確認 70〜90 字

（6）解答例　86 字

赤い化粧が見えることと、腫れがあるという推測を分け、台本の事実として確認した内容を記録します。脇腹の痛みは設定にないので、勝手に加えず不明とし、本人の言葉も残してください。

（6）別解例　86 字

台本にある事実と、見た人の推測を混ぜないでください。赤い化粧だけで腫れと決めず、脇腹の痛みも設定がなければ不明とします。痛いという本人の言葉を残し、分かる内容を確かめます。

☆（6）自分で確かめる点

①「事実」「推測」を使ったか。
② 赤い化粧から腫れを確定しないことを示したか。
③ 脇腹の設定は不明とし、勝手に加えないと伝えたか。

これは撮影用の台本の読み方である。実際に症状があるときの診断や対応を、生徒がこの文章だけで決めるものではない。

漢字から文章へ 第四冊

第五回

徳と心の構え

お祝いの言葉は、うまく出てきません。
それでも、友人から届いた招待状を開いてみます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

愛	吉	辱	頑
大切に思う	よい兆し めでたい	名誉を傷つける	かたくな 強く保つ

幽	慶	憩	虞
奥深く静か かすか	喜び祝う	休んで安らぐ	心配されること

いっしょに覚える漢字

好	勉	静	誠	奮	凶
卑	妬	畏	酷	嫉	篤

この回で読むお話

まだ悔しいままの返事

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
愛	アイ	大切に思う／いつくしむ 愛情・愛護・友愛	幽	ユウ	奥深く静か／かすか／死者の世界 幽玄・幽静・幽霊
吉	キチ キツ	めでたい／よい兆し 吉・吉日・吉報・大吉	慶	ケイ	よろこび祝う 慶事・慶祝・慶賀
辱	ジョク はずかしめる	名誉を傷つける 屈辱・侮辱・雪辱・恥辱	憩	ケイ いこう	休んで心身を安らげる 休憩・憩う・憩い
頑	ガン	かたくな／強く持ちこたえる 頑固・頑丈・頑張る	虞	おそれ グ	心配されること／おそれ 虞・不虞

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
好	コウ このむ すく	よいと思う／好む 好意・好感・好む・友好	卑	ヒ いやしい いやしむ	品位が低い／自分を低くする 卑下・卑怯・卑劣・卑近
勉	ベン	力を尽くして励む 勉強・勤勉・勉励	妬	ト ねたむ	他人をうらみねたむ 妬む・嫉妬・妬心
静	セイ ジョウ しずか	動きや音が少ない 静か・冷静・静止・安静	畏	イ おそれる	敬いながらおそれる 畏敬・畏怖・畏まる
誠	セイ まこと	偽りのない心 誠実・誠意・忠誠・至誠	酷	コク ひどい	厳しくむごい／程度が甚だしい 冷酷・残酷・酷評・酷暑
奮	フン ふるう	心をふるい立たせる 奮起・興奮・奮闘・奮発	嫉	シツ	ねたむ／にくむ 嫉妬・嫉視
凶	キョウ	悪い／災いの兆し 凶・凶悪・凶作・凶兆	篤	トク あつい	情が深い／誠実／病状が重い 篤実・篤志・危篤

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「吉報」の意味を選びなさい。
ア　心配される出来事　　イ　詳しくないうわさ
ウ　悲しみだけを伝える文　　エ　喜ばしい知らせ

(2)「頑丈」と「頑固」に共通する意味の方向を選びなさい。
ア　かたく、簡単には変わったり崩れたりしない　　イ　よい知らせを伝える
ウ　人をねたむ　　エ　休んで気持ちを緩める

(3)「休憩」の意味を選びなさい。
ア　活動を永久にやめる　　イ　必ず眠り込む
ウ　作業などを一時やめ、心身を休める　　エ　他人の作品を評価する

(4)「壊れる虞がある」の意味を選びなさい。
ア　もう完全に壊れている　　イ　壊れる心配や可能性がある
ウ　絶対に壊れない　　エ　壊れたら必ず喜ぶ

(5)「畏敬」の意味を選びなさい。
ア　相手の失敗を願う　　イ　相手の品位を傷つける
ウ　自分を低く見せるだけ　　エ　偉大さなどを敬い、おそれる気持ち

(6)「篤実な人」の説明を選びなさい。
ア　必ず口数が多い人　　イ　何でもすぐ決める人
ウ　情が厚く、まじめで誠実な人　　エ　ほかの人を酷評する人

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　好物　屈辱　誠実　慶事　愛情　嫉妬　畏敬
幽玄　冷静　吉報　奮闘　休憩　頑固　勤勉

文	解答	文	解答
(1) 相手を大切に思う □□が伝わった。		(8) 偉大さを敬い、おそれる □□の念を抱く。	
(2) うれしい知らせの □□が届いた。		(9) 好きな食べ物を表す □□を尋ねる。	
(3) 負けて誇りを傷つけられた ような□□を感じる。		(10) 仕事に熱心な □□な人だ。	
(4) 考えをなかなか変えない □□な面がある。		(11) 慌てずに □□に話を聞く。	
(5) 奥深く味わいのある □□な景色を描く。		(12) 偽りのない □□な対応をする。	
(6) 家族の喜ばしい出来事を □□として祝う。		(13) 力を尽くして □□する。	
(7) 作業を止めて 十分に□□を取る。		(14) 他人をうらやみねたむ □□を感じた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「屈辱」と「侮辱」の捉え方に合うものを選びなさい。

負けて屈辱を感じたが、対戦相手は自分を侮辱していない。

ア　負けたら相手の侮辱が必ずあった。
イ　両方とも勝者の喜び。
ウ　自分が誇りを傷つけられた思いと、相手が傷つける行為は区別できる。
エ　屈辱は必ず体のけがを指す。

（2）この「卑下」と「謙遜」に合うものを選びなさい。

自分を卑下して全て駄目だと言うのでなく、感謝を伝えて控えめに話した。

ア　自分を低く見過ぎることと、控えめな態度を取ることを分けている。
イ　どちらも他人を見下すこと。
ウ　卑下をしない人は必ず自慢する。
エ　感謝を伝えると自分の作品を認められない。

（3）この「酷評」と「批評」の違いに合うものを選びなさい。

色の使い方を批評したつもりが、理由も言わず「ひどい絵だ」と酷評してしまった。

ア　批評は必ずほめるだけ。
イ　酷評は必ず根拠が正しい。
ウ　二つとも感想を一切述べないこと。
エ　前者はよしあしを論じること、後者は手厳しく悪く評すること。

（4）この「誠実」の捉え方に合うものを選びなさい。

うまく祝えない気持ちを偽らず、招待には返事をし、作品を見に行った。

ア　誠実なら悔しいと思わない。
イ　気持ちを偽らず、相手への約束や対応も大切にしたと読める。
ウ　返事をしたら気持ちは全て同じになる。
エ　見に行けば絵を必ず好きになる。

（5）「奮起」を使い、気持ちを奮い立たせる場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「好意」を使い、人のためにしようとする気持ちを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 長く使った道具に**アイチャク**がある。	
(2) おみくじで**ダイキチ**を引いた。	
(3) 相手を**ブジョク**する言い方はしない。	
(4) 何度使っても壊れない**ガンジョウ**な箱だ。	
(5) 物語に、雨の中の**ユウレイ**が現れる。	
(6) 喜ばしい出来事に**ケイシュク**の意を表す。	
(7) 木陰が、みんなの**イコイ**の場になった。	
(8) 大雨で川があふれる**オソレ**がある。	
(9) 家で言葉の意味を**ベンキョウ**した。	
(10) 動いていた機械が**セイシ**した。	
(11) うそをつかず、**セイイ**を持って応じた。	
(12) おみくじで**ダイキョウ**を引いた。	
(13) 自分の力を過度に**ヒゲ**しない。	
(14) 作品を手厳しく**コクヒョウ**する。	
(15) まじめで情の厚い**トクジツ**な人だ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 畏怖	(17) 危篤	(18) 酷暑	(19) 凶兆	(20) 慶弔

この回を終えたら もう一度確かめる

感じた気持ちと、相手が実際にしたことを分けましょう。
一つの感情だけで、人全体を決めていませんか。

七　文章の中で考えよう

まだ悔しいままの返事

夏帆が描いた幽霊は、雨の中で誰かを待っていた。怖くない幽霊にしたかった。題名にも、傘の色にも愛着がある。けれど展覧会には入選しなかった。友人の悠には、金賞の吉報が届いた。教室は慶事に沸き、夏帆も拍手した。手は動くのに、うれしくならない。

昨日引いた大吉のおみくじが、今日は大凶に見えた。紙の文字が変わったわけではない。悠の絵がほめられるたび、自分の絵をけなされた気がする。嫉妬する自分が嫌にもなった。

「展示を見に来ない？」悠から招待された日、夏帆は返事をしなかった。落選した自分への侮辱だと思いかけ、立ち止まる。悠は夏帆の絵を悪く言っていない。屈辱を感じたことと、相手が自分を傷つけたことは同じではない。それが分かっても、笑顔はうまく作れなかった。

休憩時間、美術室で先生に尋ねた。「頑固だとか、卑屈だとか思いますか。」先生はすぐに人柄の札を貼らず、どんな絵を描いたのか聞いた。夏帆は傘の色を選び直したこと、勤勉に練習したことを話す。地域の篤志家から贈られた絵の具の箱が、机の脇で光っていた。

「ちゃんと祝えないまま行ったら、嫌なことを言う虞もある。」夏帆は冷静に説明しようとしたが、声は震えた。先生は、今日は断る返事もできると言った。見に行くかどうかと、相手の絵を好きになるかどうかも別だという。先生の指先には、乾いた青い絵の具が残っていた。

翌日、夏帆は「まだ悔しい。でも絵は見たい。土曜に行く」と書いた。立派な返事ではない気もする。でも、喜んだふりをするより誠実だと思えた。悠の返事は「待ってる」だけだった。その好意を、今度は嫌みに読み替えず受け取れた。

展示室の悠の線は、近くで見ると驚くほど細かった。畏敬に近い気持ちになる。自分の線と比べれば、また妬ましくもなる。だからといって酷評したいわけではない。帰ったら違う細さの筆を試そうと、少し奮起した。悔しさはまだある。夏帆はそのまま、絵の前にもう少し立っていた。

人物・展覧会は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、作品が選ばれなかったことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）呼びかけや誘いなどに答える「ヘンジ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文で、確かめられる悠の行動を選びなさい。

ア　夏帆の絵を悪く言った。
イ　夏帆を展示へ招待し、「待ってる」と返した。
ウ　夏帆の落選を喜んだと言った。
エ　夏帆に必ず笑顔で来るよう命令した。

（4）終わりの夏帆の気持ちに合うものを選びなさい。

ア　悔しさは全て消えた。
イ　悠の絵は嫌いだと決めた。
ウ　自分の絵を二度と描かないと決めた。
エ　悔しさも敬う気持ちもあり、筆を試したくなった。

（5）夏帆が「まだ悔しい。でも絵は見たい」と返したことを誠実だと思えた理由を、45〜55 字で書きなさい。

（6）この結末が「嫉妬が消えてよかった」とだけまとめられない理由を、「感情」「行動」を使って70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　徳と心の構え

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　よい知らせを表す。同じ知らせでも、受け取る人の気持ちが必ず一様とは限らない。

（2）ア　頑丈は丈夫なこと、頑固は考えなどを容易に変えないこと。意味の方向が近くても、対象や評価は違う。

（3）ウ　一時的に休むこと。やめる長さや眠るかどうかまでは、この語だけで決まらない。

（4）イ　望ましくないことが起きる心配を表す。起きた事実の確定とは区別する。

（5）エ　優れたものや偉大なものに、敬意とおそれを抱くこと。嫉妬とは意味が違う。

（6）ウ　人情に厚く、まじめで誠実な様子。危篤の篤は病状が重い方向で使われる。

四　熟語を広げよう

（1）愛情　（2）吉報　（3）屈辱　（4）頑固　（5）幽玄

（6）慶事　（7）休憩　（8）畏敬　（9）好物　（10）勤勉

（11）冷静　（12）誠実　（13）奮闘　（14）嫉妬

（8）畏敬は敬い、おそれる気持ち。（9）好物は好きな食べ物。（13）奮闘は力を尽くして取り組むこと。屈辱を感じたことと、相手が侮辱したことは分けて考える。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　感じたことを大切にしつつ、相手がした行為と混ぜない。

（2）ア　卑下は自分を低く扱うこと。控えめに話すために、全てを駄目だと否定する必要はない。

（3）エ　批評にはよい点も問題点も含み得る。酷評は厳しい評価に着目する語である。

（4）イ　誠実さを、特定の感情がないことと同じにしない。具体的な対応を根拠に考える。

五　自分で書く問題

（5）解答例

前回の失敗を思い出して奮起し、今度は発表の練習を増やした。

☆自分で確かめる点　何をきっかけに、どんな行動へ向かったかを示したか。

（6）解答例

道に迷った私を駅まで案内してくれた人の好意が、ありがたかった。

☆自分で確かめる点　好意がどんな行動に表れたかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）愛着　（2）大吉　（3）侮辱　（4）頑丈　（5）幽霊

（6）慶祝　（7）憩い　（8）虞　（9）勉強　（10）静止

（11）誠意　（12）大凶　（13）卑下　（14）酷評　（15）篤実

（16）いふ　（17）きとく　（18）こくしょ　（19）きょうちょう　（20）けいちょう

（7）は送り仮名を含め「憩い」。（8）虞は、望ましくないことが起きる心配。（14）酷評は手厳しい評価。（15）篤実は、まじめで情が厚いこと。（20）慶弔は、喜び事と弔い事。

七　文章の中で考えよう

（1）落選　選考などで選ばれないこと。本文では、展覧会に夏帆の絵が選ばれなかったことを指す。

（2）返事　夏帆は悔しさも絵を見たい気持ちも伝えて答えた。悠は「待ってる」と返している。

（3）イ　侮辱した、落選を喜んだ、命令したとは書かれていない。

（4）エ　悔しさは残り、畏敬や、新しい筆を試したい気持ちも生まれている。

七　記述問題の考え方

（5）　返事を誠実だと思えた理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

悔しさを隠して喜んだふりをせず、絵を見たいという気持ちも伝え、土曜に行くと自分の意思で返事をしたから。

（5）別解例　50 字

悔しい気持ちを偽らずに認めながら、相手の絵を見たい思いと訪ねる約束を、自分の言葉で正直に伝えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 悔しさを偽っていないことを示したか。
② 絵を見たい気持ちや、訪ねる約束を結んだか。
③ 行かない返事は不誠実だと決めていないか。

先生は断る返事もできると言っている。参加することだけを誠実さの条件にしない。

（6）　結末に残るもの 70〜90 字

（6）解答例　86 字

夏帆には嫉妬や悔しさという感情がまだ残っている。一方で悠の絵を敬い、見に行く行動や、新しい筆を試す意欲も生まれた。感情を消して終わるのでなく、揺れながら次へ進む結末だから。

（6）別解例　87 字

結末でも夏帆は悠の線を妬ましく思い、悔しさも消えていない。それでも敬う感情と描き直す意欲を持ち、絵の前に立つ行動を選んだ。嫉妬がなくなったことだけを成長として描いてはいない。

☆（6）自分で確かめる点

①「感情」「行動」を使ったか。
② 嫉妬や悔しさが残る点を押さえたか。
③ 畏敬、見に行くこと、筆を試す意欲などと結んだか。

複数の気持ちが同時にある、気持ちが残っても選べる行動がある、などの読みもよい。悔しさを必ず消すべきだという教訓に限定しない。

漢字から文章へ 第四冊

第六回

知らせる・描く

見つかった歌には、四行しかありません。
ところが、続きを知っている人が何人も現れます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

号	歌	宣	著
番号 名 大声	節をつけてうたう	広く知らせる	書き表す 目立つ

誉	該	訃	謎
よい評判 ほめる	当てはまる	人の死を知らせる	答えが分からない

いっしょに覚える漢字

各	様	批	諸	唆	且
唯	猶	稿	謁	箋	言

この回で読むお話

四行の先を歌う

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
号	ゴウ	番号／名／大声 番号・号外・記号・屋号	誉	ヨ ほまれ	よい評判／ほめる 名誉・栄誉・誉れ
歌	カ うた うたう	節をつけてうたう 歌・歌詞・短歌・歌う	該	ガイ	当てはまる／その 該当・当該
宣	セン	広く知らせる 宣言・宣伝・宣告・宣誓	訃	フ	人の死を知らせる 訃報・訃告・訃音
著	チョ あらわす いちじるしい	書き表す／目立つ 著者・著作・顕著・著しい	謎	なぞ	意味や答えが分からないもの 謎・謎解き・謎めく

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
各	カク おのおの	それぞれ 各自・各地・各種・各人	唯	ユイ イ	ただ一つ／ただ 唯一・唯物
様	ヨウ さま	あり方／敬称 様子・様式・多様・同様	猶	ユウ	なお／ためらう 猶予・猶疑
批	ヒ	よしあしを論じる 批評・批判	稿	コウ	文章の下書き 原稿・草稿・投稿・寄稿
諸	ショ もろ	いろいろな／多くの 諸点・諸国・諸氏・諸問題	謁	エツ	身分の高い人に会う 謁見・拝謁
唆	サ そそのかす	そそのかす／気づかせる 示唆・教唆・唆す	箋	セン	書き付ける紙 便箋・付箋・処方箋
且	かつ	そのうえ／しばらく 且つ・且座	言	ゲン ゴン いう こと	ことばにして伝える 言葉・言及・発言・宣言

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「号外」に合うものを選びなさい。
ア　通常の号とは別に、特別な出来事などを知らせる紙面　　イ　歌を数える単位
ウ　著者の本名だけを書く欄　　エ　手紙用の紙の種類

(2)「著者」の意味を選びなさい。
ア　本を買った人すべて　　イ　歌った人すべて
ウ　本や文章を書いた人　　エ　その場所を訪れた人

(3)「該当する資料」の意味を選びなさい。
ア　最も新しい資料なら何でもよい　　イ　内容や条件に当てはまる資料
ウ　著者の分からない資料だけ　　エ　紙が一枚しかない資料

(4)「訃報」が知らせる内容を選びなさい。
ア　催しの開始時刻　　イ　優勝したこと
ウ　新しい商品の発売　　エ　人が亡くなったこと

(5)「この例は工夫を示唆する」の意味を選びなさい。
ア　工夫を考える手がかりを与える　　イ　工夫の成功を全て証明する
ウ　全員へ必ず命令する　　エ　工夫を禁止する

(6) 物語の「王に謁見する」の意味を選びなさい。
ア　王の名前を伏せる　　イ　王を批評する記事を書く
ウ　身分の高い王に会う　　エ　王と必ず親族になる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　批評　宣伝　各自　該当　号外　便箋　謎
名誉　唯一　歌詞　草稿　訃報　著者　示唆

文	解答	文	解答
(1) 特別な出来事を急いで伝える □□を配った。		(8) 答えの分からない □を考える。	
(2) 歌の言葉である □□を読み直した。		(9) よい点や課題を □□で述べる。	
(3) 催しを広く知らせる □□の文を作る。		(10) 考える手がかりを与える □□に富む話だ。	
(4) 本を書いた □□を紹介する。		(11) ただ一つだけの □□の資料である。	
(5) 選手のすぐれた働きは 町の□□となった。		(12) それぞれ自分ですることを □□で確かめる。	
(6) 条件に当てはまる □□の項目を選ぶ。		(13) 文章の下書きの □□を見せる。	
(7) 亡くなったことを知らせる □□が届いた。		(14) 手紙を書く □□を取り出す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「宣言」と「宣伝」の使い方に合うものを選びなさい。

部長は活動の再開を宣言し、部員は公演を宣伝した。

ア　両方とも亡くなったことを伝える。
イ　前者は方針をはっきり述べ、後者は公演を広く知らせる。
ウ　宣伝は必ず嘘を言うこと。
エ　宣言は必ず声に出さず書くだけ。

（2）この「示唆」と「証明」の読み分けに合うものを選びなさい。

一枚の手紙は、歌い方が変わった可能性を示唆する。ただし、全員が変えたとは証明できない。

ア　可能性があれば全員の行動が決まる。
イ　示唆された内容は必ず誤り。
ウ　示唆と証明はいつでも同じ。
エ　手がかりはあるが、その結論まで確かめられたとは限らない。

（3）この「唯一」を使える範囲を選びなさい。

今の展示にある歌詞の原本は一枚。別の家の資料は、まだ調べていない。

ア　今の展示では唯一と言えるが、世の中に一枚だけとは限らない。
イ　世界に一枚しかないと証明された。
ウ　全ての複写も一枚しかない。
エ　著者が一人だったと必ず分かる。

（4）この二つの文に合うものを選びなさい。

「祖父の原稿には四行ある」「この先の歌詞は私たちが作った」と分けて載せる。

ア　自分で作る歌詞も祖父の言葉として扱う。
イ　二つの文章は書いた人が必ず同じ。
ウ　残った資料と、新しく創作した部分を読み手が区別できる。
エ　創作した歌詞は新聞に載せられない。

（5）「言及」を使い、何の話に触れたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「猶予」を使い、時間を延ばして待つ場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 本の背に書いた**バンゴウ**を確かめた。	
(2) 窓から明るい**ウタゴエ**が聞こえる。	
(3) 代表は活動の再開を**センゲン**した。	
(4) 広く名の知られた**チョメイ**な作家だ。	
(5) 長年の活動が認められ、**エイヨ**を受けた。	
(6) その件に当たる**トウガイ**の資料を探す。	
(7) 手がかりを集めて**ナゾトキ**を楽しむ。	
(8) 窓から外の**ヨウス**を見た。	
(9) 根拠を挙げ、案の問題点を**ヒハン**した。	
(10) 仲間へ「**ショクン**、始めよう」と呼びかけた。	
(11) 「明るく、**カツ**元気に」と書いてあった。	
(12) 発表の**ゲンコウ**を書いた。	
(13) 物語で、旅人が王に**エッケン**した。	
(14) 目印の**フセン**を資料に貼る。	
(15) 留守の友人への**デンゴン**を預かった。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 各地	(17) 諸氏	(18) 唯一無二	(19) 処方箋	(20) 格言

この回を終えたら もう一度確かめる

誰の言葉か、どこまで確かめたことかを明らかにしましょう。
新しく作った部分と、残された資料を区別できていますか。

七　文章の中で考えよう

四行の先を歌う

「幻の歌を発見。」芽衣は、号外の見出しを先に書いた。地域新聞の子ども編集室へ届いた古い草稿には、四行しかない。著者は昨年亡くなった合唱団の創立者で、芽衣は訃報を載せた号を覚えていた。なくなった続きを探せば、特別な記事になりそうだ。

歌は、王に謁見する旅人の劇で歌ったものだという。表紙には「諸君、自由に、且つ元気に歌え」とある。折り目から一枚の便箋が出てきた。創立者の署名の上に、こう書かれていた。

「初めの四行は私が書いた。五行目からは、歌う人が続きを作る。」

元団員の各家庭へ聞くと、続きは幾つも見つかった。海へ行く歌、王を笑わせる歌、帰り道に道を間違える歌。初めの四行は同じでも、その先は違う。「唯一の正しい歌詞は、どれだろう。」芽衣が言うと、元団員は楽しそうに首をかしげた。

芽衣は「創立者の名誉のため、元の形を取り戻そう」と記事に書いた。仲間の颯太が、その草稿を批評する。「続きを作っていいと書いた人なのに、一つに戻したいのかな。」芽衣は便箋の該当する文へ付箋を貼った。四行の下には、白い場所がまだ広がっている。

この余白は、失われた歌詞の跡ではないのかもしれない。

元団員の話は、歌が様々な形で親しまれたことを示唆する。ただし、当時の全員が続きを作ったかは分からない。芽衣は掲載に一日の猶予をもらった。「正しい続きを捜索中」を消し、「この便箋では、歌う人に続きを任せています」と書き直す。

記事の隣には、今の自分たちの新作を載せることになった。古い四行へ黙ってつなぐのでなく、「ここからは子ども編集室の新作」と分ける。誰の言葉かを示せば、昔の人が書いた歌詞だと誤解されず、新しい歌も楽しんでもらえる。

宣伝文は「四行の先を歌ってみませんか」。颯太は、王の帽子を風がさらう続きを歌った。芽衣も初めの四行から歌い直す。謎を一つ解いたというより、新しい問いをもらった気分だった。五行目がないことは、もう残念ではない。自分なら何を書くか、まだ少し迷っている。

人物・新聞・歌・手紙は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、書いた本人が自分の名を書き記すことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）紙などの、文字を書かずに空いている部分を表す「ヨハク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）便箋から分かることを選びなさい。

ア　創立者が全ての続きを書いた。
イ　当時の全団員が必ず続きを作った。
ウ　元団員の歌詞は全て同じだった。
エ　創立者は、五行目から歌う人が作ると書いた。

（4）記事と新作を分ける目的を選びなさい。

ア　元団員の記憶を全て誤りにする。
イ　新しい歌詞を作ることを禁止する。
ウ　残された言葉と今の創作を区別して読めるようにする。
エ　四行の著者を分からなくする。

（5）芽衣が五行目のないことを残念に思わなくなった理由を、
最初の「幻の歌」の捉え方と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）展示の紹介文を、「原稿」「新作」を使って 70〜90 字で書きなさい。便箋の内容と、今作る続きを区別して伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　知らせる・描く

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　定期の号とは別に、特別な出来事を知らせる紙面。本文では地域新聞の臨時の号を指す。
（2）ウ　作品や文章を書いた人を表す。写した人、読んだ人と同じとは限らない。
（3）イ　示された条件などに当てはまること。何の条件かを前後から確かめる。
（4）エ　人の死を知らせることや、その知らせ。追悼は亡くなった人をしのぶことに着目する。
（5）ア　それとなく示し、考える手がかりを与えること。内容の確定や証明とは区別する。
（6）ウ　謁見は身分の高い人に会うこと。ふだん友人と会うこと全般を表す語ではない。

四　熟語を広げよう

（1）号外　（2）歌詞　（3）宣伝　（4）著者　（5）名誉
（6）該当　（7）訃報　（8）謎　（9）批評　（10）示唆
（11）唯一　（12）各自　（13）草稿　（14）便箋
（12）各自は、それぞれ一人一人。宣伝は広く知らせること、批評はよしあしを論じること。便箋は手紙を書く紙、草稿は文章の下書きを指す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　伝える目的に着目する。宣言の内容を宣伝で知らせるなど、二つが関わる場合もある。
（2）エ　どこまで資料から言えるかを分ける。一部の資料から全体を言い切らない。
（3）ア　唯一とする範囲を明らかにする。調べた範囲の一つと、存在する全ての一つを区別する。
（4）ウ　新しく作ることを禁じるのではなく、誰が書いた部分かを分かるようにする。

五　自分で書く問題

（5）解答例

記事では受賞だけでなく、活動を支えた人たちの働きにも言及した。
☆自分で確かめる点　話題として何に触れたかを示したか。

（6）解答例

内容を確かめる時間が必要なので、提出まで三日の猶予をお願いした。
☆自分で確かめる点　何の期限を、どう延ばすかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）番号　（2）歌声　（3）宣言　（4）著名　（5）栄誉
（6）当該　（7）謎解き　（8）様子　（9）批判　（10）諸君
（11）且つ　（12）原稿　（13）謁見　（14）付箋　（15）伝言
（16）かくち　（17）しょし　（18）ゆいいつむに　（19）しょほうせん　（20）かくげん
（6）当該は、そのことに当てはまること。（10）諸君は、多くの人への呼びかけ。（11）は「且つ」まで書く。（17）諸氏は多くの人を敬う言い方。（18）唯一無二は、ただ一つで二つとないこと。

七　文章の中で考えよう

（1）署名　創立者の便箋には本人の名が書かれている。本文では、便箋に書いた人を確かめる手がかりになる。
（2）余白　紙などの文字を書いていない部分。芽衣は、四行の下の空いた場所の意味を考え直した。
（3）エ　全員が作ったかは分からず、続きも一つではない。
（4）ウ　誰が書いた部分かを読み手が区別できるようにする。

七　記述問題の考え方

（5）　四行の先の捉え方 45〜55 字

（5）解答例　51 字

最初は失われた歌詞を取り戻すと思ったが、歌う人に続きを任せた四行だと分かり、自分も作れると考えたから。

（5）別解例　54 字

隠れた正しい続きを見つけるつもりだったが、五行目は歌う人が作ってよいと知り、余白を楽しめるようになったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めは正しい続きを取り戻そうとしていた点を示したか。
② 歌う人に続きを任せる便箋の内容と結んだか。
③ 元の四行の著者まで不明になったとしていないか。

失われたものから、自分が参加できる余地へ捉え方が変わった、などの表現もよい。

（6）　展示への紹介文 70〜90 字

（6）解答例　88 字

残された原稿は創立者が書いた四行で、便箋には五行目から歌う人が続きを作るとあります。元団員の様々な続きとともに、今の子ども編集室の新作も、誰が作った部分か分かる形で紹介します。

（6）別解例　85 字

創立者の原稿は四行で、便箋には五行目からを歌う人に任せるとあります。展示では昔の資料と区別して、子ども編集室が作った新作の続きを載せます。皆さんも続きを考えてみませんか。

☆（6）自分で確かめる点

①「原稿」「新作」を使ったか。
② 四行と、続きを歌う人に任せた便箋を説明したか。
③ 今の創作を、創立者の歌詞と区別して紹介したか。

唯一の正しい続きを確定した、全団員が作った、とまでは言わない。新作の内容は自由だが、誰が作るものかは明らかにする。

漢字から文章へ 第四冊

第七回

見方と方法

木の箱に玉を入れると、首が動きます。
でも、一つ目の返事だけでは終わりません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

待	信	推	秘
その時までまつ	確かだと思う	おしはかる	人に知らせない

企	敏	虚	勘
計画を立てる	すばやく感じ取る	中身がない	考え合わせる 直感

いっしょに覚える漢字

球	現	模	奇	肯	哲
須	甚	頒	頻	衡	翻

この回で読むお話

二つ目を待つ箱

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
待	タイ まつ	その時までとどまる 待つ・待機・期待・待遇	企	キ くわだてる	計画を立てる 企画・企業・企図・企てる
信	シン しんじる	まことと思う／頼る 信じる・信頼・通信	敏	ビン	すばやい／感じ取りやすい 敏感・機敏・鋭敏・過敏
推	スイ おす	考えを進める／おしはかる 推測・推理・推薦・推移	虚	キョ コ	中身がない／事実でない 虚偽・空虚・虚構・虚像
秘	ヒ ひめる	隠して人に知らせない 秘密・秘める・秘書・神秘	勘	カン	調べて考える／直感 勘案・勘定・勘違い

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
球	キュウ たま	丸い形のもの 球・球体・地球・天球	須	ス シュ	必要とする／しばし 必須・須要・須臾
現	ゲン あらわれる うつつ	目の前にあらわれる／今 現れる・現象・現在・実現	甚	ジン はなはだ はなはだしい	程度が非常に大きい 甚大・甚だしい・激甚
模	モ ボ	手本／かたどる 模型・模様・模倣・規模	頒	ハン	広く分けて配る 頒布・頒価
奇	キ	普通と違う／不思議 奇妙・奇数・好奇心	頻	ヒン しきりに	何度も繰り返す 頻度・頻繁・頻出
肯	コウ	よいと認める 肯定・首肯・肯んずる	衡	コウ	つり合い／はかる 均衡・平衡・度量衡
哲	テツ	知恵があり道理に明るい 哲学・哲人・賢哲	翻	ホン ひるがえる ひるがえす	裏返す／移しかえる 翻訳・翻意・翻案

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「待機」に合うものを選びなさい。
ア　動いている物を必ず止めること　　イ　必要な時に備えて待つこと
ウ　最後まで反対し続けること　　エ　答えを公表すること

(2)「推測」に合うものを選びなさい。
ア　分かったことを手がかりに、まだ分からないことを考える　　イ　見た事実を一字も変えず写す
ウ　考えたことが全て正しいと証明する　　エ　答えを誰にも知らせない

(3)「敏感」に合うものを選びなさい。
ア　秘密を全て話すこと　　イ　計画を立てないこと
ウ　小さな変化や刺激も感じ取りやすいこと　　エ　何度も同じ場所へ行くこと

(4)「虚構」に合うものを選びなさい。
ア　現実の記録に一切誤りがないこと　　イ　調べた結果がまだ不明なこと
ウ　相手の話を信用すること　　エ　現実の事実そのままでなく、作り上げたこと

(5)「頒布」に合うものを選びなさい。
ア　印刷物などを広く分けて配ること　　イ　内容を必ず無料にすること
ウ　一人だけが秘密に持つこと　　エ　物を丸くすること

(6)「均衡」に合うものを選びなさい。
ア　前の意見を必ず捨てること　　イ　回数を一つずつ数えること
ウ　複数のもののつり合いが取れていること　　エ　外国語を日本語に移すこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　球体　推測　奇妙　敏感　待機　哲学　勘違い
企画　模型　信頼　肯定　虚偽　秘密　現象

文	解答	文	解答
(1) 必要な時に備えて□□する。		(8) 集合時刻を□□□していた。	
(2) 相手を頼りにする□□が深まった。		(9) 丸い立体の□□を作った。	
(3) 足跡から通った動物を□□した。		(10) 目の前で起こる□□を観察する。	
(4) 知らせずにおく□□を守った。		(11) 実物をかたどった□□を展示する。	
(5) 催しの□□を会議で提案する。		(12) 見慣れない□□な形をしている。	
(6) 小さな音にも□□に反応する。		(13) その内容は正しいと□□した。	
(7) 事実と違う□□の説明をした。		(14) 物の見方を問う□□の本を読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「勘」と「推測」に合うものを選びなさい。

職人は勘で違和感に気づき、傷の位置を調べて原因を推測した。

ア　勘は必ず誤りである。
イ　勘で気づいた点から、調べて理由を考えることもある。
ウ　推測をしたら確認はいらない。
エ　二つは同じ行為を必ず逆順で行う。

（2）「虚構」と「虚偽」の扱いに合うものを選びなさい。

物語の登場人物が空を飛ぶ。一方、実験の報告には、実際には出なかった結果を書いた。

ア　どちらも必ず虚偽の報告である。
イ　報告の嘘も物語と同じ条件で楽しめばよい。
ウ　空を飛ぶ物語は虚構として楽しめても、結果の嘘は虚偽の報告になる。
エ　物語には創作が一つもない。

（3）この「秘密」と「不明」の読み分けに合うものを選びなさい。

製作者は仕掛けを秘密にした。見物人には、作動する理由が不明だった。

ア　知らせない扱いと、分からない状態をそれぞれ表している。
イ　不明なら、誰かが必ず隠している。
ウ　秘密なら、製作者も知らない。
エ　二つとも仕掛けが存在しないことを表す。

（4）ここでの「翻意」に合うものを選びなさい。

初めは展示に反対だったが、説明を聞いて翻意し、賛成した。

ア　説明を外国語に直した。
イ　展示物を裏返した。
ウ　同じ意見をより強くした。
エ　それまでの意向を変えた。

（5）「必須」を使い、何のために必要かが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「頻度」を使い、何の回数に注目したかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 新しい作品の完成を**キタイ**して待つ。	
(2) 手紙への**ヘンシン**が届いた。	
(3) 計画を先へ進める**スイシン**役を引き受けた。	
(4) 家に伝わる**ヒデン**の作り方を教わった。	
(5) 町の**キギョウ**が祭りを手伝う。	
(6) 選手は素早く**キビン**に動いた。	
(7) 物語の**キョコウ**を楽しむ。	
(8) 嵐による被害は**ジンダイ**だった。	
(9) 学校の**キュウギ**大会でボールを使う。	
(10) 長年の計画が、ついに**ジツゲン**した。	
(11) 手本となる**モハン**の演技を見た。	
(12) 二で割り切れない整数を**キスウ**という。	
(13) 作った冊子を会場で**ハンプ**する。	
(14) 左右の重さの**キンコウ**を保った。	
(15) 外国語の説明を日本語に**ホンヤク**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 思索	(17) 勘案	(18) 甚だ	(19) 頻繁	(20) 翻意

この回を終えたら もう一度確かめる

最初に見えたことと、それをどう受け取ったかを分けましょう。
一度の動きで決めていないか、確かめる順序も考えます。

七　文章の中で考えよう

二つ目を待つ箱

木の球が、箱の穴からことんと落ちた。

上に載った鳥の模型が首を縦に振る。木工祭で「返事をする箱」を展示する美玖は、もう一度鳥の顔を見た。「願いを肯定してくれるのかな。」信頼する製作者のおじさんは、秘密だと笑った。

二個目では横、三個目では縦、四個目では横。隣の哲学の本の売り場から来た客が、真顔で尋ねた。「甚だ不思議。否定された願いは取り消すのかね。」美玖は笑いかけ、箱を開けてよい時間まで待機することにした。

色を見分ける仕掛けだろうか。美玖は、玉の色に敏感なのだと推測した。赤、青、青、赤の順に入れてみる。それでも首の動きは変わらない。おじさんは同じ重さの球体を二つ見せ、「これが必須の道具」と言った。勘では、中にもう一羽鳥がいそうなのに。

遊び方の紙を頒布する係が来た。外国語の説明もあり、仲間が翻訳した。「返事は二つ目まで待って。」美玖は、首の向きが変わる頻度を数え直す。色と関係なく、奇数個目と偶数個目で交互になる。鳥は人の言葉を聞いて返事を選んでいるのではないらしい。

公開の時間、箱の中には、玉を受ける板が左右に一枚ずつ見えた。一個目は左へ落ちて板を下げ、鳥が縦にうなずく。二個目は右へ落ち、重さが均衡すると鳥は横を向く。二個が出口へ転がれば元へ戻る。企画の準備中、美玖はいつも外側ばかり見ていた。

「どんな悩みも解決」と書いた冗談の札を、美玖は外した。願いがかなう箱だと宣伝すれば虚偽になる。でも、返事をする鳥という虚構なら、仕掛けを知っても楽しめそうだ。札には「二つ目まで見ると、返事の意味が変わります」と書き直した。

帰りかけた客が戻ってきた。「では、帰ってほしいですか。」鳥が縦にうなずくと、客は肩を落とす。横を向くと、ほっとした顔になる。美玖もつられて鳥を見た。同じ現象なのに、質問を替えると違う返事に見えてくる。

買わないつもりだった美玖は、翻意した。「私の分も一箱、お願いします。」持ち帰る箱には、説明の紙も忘れず入れた。

人物・催し・箱の仕組みは、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、遊び方などを分かるように述べることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）二つのものがかわるがわるになる「コウゴ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）赤、青、青、赤と玉を入れた時の観察に合うものを選びなさい。

ア　色が変わる時だけ首が横を向いた。
イ　色と無関係に、奇数個目と偶数個目で動きが交互になった。
ウ　赤い玉にだけ反応した。
エ　四個目からは首が動かなくなった。

（4）最後の客の遊び方に合うものを選びなさい。

ア　鳥が本当に人の願いを理解すると証明した。
イ　箱に聞けば重大な悩みは必ず解決できる。
ウ　仕掛けを知ると、返事を楽しむことは一切できない。
エ　決まった動きを、質問への返事に見立てて楽しんでいる。

（5）美玖が色に敏感な仕掛けという推測を変えた理由を、観察と説明の紙を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）箱を紹介する文を、「仕掛け」「遊び」を使って 70〜90 字で書きなさい。実際に起こる動きと、楽しみ方を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　見方と方法

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　必要な時に動けるように待つこと。待っている理由や状態も前後から読む。
（2）ア　手がかりから考えること。推測した内容が、既に確定したとは限らない。
（3）ウ　音や光、気持ちの変化などを感じ取りやすいこと。すぐ動ける機敏と重なる点もある。
（4）エ　作り上げた事柄や仕組み。物語の虚構を楽しむことと、虚偽の報告とは区別する。
（5）ア　広く分けて配ること。頒布という語だけでは、無料か有料かは決まらない。
（6）ウ　重さや力などのつり合い。人数、意見、資源などについても使う。

四　熟語を広げよう

（1）待機　（2）信頼　（3）推測　（4）秘密　（5）企画
（6）敏感　（7）虚偽　（8）勘違い　（9）球体　（10）現象
（11）模型　（12）奇妙　（13）肯定　（14）哲学

推測は手がかりから考えること。勘違いは取り違えて思い込むこと。勘の字は、勘案のように考え合わせる意味でも使う。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　直感が調べるきっかけになる場合もある。勘と推測を、誤りと正解に分けない。
（2）ウ　何として示す文章かを確かめる。現実の記録として示す報告では、事実を偽らない。
（3）ア　隠して知らせないことと、分からないことは同じではない。誰が知っているかも区別する。
（4）エ　翻意は意向や考えを変えること。翻訳は言語を移しかえることに着目する。

五　自分で書く問題

（5）解答例

この遊びを二人で始めるには、同じ重さの玉が二個必須となる。

☆自分で確かめる点　何をするために、何が必要なのかを示したか。

（6）解答例

人が通る頻度を時間帯ごとに比べ、案内板を置く場所を考えた。

☆自分で確かめる点　どの出来事の起こる回数かが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）期待　（2）返信　（3）推進　（4）秘伝　（5）企業
（6）機敏　（7）虚構　（8）甚大　（9）球技　（10）実現
（11）模範　（12）奇数　（13）頒布　（14）均衡　（15）翻訳
（16）しさく　（17）かんあん　（18）はなはだ　（19）ひんぱん　（20）ほんい

（8）甚大は、程度がとても大きいこと。（12）負の整数にも奇数がある。（13）頒布は広く分けて配ること。無料とは限らない。（17）勘案は事情を考え合わせること。（20）翻意は意向を変えること。

七　文章の中で考えよう

（1）説明　遊び方を分かるように述べたもの。外国語の説明を翻訳し、動きを確かめ直している。
（2）交互　縦と横がかわるがわるになること。本文では玉の色でなく、入れる順序と結び付く。
（3）イ　色の順を変えても、縦と横の動きは交互だった。
（4）エ　客は動きに返事の意味を与えて遊ぶ。願いを理解する証拠ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　色から順序へ 45〜55 字

（5）解答例　51 字

色の順を変えても動きは同じで、説明の二つ目まで待つという言葉から、玉の個数と動きの交替に気づいたから。

（5）別解例　53 字

色とは関係なく首が交互に動き、翻訳した説明を手がかりとして、奇数個目と偶数個目の動きの違いを確かめたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 色の並びを変えても動きが変わらなかった点を書いたか。
② 翻訳した説明を確かめ直す手がかりとして挙げたか。
③ 色でなく個数の順序に注目した点と結んだか。

箱の中を見る前の観察と、説明の紙の役割を結ぶ。別の鳥が実在したとは書かない。

（6）　箱の紹介文 70〜90 字

（6）解答例　80 字

この箱は、同じ重さの玉を順に入れると、鳥が縦と横に交互に首を動かす仕掛けです。願いを理解するわけではありませんが、動きを質問への返事に見立てる遊びも楽しめます。

（6）別解例　83 字

玉を二個入れると左右の重さが均衡し、鳥が横を向く仕掛けです。一個目では縦にうなずきます。質問を考え、決まった動きを返事として受け取る遊びを、皆さんも試してみませんか。

☆（6）自分で確かめる点

①「仕掛け」「遊び」を使ったか。
② 一個目と二個目の動きの違いを正しく説明したか。
③ 人の願いを理解する箱だと誤解させていないか。

他の遊び方の提案もよい。願いがかなうという保証と、返事に見立てる楽しみは区別する。

漢字から文章へ 第四冊

第八回

操作と働きかけ

ロボットは、指示どおりに運びました。
ただし、箱を持った手を離してくれません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

開	切	持	取
閉じたものをあける	分ける たつ	もつ たもつ	手に入れる

尽	執	撲	搬
力などを出し切る	取り行う こだわる	打つ 打ちほろぼす	運び移す

いっしょに覚える漢字

採	停	従	至	逮	致
奔	奪	駆	据	跳	摂

この回で読むお話

箱を離さない宅配便

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
開	カイ ひらく あく あける	閉じたものをひらく 開く・開封・開始・公開	尽	ジン つくす つきる つかす	すべてを出し切る 尽くす・尽力・無尽・燃え尽きる
切	セツ サイ きる きれる	分ける／断つ 切る・切断・大切・区切り	執	シツ シュウ とる	取り行う／こだわる 執筆・執行・固執
持	ジ もつ	手に取る／保つ 持つ・保持・持続・所持	撲	ボク	打つ／打ちほろぼす 打撲・撲滅
取	シュ とる	手に入れる／つかむ 取る・取得・採取・受取	搬	ハン	物を運び移す 搬入・搬出・運搬

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
採	サイ とる	選んで取り入れる 採る・採取・採用・採点	奔	ホン はしる	勢いよく走る 奔走・奔流・出奔
停	テイ とめる とまる	動きを止める 停止・停車・停電・停泊	奪	ダツ うばう	他から無理に取る 奪う・略奪・争奪・奪回
従	ジュウ ショウ ジュ したがう	ついて行く／規則を守る 従う・従事・服従・従来	駆	ク かける かる	走らせる／追う 駆ける・駆動・駆使・先駆
至	シ いたる	ある所や段階へ届く 至る・至急・夏至	据	キョ すえる すわる	動かないよう置く 据える・据え付け・据え置き
逮	タイ	追いつく／捕らえる 逮捕・逮夜	跳	チョウ はねる とぶ	地面をけって上がる 跳ぶ・跳躍・跳ねる
致	チ いたす	至らせる／いたす 招致・一致・合致	摂	セツ ショウ とる	取り入れる／兼ねる 摂取・摂政・包摂

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「開封」に合うものを選びなさい。
ア　部屋へ荷物を運ぶこと　　イ　内容を必ず公表すること
ウ　封を切って中を開けること　　エ　箱を水平に保つこと

(2)「保持」に合うものを選びなさい。
ア　状態や物を保ち続けること　　イ　物を他人から無理に取ること
ウ　新しい物を作ること　　エ　予定を必ず取り消すこと

(3)「尽力」に合うものを選びなさい。
ア　全ての道具を使い切ること　　イ　相手へ命令すること
ウ　何もしないで待つこと　　エ　力を尽くして努力すること

(4)「執筆」に合うものを選びなさい。
ア　筆の代金を支払うこと　　イ　文章や作品を書くこと
ウ　書いた物を必ず出版すること　　エ　筆を長く保管すること

(5)「搬出」に合うものを選びなさい。
ア　建物などの外へ物を運び出すこと　　イ　物を運び入れること
ウ　動きを止めること　　エ　相手の意見を取り入れること

(6)「据える」に合うものを選びなさい。
ア　勢いよく飛び上がる　　イ　期限を短くする
ウ　動かないように置く　　エ　相手から取り上げる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　採取　保持　至る　執行　開封　合致　搬入
尽力　従う　切断　逮捕　打撲　取得　停止

文	解答	文	解答
(1) 封を切って□□する。		(8) 会場の中へ荷物を□□する。	
(2) つながった材料を二つに□□する。		(9) 調べる土を□□する。	
(3) 同じ状態を□□する。		(10) 機械の動きを□□させる。	
(4) 必要な資格を□□した。		(11) 決めた順に□□。	
(5) 準備への□□に感謝する。		(12) 道は山頂に□□。	
(6) 決まった命令を□□する。		(13) 物語の警官が犯人を□□する。	
(7) 転んで腕を□□した。		(14) 二つの条件がぴったり□□する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「採取」と「取得」に合うものを選びなさい。

試料の採取には、先に所有者の許可を取得する必要がある。

ア　試料を採れば、許可も自動的に手に入る。
イ　材料を集める行為と、許可を得る行為を分けている。
ウ　どちらも資格を試験で取ることだけを指す。
エ　採取は必ず許可の前に終える。

（2）この「保持」と「保管」に合うものを選びなさい。

撮影中は人形を同じ姿勢に保持し、終わったら棚で保管した。

ア　保持は必ず一年以上続く。
イ　保管すると、撮影中の動作も終わらなくなる。
ウ　二語はどんな対象でも同じように使える。
エ　前者は姿勢を保つこと、後者は物を預かりしまっておくことに注目する。

（3）この「停止」と「中止」に合うものを選びなさい。

点検のため映像を停止したが、上映会は中止せず再開した。

ア　映像の動きを止めても、上映会そのものをやめたとは限らない。
イ　停止した映像は二度と動かせない。
ウ　中止しなかったので、点検もしていない。
エ　二語はいつでも全く同じ意味である。

（4）この「至る」と「致す」に合うものを選びなさい。

道は山頂に至る。係員は出発時刻をご案内致します。

ア　どちらも同じ字に直す必要がある。
イ　前者は相手に案内する、後者は道が届く意味である。
ウ　前者は届くこと、後者は「する」を改まって述べる使い方である。
エ　至るは人だけ、致すは道具だけに使う。

（5）「採用」を使い、何を選んで取り入れたかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「据える」を使い、何をどこに置くかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 代表が式の始まりを告げ、**カイカイ**した。	
(2) 封筒に**キッテ**を貼って送る。	
(3) 自分の筆記用具を**ジサン**する。	
(4) 記事を書くため、店で**シュザイ**した。	
(5) 初めの案に**コシツ**せず、別の方法も試す。	
(6) 物語では、町から悪を**ボクメツ**する計画が語られる。	
(7) 空箱を会場の外へ**ハンシュツ**した。	
(8) 二人で同じ答案を**サイテン**し、点数の違いを話し合った。	
(9) **ジュウライ**の方法と比べ、新案を試す。	
(10) 急ぎの用事を**シキュウ**伝えた。	
(11) 会場を探して各地を**ホンソウ**した。	
(12) 物語では、敵の旗を**ダッシュ**する。	
(13) 機械を動かす**クドウ**装置を調べた。	
(14) 舞台で高く**チョウヤク**する場面を撮る。	
(15) 食べ物から栄養を**セッシュ**する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 奔流	(17) 奪還	(18) 駆け足	(19) 据え置き	(20) 跳ぶ

この回を終えたら もう一度確かめる

動詞の対象は何ですか。前の動作で保っていた状態は、いつ終わりますか。
手順を読む時は、抜けた動作も考えてみましょう。

七　文章の中で考えよう

箱を離さない宅配便

画面の宅配ロボットは、箱のふたをじっと見ていた。映像クラブの莉子が「開く」の指示を追加する。動かない。もう一枚追加しても、箱を両手で抱えたままだ。撮影用ソフトの駆動音だけが、空しく続いている。莉子が執筆した喜劇の最初の場面だ。指示は「箱を持つ、台まで搬入する、ふたを開く」。ロボットは台に至ると停止した。相棒の岳はカードを一枚ずつ読み上げ、画面を指した。「今、手は何をしてる？」

このソフトでは、一度つかんだ物は「離す」と指示するまで保持する。物を持つ手と、ふたを開ける手も同時には使えない。手が空く条件と次の動作の条件が、合致していなかった。

「台に着いたら、普通は置くでしょう。」莉子は最初の指示に固執した。岳も、画面から箱を奪おうとして指を止める。人なら黙ってする動作でも、このソフトは指示を待つ。箱を台に据え、手を離してから開封すればよい。

二人は岳の案を採用し、指示のカードを切り分けた。箱を置く。手を離す。ふたを開く。品物を取る。並べた順に試すと、最後に空箱を搬出する場面までつながった。莉子は、待たされる客の表情に小さな間も足した。

次の場面では、警官が「逮捕だ」と叫ぶ。ロボットは、逃げる客も怪盗も追い始めた。「迷惑行為を撲滅せよ」だけでは、誰のどの動作を止めるか決まらない。今回は怪盗が箱を持ち去る場面だけを撮り、ほかの追跡は削ることにした。

休憩中、人が水分を摂取する横で、画面のロボットは跳ねて遊んでいた。打撲の心配はない。でも、何度も失敗を見ているこちらの目は疲れる。音楽探しに奔走した友人の尽力もあり、翌日には短い一本ができた。

上映後、客席から箱の中身を聞かれた。莉子は、そこだけ秘密だと答えた。次回作の案に従えば、中には指示を待つ小さなロボットがいる。岳が笑う。「今度は、どっちが命令を執行するの？」まだ切っていないカードが、机に一束残っていた。

人物・作品・撮影用ソフトの動作条件は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文にあるソフトの動作条件を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、何をするかを具体的に伝えることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）次の動作をするために満たす必要のある「ジョウケン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）最初にロボットがふたを開けられなかった理由を選びなさい。

ア　客が箱を開けることを禁止した。
イ　箱の中に怪盗が隠れていた。
ウ　箱を持ち続けて手が空かず、次の動作の条件を満たさなかった。
エ　台まで箱を運べなかった。

（4）「迷惑行為を撲滅せよ」という指示の問題点を選びなさい。

ア　誰のどの動作を止めるかが決まらず、追跡対象も絞れない。
イ　ロボットが迷惑という字を読めないと本文で説明している。
ウ　全ての客が怪盗と確定している。
エ　警官は喜劇に登場させられない。

（5）「開く」を繰り返さず、「置く」「離す」を加えた理由を、
ソフトの条件と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）最初の指示を直す説明を、「保持」「順序」を使って 70〜90 字で書きなさい。
台に着いた後から、中身を取るまでを扱います。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　操作と働きかけ

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　封を開くこと。封を切ったからといって、内容を公表したことにはならない。
（2）ア　物を持ったままにしたり、姿勢や状態などを保ったりすること。
（3）エ　目的のために力を尽くすこと。努力したことと、必ず成功したことは区別する。
（4）イ　文章を書くこと。手書きだけでなく、機器を使って文章を書く場合にも用いる。
（5）ア　外へ運び出すこと。搬入は中へ運び入れること。出入りする場所を確かめる。
（6）ウ　ある場所にしっかり置くこと。腰を据えるなどの使い方もある。

四　熟語を広げよう

（1）開封　（2）切断　（3）保持　（4）取得　（5）尽力
（6）執行　（7）打撲　（8）搬入　（9）採取　（10）停止
（11）従う　（12）至る　（13）逮捕　（14）合致

取得は資格や物などを手に入れること。採取は調べる材料などを取り集めること。搬入と搬出は、どこへの出入りかを確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　何を取るのかが異なる。ここでは許可を先に得て、その後に試料を集める。
（2）エ　保つという点は重なるが、この文では姿勢と、物を置いて管理する場面を読み分ける。
（3）ア　何を止めたかを確かめる。停止を一時的、中止を永久という違いだけで決めない。
（4）ウ　至るは行き着くこと。致すは至らせる意味のほか、するを改まっていう時にも使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

動きを比べた結果、二人で確認しやすい新しい撮影方法を採用した。

☆自分で確かめる点　何を、どのような理由で取り入れたかが分かるか。

（6）解答例

入口からも見やすいように、完成した人形を展示台の中央に据えた。

☆自分で確かめる点　物の置き場所や、しっかり置く様子が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）開会　（2）切手　（3）持参　（4）取材　（5）固執
（6）撲滅　（7）搬出　（8）採点　（9）従来　（10）至急
（11）奔走　（12）奪取　（13）駆動　（14）跳躍　（15）摂取
（16）ほんりゅう　（17）だっかん　（18）かけあし　（19）すえおき　（20）とぶ

（3）持参は自分で持っていくこと。（5）固執は、一つの考えなどにこだわること。（6）撲滅は、打ち滅ぼすこと。（12）奪取は奪い取ること。（17）奪還は、奪われたものを取り戻すこと。

七　文章の中で考えよう

（1）指示　このソフトに、どんな動作をするかを伝えている。「普通は置く」という暗黙の了解だけでは動かない。
（2）条件　本文では、手が空いているかなど、次の動作に必要な状態を指す。
（3）ウ　持ち続けた手では、同時にふたを開けられないという条件がある。
（4）ア　誰を何のために追うのかを指示から決められなかった。

七　記述問題の考え方

（5）　抜けていた二つの動作 45〜55 字

（5）解答例　52 字

箱は離すと指示するまで保持され、持つ手で同時にふたは開けられないので、台に置き手を空ける必要があるから。

（5）別解例　53 字

離すと指示するまで箱を持ち続け、持ったままではふたを開けられないので、台へ置いて手を空ける必要があるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 離すという指示まで保持する条件に触れたか。
② 持ったままでは、ふたを開ける手を使えない点を示したか。
③ 台に置き、手を空ける動作を加えた理由を結んだか。

全てのロボットに同じ条件があるとは言わない。この作品で使うソフトの条件に沿って説明する。

（6）　指示を直す説明 70〜90 字

（6）解答例　84 字

箱は離すという指示まで保持されるので、台に着くだけでは手が空きません。台に箱を置き、手を離し、ふたを開けてから中身を取る順序に直せば、次の動作に必要な条件を満たせます。

（6）別解例　85 字

箱を持つ手とふたを開ける手は同時に使えません。台で停止したら、保持している箱を台に据え、手を離し、ふたを開け、中身を取る順序にします。運ぶだけで置いたことにはなりません。

☆（6）自分で確かめる点

①「保持」「順序」を使ったか。
② 置く、離す、開く、取るの順を正しく示したか。
③ 手を空けることと、次の動作の条件を結んだか。

中身の正体や次回作の設定を補う必要はない。対象と状態の変化が分かる説明にする。

漢字から文章へ 第四冊

第九回

変化を進める

昔のすごろくを、三人で遊び直します。
一番に帰った人だけが、勝ちなのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

続	完	状	展
切れずにつながる	欠けずに終わる	ありさま 形	広げる 進む

干	朽	稚	黙
水分をなくす	古くなりくずれる	幼い 未熟な	言葉を出さない

いっしょに覚える漢字

特	豊	滋	継	拓	緊
渇	挫	漸	遷	顕	増

この回で読むお話

帰ってきても終わらない

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
続	ゾク つづく つづける	切れずにつながる 続く・継続・連続・続行	干	カン ほす ひる	水分をなくす／関わる 干す・干上がる・干潮・干渉
完	カン	欠ける所なく終わる 完成・完了・完全・完備	朽	キュウ くちる	古くなり崩れる 朽ちる・老朽・不朽・朽木
状	ジョウ	ありさま／形 状態・状況・現状・症状	稚	チ	幼い／未熟な 稚魚・幼稚・稚拙
展	テン	広げる／進み広がる 発展・展開・展示・進展	黙	モク だまる	声や言葉を出さない 沈黙・黙る・黙認・黙読

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
特	トク	ほかと異なる／とりわけ 特別・特徴・特定・独特	渇	カツ かわく	水分がなくなる／強く求める 渇く・枯渇・渇望
豊	ホウ ゆたか	多く満ちている 豊か・豊富・豊作・豊穣	挫	ザ くじく くじける	折る／途中で勢いを失う 挫折・捻挫・頓挫
滋	ジ	養い育てる／潤す 滋養・滋味・滋賀	漸	ゼン ようやく	少しずつ進む 漸進・漸次・漸く
継	ケイ つぐ	後を受けて続ける 継ぐ・継承・継続・後継	遷	セン うつる	場所や状態が移り変わる 変遷・遷移・遷都
拓	タク ひらく	土地や分野を切り開く 開拓・拓く・魚拓・干拓	顕	ケン あらわれる	はっきり現れる 顕著・顕在・顕彰
緊	キン	きつく締まる／差し迫る 緊急・緊張・緊密・緊迫	増	ゾウ ます ふえる ふやす	数や量が多くなる 増える・増加・増減

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「継承」に合うものを選びなさい。
ア　同じ人数を必ず保つこと　　イ　役目や技術などを受け継ぐこと
ウ　過去の形を一か所も変えないこと　　エ　量だけを増やすこと

(2)「完成」に合うものを選びなさい。
ア　次の作業を始めること　　イ　作業を途中で投げ出すこと
ウ　過去の姿を記録すること　　エ　作っていた物ができ上がること

(3)「朽ちる」に合うものを選びなさい。
ア　木などが古くなって崩れる　　イ　土を盛って高くする
ウ　水を満たす　　エ　急いで動き出す

(4)「枯渇」に合うものを選びなさい。
ア　音がなくなること　　イ　土地を耕すこと
ウ　水や資源などがなくなること　　エ　目に見えて増えること

(5)「漸進」に合うものを選びなさい。
ア　少しずつ段階を追って進むこと　　イ　過去へ必ず戻ること
ウ　一度で全てを変えること　　エ　方角を変えずに走ること

(6)「顕著」に合うものを選びなさい。
ア　誰にも見えないこと　　イ　はっきり目立つこと
ウ　変化が必ずよいこと　　エ　増える時だけ使うこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　特徴　状態　継承　朽ちる　継続　漸進　沈黙
干上がる　滋養　完成　開拓　稚魚　展開　豊富

文	解答	文	解答
(1) 同じ活動を□□する。		(8) 話し声が消え□□が続いた。	
(2) 作っていた物が□□した。		(9) ほかと異なる□□を探す。	
(3) 道具の今の□□を調べる。		(10) 経験の□□な人から話を聞いた。	
(4) 物語の□□を楽しみにする。		(11) 栄養となる□□に富む食事だ。	
(5) 水がなくなり池が□□□□。		(12) 技術を次の世代へ□□する。	
(6) 古い木が□□□様子を観察した。		(13) 新しい分野を□□する。	
(7) まだ幼い□□を見つける。		(14) 少しずつ前へ進む□□の方法を選ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「継続」と「継承」に合うものを選びなさい。

練習を継続しながら、先輩から受け継いだ技術を次の学年へ継承する。

ア　継続するなら、教える相手はいらない。
イ　継承すると、練習は必ず終わる。
ウ　活動を続けることと、技術を受け継ぐことが重なっている。
エ　二語はいつでも同じ対象にしか使えない。

（2）この「完成」と「完了」に合うものを選びなさい。

作品は完成した。応募の手続は、まだ完了していない。

ア　作品ができても、応募まで済んだとは限らない。
イ　作品はまだ一つもできていない。
ウ　完了していないので、作品の完成も誤りである。
エ　二つは必ず同時に起こる。

（3）「増加」と「発展」の読み取りに合うものを選びなさい。

部員は増加したが、道具が足りず、新しい活動への発展はこれからだ。

ア　人数が増えたので、活動も必ず充実した。
イ　部員は増えたが、活動が広がったとはまだ言えない。
ウ　発展しない活動では人数も数えられない。
エ　増加は必ず望ましくない変化である。

（4）この「沈黙」の受け取り方として適切なものを選びなさい。

新しい規則を提案すると、相手は黙って考え込んだ。

ア　賛成したことが確定した。
イ　反対したことが確定した。
ウ　規則を読んでいないことが確定した。
エ　声を出していないことは分かるが、賛否はこれだけでは決まらない。

（5）「挫折」を使い、何を目指す途中でくじけたかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「変遷」を使い、時間による移り変わりを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 雨がやんだので試合を**ゾッコウ**した。	
(2) 応募の手続を**カンリョウ**した。	
(3) 計画を立てる前に、**ゲンジョウ**を調べる。	
(4) 作品を会場に**テンジ**する。	
(5) 潮が最も引く**カンチョウ**の時刻を調べた。	
(6) 建物の**ロウキュウ**化が進んでいる。	
(7) まだ未熟だという意味で、**ヨウチ**な考えと評した。	
(8) 声を出さずに本を**モクドク**した。	
(9) 今日は誕生日なので、**トクベツ**な料理を作った。	
(10) 作物がよく実り、**ホウサク**となった。	
(11) 豆の料理の**ジミ**を味わった。	
(12) 発表の前に少し**キンチョウ**した。	
(13) 勝利を強く**カツボウ**する。	
(14) 二つの方法の差が**ケンチョ**に現れた。	
(15) 人数の**ゾウゲン**を月ごとに記録する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 緊密	(17) 漸次	(18) 遷都	(19) 黙認	(20) 増刊

この回を終えたら もう一度確かめる

数や量の変化と、内容の変化を分けてみましょう。
同じ物でも、何を終え、何を続けるかは違うことがあります。

七　文章の中で考えよう

帰ってきても終わらない

「勝った！」弟の駒が家のマスへ飛び込んだ。菜月の駒は、まだ川の向こうにいる。弟は両手を上げたまま、こちらを見た。終わった人は、これから何をするのだろう。

朝、祖母の家で見つけたすごろく「川めぐり」だ。朽ちかけた箱を修理して開くと、魚を描いた札が豊富に入っていた。川を一周して家へ戻る盤。「先に帰れば勝ち」と菜月が言うと、祖母は首をかしげた。「私たちは、旅で増えた物を見せ合ったよ。」

札には「池が干上がる。一回休み」「稚魚を逃がす。二つ進む」などとある。二人はまず、早く帰る競争を選んだ。一番を渇望していたし、追いつけるかという緊張も面白い。弟が帰ったあと、菜月は初めて止まったマスで、特別な橋の札を引いた。

家で待つ弟は退屈そうだった。菜月が遊びを続行すると、「もう終わった」と席を立つ。早く着くほど長く待つ。そんな特徴が、今度は顕著に現れた。

翌日、菜月は言った。「全員が帰ってから、旅の話をしよう。」

弟は家で待つ間、自分の札を順に並べる。菜月が戻ると、「枯渇した池に、なぜ大魚がいる」と笑い合った。盤を作り直さず、終わりの条件を一つ変えただけで、話の展開まで変わった。

菜月は規則の変遷をノートにまとめた。初日は競争、二日目は旅の発表会。同じ札でも、使う状況が違う。「昔の遊びを継承するなら、どっちが正しいの？」祖母は、昔は何周もした日があったと答えた。

完全に昔を再現しようとして、菜月は挫折しかけていた。少しずつ試す漸進の方法なら、できそうだ。楽しみを開拓しても、川のマスと魚の札は残る。おやつには、豆の滋味を味わった。祖母の皿にも、旅の途中の札が一枚置かれている。

「次は一番を決めるのと、話をするのと、どっち？」弟はしばらく沈黙してから、「競争して、そのあと話す」と言った。菜月は新しい紙を出す。すごろくの修理は完成したが、遊び方の相談は完了していない。祖母も、札を一枚引いた。

人物・すごろく・規則は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文にある二日間の遊び方を比べて答えなさい。

（1）本文から、互いに勝ち負けなどを争うことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）傷んだ所を直す「シュウリ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）二日目に変えたことを選びなさい。

ア　盤を新しく描き、全ての魚の札を捨てた。
イ　一番に着いた人だけが、旅の話をすることにした。
ウ　全員が帰った時に、旅の話をすることにした。
エ　先に帰った人は、必ずもう一周することにした。

（4）弟の最後の案の受け取り方として適切なものを選びなさい。

ア　競争だけを永久に禁止する案である。
イ　祖母が昔、必ず同じ規則で遊んだ証拠である。
ウ　初日の遊びが全て無意味だったと決める案である。
エ　競争の楽しさと、後で話す楽しさを組み合わせる案である。

（5）初日は席を立った弟が、二日目は旅の話を楽しめた理由を、
家で待つ時間の使い方と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）遊びを引き継ぐ方法を、「継承」「条件」を使って 70〜90 字で書きなさい。
本文の具体例と、遊ぶ人の希望を結びます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　変化を進める

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　前の人から役目や技術などを受け継ぐこと。形を変えるかは、この語だけでは決まらない。
（2）エ　作品や建物などができ上がること。完成後に手入れや改良が続く場合もある。
（3）ア　古くなり腐って崩れること。名が朽ちないのような、比喩的な使い方もある。
（4）ウ　水が尽きたり、資源などが乏しくなり尽きたりすること。渇望は強く望むこと。
（5）ア　少しずつ進むこと。変遷は時の経過とともに移り変わることを表す。
（6）イ　違いや特徴がはっきり目立つこと。よい変化に限らず、減少などにも使う。

四　熟語を広げよう

（1）継続　（2）完成　（3）状態　（4）展開　（5）干上がる
（6）朽ちる　（7）稚魚　（8）沈黙　（9）特徴　（10）豊富
（11）滋養　（12）継承　（13）開拓　（14）漸進

継続は切れずに続くこと、継承は前の人などから受け継ぐこと。変遷は移り変わり、漸進は少しずつ進むことに着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　一つの活動で両方が起こることもある。何を続け、何を受け継ぐかを確かめる。
（2）ア　作品ができ上がることと、手続が終わることを分けている。何が終わったかが異なる。
（3）イ　数の変化と、活動の内容や広がりを分ける。増えること自体のよしあしは条件による。
（4）エ　沈黙という状態から、気持ちや賛否を一つに決めつけない。返答を確かめる余地がある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

長い物語を書く途中で挫折したが、短い一話からもう一度始めた。

☆自分で確かめる点　取り組みの途中でくじけたという意味に合うか。

（6）解答例

古い写真を年代順に並べ、駅前の店や道の変遷を一枚の地図にした。

☆自分で確かめる点　何が時とともに移り変わったかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）続行　（2）完了　（3）現状　（4）展示　（5）干潮
（6）老朽　（7）幼稚　（8）黙読　（9）特別　（10）豊作
（11）滋味　（12）緊張　（13）渇望　（14）顕著　（15）増減
（16）きんみつ　（17）ぜんじ　（18）せんと　（19）もくにん　（20）ぞうかん

（6）老朽化は、古くなって傷んでいくこと。（11）滋味は、深い味わいや栄養のある味わい。（14）顕著は、はっきり目立つこと。（17）漸次は少しずつ。（18）遷都は、都を他へ移すこと。

七　文章の中で考えよう

（1）競争　二人は、まず早く家のマスへ帰ることを競った。その緊張も面白かったと書かれている。
（2）修理　朽ちかけた箱を直したこと。物が直っても、遊び方の相談は続いている。
（3）ウ　盤や札を作り直さず、終わり方を変えた。
（4）エ　弟は競争も楽しんだ。その上で、後に話す時間を加えようとしている。

七　記述問題の考え方

（5）　家で待つ時間の変化 45〜55 字

（5）解答例　52 字

初日は勝負が終わって待つだけだったが、二日目は自分の札を並べ、全員が帰った後に旅を話す準備ができたから。

（5）別解例　49 字

二日目は全員が帰って話すことが終わりの条件となり、弟も待つ間に札を並べ、後の発表を準備できたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初日の弟は勝負が終わり、待つだけだった点を示したか。
② 二日目は待つ間に札を並べていた点を示したか。
③ 全員が帰って旅を話すという終わり方と結んだか。

競争が必ず悪いとはしない。初日にも競争の緊張が面白かったことは本文に書かれている。

（6）　遊びを引き継ぐ方法 70〜90 字

（6）解答例　84 字

遊びを継承する時は、盤や札を残しながら、遊ぶ人の希望に合う条件を試してもよいと思います。全員が帰って旅を話す方法や、競争の後に話す案を比べ、何を楽しみたいか相談します。

（6）別解例　85 字

古い盤と魚の札を使い続けても、終わりの条件を変えると待つ時間や話す楽しみが変わります。継承を一つの形の再現に限らず、競争したい人の希望も聞き、皆で遊び方を選んでいきます。

☆（6）自分で確かめる点

①「継承」「条件」を使ったか。
② 盤や札を残し、終わり方などを変えた具体例と結んだか。
③ 競争したい希望も含め、遊ぶ人の相談する余地を残したか。

昔の唯一の正解が確定したとはしない。どちらの方法を勧めても、楽しみ方と理由を結ぶ。

漢字から文章へ 第四冊

第十回

人が集まる場

懐かしい声を流す、小さな部屋があります。
その笑い声まで、消さなくてよいのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

世	院	組	局
社会 時代	施設の名など	くむ まとまり	役所 区切った所
便	級	援	祉
都合がよい たより	段階 学校のくみ	助ける 支える	しあわせ

いっしょに覚える漢字

遊	常	込	催	逝	塾
酬	陪	棺	壇	淫	閲

この回で読むお話

笑い声を消さないで

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
世	セイ セ よ	人の生きる社会／時代 世・世代・世界・世間	便	ベン ビン たより	都合がよい／たより 便利・郵便・便宜
院	イン	建物や施設の名など 病院・学院・寺院	級	キュウ	段階／学校の組 学級・等級・上級・進級
組	ソ くむ くみ	組み合わせる／まとまり 組む・組織・組合・番組	援	エン	助ける／支える 支援・援助・応援・救援
局	キョク	区切られた所／役所や施設 郵便局・局面・当局・部局	祉	シ	しあわせ 福祉・社会福祉

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
遊	ユウ ユ あそぶ	楽しんで過ごす 遊ぶ・遊具・遊園・遊歩	酬	シュウ	働きに報いる 報酬・応酬・酬いる
常	ジョウ つね とこ	いつも／変わらない 日常・常設・通常・常時	陪	バイ	付き従う／そばにいる 陪席・陪審
込	こむ こめる	中へ入る／中へ入れる 申し込む・書き込む・込める	棺	カン ひつぎ	遺体を納める箱 棺・棺木・納棺・石棺
催	サイ もよおす	人を集めて行事を行う 開催・催し・主催・催促	壇	ダン タン	一段高くした場所 演壇・祭壇・壇上・花壇
逝	セイ ゆく いく	人が亡くなる 逝去・急逝・逝く	淫	イン みだら	度を越す／みだら 淫雨・淫ら
塾	ジュク	学問や技術を教える所 学習塾・私塾・塾生	閲	エツ	調べて見る 閲覧・検閲・閲歴

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「世代」に合うものを選びなさい。
ア　全員が同じ仕事をする集まり　　イ　住んでいる町の名前
ウ　同じ日に会場へ来た人だけ　　エ　ほぼ同じ時期に生まれ育った人々のまとまり

(2)「組織」に合うものを選びなさい。
ア　目的のために役割などを分けて作る集まりや仕組み　　イ　一人の気分だけで決まること
ウ　全員が同じ役割であること　　エ　集まった人数だけを表す語

(3)「便宜を図る」に合うものを選びなさい。
ア　郵便物を運ぶ　　イ　都合よくできるように取り計らう
ウ　全てを無料にする　　エ　手続を必ずなくす

(4)「支援」に合うものを選びなさい。
ア　相手に代わって希望を全て決めること　　イ　必ず金銭だけを渡すこと
ウ　力を貸して支えること　　エ　同じ作業を全員へ強いること

(5)「陪席」に合うものを選びなさい。
ア　主となる人に付き添うなどして、同じ席に加わること　　イ　会の費用を全て支払うこと
ウ　必ず議長として決定すること　　エ　会議を欠席すること

(6)「淫雨」に合うものを選びなさい。
ア　短時間の通り雨　　イ　長く降り続く雨
ウ　雪に変わる雨だけ　　エ　降る前に予報された雨だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　遊具　組織　開催　学級　世代　学習塾　福祉
便宜　申し込む　病院　逝去　支援　郵便局　常設

文	解答	文	解答
(1) 同じ時代に育った□□が集まる。		(8) 生活の安心を支える□□の仕事を学ぶ。	
(2) 診療を行う□□を訪ねる。		(9) 公園の□□で友達と遊んだ。	
(3) 役割を分担する□□を作る。		(10) 一年中ある□□の展示だ。	
(4) 手紙を出しに□□□へ行く。		(11) 講座に参加を□□□□。	
(5) 利用者の□□を図って案内を増やす。		(12) 講演会を□□する。	
(6) 学校で同じ□□に入った。		(13) 恩師の□□を静かに悼んだ。	
(7) 学習を支える□□を続ける。		(14) 放課後に□□□で学ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「主催」と「開催」に合うものを選びなさい。

交流館が主催し、音楽会を来週開催する。

ア　前者は時刻、後者は会場名だけを示す。
イ　主催するなら、準備はいらない。
ウ　前者は責任を持って会を行う主体、後者は催しを開くことを表す。
エ　開催した催しには主催者が存在しない。

（2）この「支援」の受け止め方に合うものを選びなさい。

聞き取りを支援するため、音量を選べる機器を用意した。

ア　支援する人が音量を必ず最大にする。
イ　相手が利用しやすいよう、選べる方法を用意している。
ウ　全員を同じ音量で聞かせることだけが支援である。
エ　支援を受ける人の希望は確かめてはいけない。

（3）この「閲覧」と「貸出し」に合うものを選びなさい。

この日記は館内で閲覧できるが、館外への貸出しはしていない。

ア　読めるなら、必ず持ち帰れる。
イ　借りられないので、誰も読めない。
ウ　閲覧は必ず映像だけに使う語である。
エ　館内で見ることと、借りて持ち出すことを分けている。

（4）この「報酬」と「交通費」に合うものを選びなさい。

講師には仕事の報酬と、会場へ来る交通費を別々に渡した。

ア　仕事への対価と、移動にかかった費用を分けている。
イ　交通費は必ず働いた時間に応じて決まる。
ウ　報酬は必ず交通費だけを意味する。
エ　二つを区別すると仕事への支払いはできない。

（5）「日常」を使い、ふだんの暮らしの場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「閲覧」を使い、何をどこで見るかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 病気のため、しばらく**ニュウイン**した。	
(2) 同じ目的で助け合う**クミアイ**を作った。	
(3) 本局とは別の、地方の**シキョク**へ連絡する。	
(4) 駅に近く、買い物にも**ベンリ**な場所だ。	
(5) 品物の品質を**トウキュウ**で分ける。	
(6) 活動を支えるため、**エンジョ**を申し出た。	
(7) 休日に**ユウエンチ**で遊んだ。	
(8) ノートの余白に、気づいたことを**カキコム**。	
(9) 交流館が音楽会を**シュサイ**した。	
(10) 昔、町で学ぶための**シジュク**が開かれた。	
(11) 働いた対価として**ホウシュウ**を受け取る。	
(12) 館長を補助するため、会議に**バイセキ**した。	
(13) 物語で、故人を納めた**ヒツギ**を見送った。	
(14) 講演者が**エンダン**に立つ。	
(15) 長く降り続く**インウ**の日々が描かれている。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 寺院	(17) 登壇	(18) 検閲	(19) 郵送	(20) 便り

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ世代や集まりでも、希望は一人ずつ違うことがあります。
誰の希望を、どのように確かめたかにも目を向けましょう。

七　文章の中で考えよう

笑い声を消さないで

「柚、そこは切る？」友人が、祖父の笑い声の始まりに印を付けた。私は黙ってうなずいた。交流館に、町の声を聞く小部屋ができる。私の学級も番組づくりを手伝っていて、昨年逝去した祖父の録音を持ち寄ったのだ。

生前、館で使ってよいと祖父が託した録音だった。棺を見送った日から、この声を人前で聞くのは初めて。学習塾の帰りに聞いた友人は、「記念なら、笑う所は切った方が厳粛かな」と言った。私もそう思ったのに、削ってみると、話の終わりに妙に長い沈黙ができた。

祖父は、まだ開かない郵便局へ一番乗りした話をする。早起きを自慢したあと、時計を一時間読み違えたと笑う。次は、淫雨が続き、遊具で遊べなかった子どもの頃の話。日常の小さな出来事ばかりで、立派な業績の話ではない。

笑い声のない祖父は、何か言い忘れているように聞こえた。

準備の委員会には、館長を補助する福祉の職員も陪席した。病院で長く過ごした人が、見舞いの人は真面目な話だけを選び、好きな冗談を聞けなくなったと話す。別の人は、亡くなった家族の声を今は聞けないと言った。同じ世代でも、希望は一つではなかった。

演壇から全員へ流す案はやめた。常設の小部屋で、聞きたい人が選ぶ。入口には話題と長さを書き、音量も変えられる。日記を閲覧する棚には長雨という語の説明を添え、会を開催する組織の担当者が利用の便宜を整えていった。

音の調整には仕事の報酬が出る。私たちは、利用に申し込む人の案内を担った。祖父の声は笑い声を残した版にした。でも、勧められても断ってよいと案内の最後に書く。支援するのは、みんなを同じ気持ちにすることではないのだろう。

開室の日、私は最初の番組を選んだ。祖父が一時間早かったと告白すると、隣の椅子の人も笑った。私も少し笑う。次を聞くかは、まだ決めていない。入口の札を裏返し、ひと休みして外へ出た。廊下では、友人が濡れた傘を畳んでいた。

人物・録音・施設は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

人物の希望と、選べるようにした方法を結んで答えなさい。

（1）本文から、声などの音を記録して残すことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）話の内容や題材を表す「ワダイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）録音の笑い声を削った時に起きたことを選びなさい。

ア　祖父の業績についての新しい話が見つかった。
イ　話の終わりに、妙に長い沈黙ができた。
ウ　録音の内容が、全員へ聞かせられるようになった。
エ　郵便局の開く時刻が変わった。

（4）小部屋を選んで聞く形にした理由に合うものを選びなさい。

ア　聞きたい話や、今聞けるかどうかは人によって違うから。
イ　同じ世代なら好きな話も必ず同じだから。
ウ　祖父の声を聞くことを全員に義務づけるため。
エ　録音には悲しい話を一切含めてはいけないから。

（5）笑い声を残しても、全員に聞くよう勧め続けない理由を、委員会で出た二つの希望と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）小部屋の案内を、「選ぶ」「支援」を使って 70〜90 字で書きなさい。利用方法と、今は聞かない選択も伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　人が集まる場

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　年齢の近い人々のまとまりなどを表す。同じ世代でも、経験や希望は一人ずつ違う。
（2）ア　人や部分が一定の関係を持つまとまり。ここでは役割を分けた人の集まりを指す。
（3）イ　相手が利用しやすいように取り計らうこと。条件や手続を一切なくすこととは限らない。
（4）ウ　人や活動を支えること。何が必要か、相手がどうしたいかを確かめる場合もある。
（5）ア　主な人などと同席すること。この場面では、館長を補助して委員会に加わっている。
（6）イ　長く降り続く雨。淫の字には度を越すという意味があり、この語では長雨を表す。

四　熟語を広げよう

（1）世代　（2）病院　（3）組織　（4）郵便局　（5）便宜
（6）学級　（7）支援　（8）福祉　（9）遊具　（10）常設
（11）申し込む　（12）開催　（13）逝去　（14）学習塾

福祉は人々のしあわせや、安心して暮らせるよう支えることに関わる語。逝去は人が亡くなることを敬っていう。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　誰が中心となって行うかと、会を開くことを読み分ける。一つの催しで両方を使える。
（2）イ　利用する人の選択を助ける例。支援の方法は、目的や必要に合わせて考える。
（3）エ　どの場所でどんな利用ができるかを確かめる。閲覧できる範囲は、公開の条件などによる。
（4）ア　金銭を渡す目的を読み分ける。この文では、仕事への対価と移動の費用を区別している。

五　自分で書く問題

（5）解答例

朝に隣の人と挨拶を交わすことが、私たちの日常の一部になった。

☆自分で確かめる点　特別な行事ではなく、ふだんの暮らしに合うか。

（6）解答例

図書館の閲覧室で昔の新聞を読み、町に映画館があった時期を調べた。

☆自分で確かめる点　見る資料や場所が分かり、持ち出すことと混同していないか。

六　短文で使ってみよう

（1）入院　（2）組合　（3）支局　（4）便利　（5）等級
（6）援助　（7）遊園地　（8）書き込む　（9）主催　（10）私塾
（11）報酬　（12）陪席　（13）棺　（14）演壇　（15）淫雨
（16）じいん　（17）とうだん　（18）けんえつ　（19）ゆうそう　（20）たより

（5）等級は、程度などで分けた段階。（7）遊園地は遊ぶ施設のある場所。（8）は送り仮名も含めて書く。（12）陪席は、主な人などと同じ席に加わること。（13）は「ひつぎ」、（15）は「いんう」。

七　文章の中で考えよう

（1）録音　音を記録することや、その記録。祖父は生前、館で使ってよいと託していた。
（2）話題　どんな内容の話かということ。入口で長さとともに確かめ、聞くものを選べる。
（3）イ　柚は、笑い声を消した後の不自然な間に気づいた。
（4）ア　笑いたい希望も、今は聞けない気持ちも、どちらも語られている。

七　記述問題の考え方

（5）　希望を一つにしない理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

冗談を聞きたい人がいる一方、亡くなった家族の声を今は聞けない人もいて、同じ内容を全員には勧められないから。

（5）別解例　51 字

真面目な話だけでなく冗談を望む人と、家族の声を今は聞けない人がおり、聞く希望を一つに決められないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 冗談を聞きたかった人の希望を示したか。
② 亡くなった家族の声は今は聞けない人もいた点を書いたか。
③ 笑い声を残す判断と、全員に聞かせる判断を分けたか。

笑えば必ず悲しみが消える、聞かない人は思い出を大切にしていない、などとはしない。

（6）　小部屋への案内 70〜90 字

（6）解答例　85 字

入口の話題と長さを見て、聞きたい番組を選ぶことができます。音量も調整できるよう支援します。笑い声も含む町の日常の録音ですが、今は聞かない、途中で休むという選択もできます。

（6）別解例　86 字

町の人の声を聞く小部屋です。話題と長さを確かめて選ぶことができ、音量の調整も支援します。懐かしい声を今は聞きたくない時は、利用を断ってかまいません。ご自分のペースでどうぞ。

☆（6）自分で確かめる点

①「選ぶ」「支援」を使ったか。
② 話題と長さ、音量などの具体的な利用方法を伝えたか。
③ 聞かない、休むなど、利用する人が決める余地を残したか。

個人の事情を勝手に案内へ載せる必要はない。利用を勧める場合も、断れることを伝える。

漢字から文章へ 第四冊

第十一回

裁きと統治

王さまは、静かに昼寝をしたいのです。
その願いを命令にしたら、町まで変わり始めました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

王	仕	副	犯
国を治める人	仕事をする つかえる	主なものに添う	法や規則にそむく

戒	囚	帥	鋭
注意してつつしむ	捕らえられた人	軍などを率いる人	先がとがる すぐれる

いっしょに覚える漢字

盗	却	刃	排	脅	征
粛	拷	賊	懲	覇	覆

この回で読むお話

王さまの昼寝

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
王	オウ	国を治める人 王・王権・国王・王国	戒	カイ いましめる	注意して慎む／いましめる 警戒・戒め・戒律・自戒
仕	シ ジ つかえる	仕事をする／そばで働く 仕える・仕事・奉仕・仕組み	囚	シュウ とらわれる	捕らえられた人 囚人・死囚・虜囚・幽囚
副	フク	主なものに添う 副官・副業・副作用・正副	帥	スイ	軍などを率いる人 元帥・統帥・総帥
犯	ハン おかす	法や規則にそむく 犯罪・犯人・犯す	鋭	エイ するどい	先がとがる／感覚がすぐれる 鋭い・鋭利・精鋭・鋭敏

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
盗	トウ ぬすむ	人の物をひそかに取る 盗む・盗難・強盗・窃盗	粛	シュク	つつしむ／引き締める 厳粛・自粛・粛清
却	キャク	退ける／逆に 却下・返却・退却	拷	ゴウ	打つ／責める 拷問・拷訊
刃	ジン は	物を切る鋭い部分 刃物・白刃・刀刃	賊	ゾク	害を与える者／盗人 盗賊・海賊・賊軍・賊徒
排	ハイ	外へ押し出す／並べる 排除・排出・排水・排斥	懲	チョウ こりる こらす	こらしめる／過ちを戒める 懲罰・懲戒・懲りる・懲役
脅	キョウ おびやかす おどす	力でおどす 脅迫・脅威・脅す・威脅	覇	ハ	力で支配する／勝者 覇権・制覇・連覇
征	セイ	遠くへ討ちに行く／従わせる 征服・遠征・出征・征討	覆	フク おおう くつがえす	上からおおう／反対にする 覆す・覆う・転覆・覆面

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「副官」に合うものを選びなさい。
ア　国を治める王そのもの　　イ　司令官などを補佐する役目の人
ウ　必ず主役より年下の人　　エ　捕らえられている人

(2)「戒め」に合うものを選びなさい。
ア　行動を必ず褒める言葉　　イ　借りた物を返すこと
ウ　過ちや危険を避けるための注意や教え　　エ　物を切る部分

(3)「却下」に合うものを選びなさい。
ア　申し出や案を取り上げず退けること　　イ　預かった物を持ち主へ返すこと
ウ　意見を詳しく調べ続けること　　エ　全員の申し出を受け入れること

(4)「脅威」に合うものを選びなさい。
ア　必ず言葉で脅す行為だけ　　イ　味方を助ける約束
ウ　優勝して得る賞品　　エ　人や物を脅かす力や存在

(5)「厳粛」に合うものを選びなさい。
ア　にぎやかに走り回ること　　イ　おごそかで引き締まった様子
ウ　力で領土を広げること　　エ　相手の物を密かに取ること

(6)「覆す」に合うものを選びなさい。
ア　上から布などで包む　　イ　同じ状態を保つ
ウ　それまでの決定や考えなどをひっくり返す　　エ　相手の言葉をそのまま写す

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　盗難　副官　排除　囚人　国王　征服　鋭利
警戒　刃物　仕える　脅迫　元帥　犯罪　却下

文	解答	文	解答
(1) 国を治める □□が登場する。		(8) よく切れる □□な道具を使う。	
(2) 若い時から王に □□□武士だ。		(9) 物を盗まれる □□に遭う。	
(3) 司令官を補佐する □□が報告した。		(10) 申し出は取り上げず □□された。	
(4) 法に反する □□を防ぐ。		(11) 物を切る □□をしまう。	
(5) 危険に備え □□を強める。		(12) 条件から不要な項目を □□する。	
(6) 自由を制限された □□の訴えを聞く。		(13) 力でおどす □□を受けた。	
(7) 物語の軍を率いる □□が来た。		(14) 物語の王は、他国を 武力で□□した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「却下」と「返却」に合うものを選びなさい。

申込みは却下されたが、預けた原稿は返却された。

ア　申込みを断り、預かった原稿を返した。
イ　申込みも原稿も受け入れた。
ウ　原稿の内容が全て嘘だと証明された。
エ　二つとも物を冷やすことを表す。

（2）この「脅威」と「脅迫」に合うものを選びなさい。

大波は船への脅威だ。一方、金を出せと相手を脅す行為を脅迫という。

ア　大波が言葉で金を要求している。
イ　二つとも必ず自然現象である。
ウ　前者は脅かす存在、後者は脅して従わせようとする行為に着目する。
エ　脅威には人や物は含まれない。

（3）この「征服」と「遠征」に合うものを選びなさい。

軍は隣国を征服した。競技の選手たちは、遠征先で試合をした。

ア　遠征した選手は、必ず相手の国を支配した。
イ　前者は他を力で従わせること、後者は遠くへ出向くことに着目する。
ウ　征服も遠征も、いつでも同じ意味である。
エ　征服は試合に出る時だけ使う。

（4）この「覆す」の読み取りに合うものを選びなさい。

新しい根拠が見つかり、前の判断を覆した。

ア　布を掛けて判断を隠した。
イ　最初の判断が必ず正しいと決めた。
ウ　新しい根拠を全て排除した。
エ　根拠に照らして、それまでの判断を変えた。

（5）「自戒」を使い、自分の行動をどう改めるかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「鋭い」を使い、物の形や気づきのよさを表す一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 物語の**オウコク**では鐘が時刻を知らせる。	
(2) 今日の**シゴト**を終えた。	
(3) 本の題名の下に、内容を補う**フクダイ**を付けた。	
(4) 物語で、探偵が**ハンニン**を捜す。	
(5) 借りた原稿を持ち主に**ヘンキャク**する。	
(6) 式は**ゲンシュク**な雰囲気で進んだ。	
(7) 物語の王国では、**ゴウモン**が禁じられている。	
(8) 宝を盗む**トウゾク**が物語に登場する。	
(9) 規則に背いた人への**チョウバツ**について話し合う。	
(10) 全国の大会を勝ち抜き、**セイハ**した。	
(11) 物語の人物が、顔を隠す**フクメン**を着けた。	
(12) 物語で、抜き放った**ハクジン**が光った。	
(13) 雨水を外へ出す**ハイスイ**の設備を調べる。	
(14) 大波は小さな船への**キョウイ**となる。	
(15) 選手は、遠くの会場へ**エンセイ**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 厳命	(17) 山賊	(18) 懲戒	(19) 覇権	(20) 刀身

この回を終えたら もう一度確かめる

誰が誰へ、何のために命令していますか。
命令する力と、その命令が必要な理由を分けて考えましょう。

七　文章の中で考えよう

王さまの昼寝

国王のおわびを見ようと、町の人がパン屋の前に集まった。王は、口を開きかける。

すると通りの子が言った。「城の外まで聞こえる、いびきも何とかして。」副官は、書きかけの紙をもう一枚出した。

事の始まりは、元帥を遠征から迎える式だった。王は居眠りをした。昨夜、城下の鐘が気になり眠れなかったのだ。式が終わると、「わしの昼寝を妨げる者を排除せよ」と命じた。副官は、何をどこまで禁じるのかと尋ねたが、王はもう目を閉じていた。

翌日、城に仕える兵は町の鐘を止めた。昼を知らせる音がなくなり、仕事を終える時刻が分からない。鍛冶屋の音も禁じられ、鋭い刃の道具を修理できなくなった。王だけは、静かになったと満足していた。

パン屋が、「客を呼ぶだけで犯罪なのか」と抗議した。兵は命令を盾に、囚人にするぞと脅す。この国は拷問を禁じているのに、ただうるさいという理由で懲罰を与えてよいのか。副官は抗議を却下せず、王へ届けた。

「盗賊への警戒と、鐘への注文は違います。」王は、他国を征服した覇者の像を指した。「王には国を動かす力がある。」

副官は答える。「力があるかではなく、何のために使うかを伺っています。」

厳粛な顔の元帥も、町の不便を報告した。王は意外そうだった。自分の願いがこんな所まで及ぶとは。「では、昼の一時間だけなら？」それでも、その時間に知らせの鐘や仕事が必要な人はいると、副官は返した。

王は命令を覆し、昼寝の部屋を城の奥へ移すよう頼んだ。鐘の鳴らし方は町の代表とも相談する。パン屋を盗賊のように扱った兵には、王の命令だから何でもよいわけではないと戒めた。副官は黙らなかった。「王さまからも、謝ってください。」

こうして王は、パン屋の前に立っている。札には「大声の呼び込み休止。国王のおわび、本日限り」。通りの子のいびきの注文に、王は今度こそ目を開いた。昼寝のための相談は、まだ終わりそうになかった。

国・人物・命令・決まりは、本教材のための創作です。実在する国の制度や法手続の説明ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文の命令と、町に起きたことを結んで答えなさい。

（1）暮らしや仕事に支障があることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）反対の意見や不服を申し立てる「コウギ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）「昼の一時間だけ」という案にも副官が返答した理由を選びなさい。

ア　一時間では王が全く眠れないから。
イ　元帥が鐘を全て持ち帰ったから。
ウ　王の命令なら、理由は一切いらないから。
エ　短時間でも、鐘や仕事を必要とする人がいるから。

（4）王と副官の会話の違いに合うものを選びなさい。

ア　二人とも、力があれば目的を問わなくてよいと考えた。
イ　王は力があることを述べ、副官は力を使う目的を尋ねた。
ウ　副官は、全ての音を必ず禁止するよう求めた。
エ　王は初めから町への影響を全て予測していた。

（5）副官が、力の有無でなく使う目的を尋ねた理由を、
王の願いと町への影響を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）副官の立場で王への提案を、「命令」「相談」を使って 70〜90 字で書きなさい。
昼寝と町の暮らしの両方を考えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　裁きと統治

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　主となる人を補佐する役目。副という字は、主なものに添うことを表す。
（2）ウ　過ちをしないよう注意することや、その教え。自分へ向ける場合には自戒ともいう。
（3）ア　申し出などを退けること。その人の全ての意見が誤りだと決まるわけではない。
（4）エ　安全などを脅かす力や存在。脅迫は、脅して相手を従わせようとする行為に着目する。
（5）イ　おごそかで、気持ちや場が引き締まった様子。怖さや残酷さそのものを表す語ではない。
（6）ウ　それまでの決定や見方を変えること。覆うと読む時は、上からかぶせる意味になる。

四　熟語を広げよう

（1）国王　（2）仕える　（3）副官　（4）犯罪　（5）警戒
（6）囚人　（7）元帥　（8）鋭利　（9）盗難　（10）却下
（11）刃物　（12）排除　（13）脅迫　（14）征服

王権は王の権力、覇権は他を支配する強い力や地位。権力があることと、その行使が妥当なことを同じにしない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　申し出を退けることと、物を返すことを区別する。却の字を含んでも語の意味は異なる。
（2）ウ　危険な存在と、脅す行為を読み分ける。特定の法が定める要件の説明ではない。
（3）イ　遠征は遠くへ行くことで、軍隊にも競技などにも使う。征服は力で従わせる点に注目する。
（4）エ　覆すこと自体のよしあしは理由による。最初の決定を守ることだけが正確さではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

相手の説明を途中で遮ったことを自戒し、次は最後まで聞こうと決めた。

☆自分で確かめる点　相手への非難ではなく、自分への戒めになっているか。

（6）解答例

友人の鋭い指摘で、同じ人数でも待つ時間が違うことに気づいた。

☆自分で確かめる点　先のとがりや感覚のすぐれた様子など、語の意味に合うか。

六　短文で使ってみよう

（1）王国　（2）仕事　（3）副題　（4）犯人　（5）返却
（6）厳粛　（7）拷問　（8）盗賊　（9）懲罰　（10）制覇
（11）覆面　（12）白刃　（13）排水　（14）脅威　（15）遠征
（16）げんめい　（17）さんぞく　（18）ちょうかい　（19）はけん　（20）とうしん

（3）副題は、主な題名を補う題。（7）は「ごうもん」、（12）は「はくじん」。（13）排水は水を外へ出すこと。（15）遠征は、競技などのため遠くへ出向くこと。

七　文章の中で考えよう

（1）不便　元帥が報告した町の不便。鐘の知らせや道具の修理がなくなり、暮らしが妨げられた。
（2）抗議　パン屋は、自分の呼びかけを犯罪のように扱うことへ不服を申し立てた。
（3）エ　時間を短くするだけでは、その時間に必要な働きまで守れるとは限らない。
（4）イ　権力を持つことと、その使い方が妥当なことは別の問いである。

七　記述問題の考え方

（5）　力を使う目的 45〜55 字

（5）解答例　51 字

王が眠りたいという願いのために、鐘や仕事が止まり、町の暮らしまで妨げられており、命令の理由を問うため。

（5）別解例　50 字

王に力があっても、昼寝のため町の知らせや仕事まで止める必要があるかは別で、目的と影響を考え直すため。

☆（5）自分で確かめる点

① 王の目的が自分の昼寝だった点を示したか。
② 鐘や修理など、町の暮らしへの影響を書いたか。
③ 力があることだけでは、その使い方の理由にならない点と結んだか。

全ての命令や静かにする配慮を否定する問題ではない。本文でどんな影響が出たかを根拠にする。

（6）　副官から王への提案 70〜90 字

（6）解答例　81 字

町の音を禁じる命令は、知らせや仕事を止めます。昼寝の部屋を移し、鐘の必要な時刻や鳴らし方は町の人と相談しましょう。困っている人の話を聞き、王からも謝ってください。

（6）別解例　85 字

昼寝のために町の人を脅す命令はやめてください。部屋を静かな場所へ移し、鐘が必要な人や仕事をする人と相談して方法を考えましょう。影響を受けた人には王自身も謝ってほしいです。

☆（6）自分で確かめる点

①「命令」「相談」を使ったか。
② 町の知らせや仕事への影響を具体的に示したか。
③ 部屋の移動などの案と、町の人との相談を結んだか。

他の提案も、昼寝と暮らしの両方を考える理由があればよい。王が既に謝り終えたと本文を変えない。

漢字から文章へ 第四冊

第十二回

生産と流通

同じ豆なのに、小さい袋は割高です。
それでも、その袋を選ぶ人がいるのはなぜでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

利	買	産	畑
役に立つ もうけ	代金を払って得る	生み出す 作る	作物を育てる土地

賃	銭	賄	賓
働きや借用への代金	お金 貨幣	費用などを用意する	大切な客

いっしょに覚える漢字

助	効	招	囲	射	払
培	剰	蓄	廉	舷	商

この回で読むお話

小さい袋を選ぶ理由

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
利	リ きく	役に立つ／もうけ 利益・利用・有利・利息	賃	チン	働きや借用への代金 賃金・家賃・運賃
買	バイ かう	代金を払って手に入れる 買う・購買・売買・買収	銭	セン ぜに	お金／貨幣 金銭・銭・小銭・銭湯
産	サン うむ うまれる	生み出す／作る 生産・産業・産地・出産	賄	ワイ まかなう	費用などを用意する 賄う・賄賂・賄い
畑	はた はたけ	作物を育てる土地 畑・畑作・田畑・麦畑	賓	ヒン	大切な客 来賓・国賓・主賓

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
助	ジョ たすける たすかる すけ	力を貸して支える 助ける・援助・補助・助言	培	バイ つちかう	育てる／土を寄せる 栽培・培う・培養
効	コウ きく	働きが現れる 効果・効率・有効・効く	剰	ジョウ	必要分より余る 余剰・過剰・剰余
招	ショウ まねく	人を呼ぶ／結果を引き起こす 招く・招待・招致・招集	蓄	チク たくわえる	ためておく 貯蓄・蓄える・備蓄・蓄積
囲	イ かこむ かこう	周りを取り巻く 囲む・囲い・包囲・範囲	廉	レン	値が安い／心が清い 廉価・清廉・廉潔
射	シャ いる	矢や光を放つ 日射・放射・射る・注射	舷	ゲン	船の側面 舷側・右舷・左舷
払	フツ はらう	外へ除く／代金を渡す 払う・支払う・前払い・振り払う	商	ショウ あきなう	品物を売り買いする 商売・商店・商品

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「利益」に合うものを選びなさい。
ア　売上げの金額全て　　イ　袋に入れた豆の重さ
ウ　収入から費用を引いた後に残るもうけ　　エ　売れなかった商品全て

(2)「賃金」に合うものを選びなさい。
ア　雇われて働くことに対して支払われる金銭　　イ　何かを借りる時の費用全て
ウ　手元に残った商品の数　　エ　客を招くための言葉

(3)「賄う」に合うものを選びなさい。
ア　全ての費用を隠す　　イ　代金を必ず値引きする
ウ　品物を周囲に並べる　　エ　必要な費用や物などを用意して足りるようにする

(4)「余剰」に合うものを選びなさい。
ア　必要な量に足りない分　　イ　必要な分を超えて余ったもの
ウ　生産した物の全て　　エ　必ず捨てるよう決まった物

(5)「廉価」に合うものを選びなさい。
ア　値段が安いこと　　イ　品物の量が少ないことだけ
ウ　代金を受け取らないことだけ　　エ　品質が悪いことと同じ

(6)「舷側」に合うものを選びなさい。
ア　船の進む先の空　　イ　港へ向かう陸の道
ウ　船の左右の側面　　エ　船の中にある商品全て

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　補助　生産　囲い　金銭　利益　支払う　来賓
賃金　招待　購買　日射　賄う　畑作　効率

文	解答	文	解答
(1) 収入から費用を引いた□□を考える。		(8) 式に招いた□□を迎える。	
(2) 品物を買い入れる□□の量を調べる。		(9) 作業を助ける□□を受ける。	
(3) 必要な品物を□□する。		(10) 手間と成果を比べ□□を考える。	
(4) 畑で作物を育てる□□を営む。		(11) 客を店へ□□する。	
(5) 働いた対価の□□を支払う。		(12) 周りに木の□□を設ける。	
(6) 持ち歩く□□は必要な分にする。		(13) 太陽からの□□が強まる。	
(7) 会費で会場費を□□。		(14) 代金を店に□□□。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「生産」と「栽培」に合うものを選びなさい。

畑で豆を栽培し、その豆から加工食品を生産する。

ア　栽培は植物を育てること、生産は必要な物などを作り出すことを広く表す。
イ　生産は工場の機械だけが行う。
ウ　栽培した豆は生産物には含まれない。
エ　二つとも代金を払うことだけを意味する。

（2）この「余剰」と「貯蓄」に合うものを選びなさい。

余剰の材料を次の制作に回し、利益の一部は将来のために貯蓄した。

ア　余剰は必ずお金、貯蓄は必ず材料だけを指す。
イ　二つとも何も考えず放置することである。
ウ　前者は必要分を超えた材料、後者は意図して金銭をためることを表す。
エ　余剰があれば利益も同じ額になる。

（3）この「廉価」の受け取り方に合うものを選びなさい。

一袋の価格は小袋が安いが、同じ重さ当たりでは大袋が廉価だ。

ア　大袋は必ず誰にとっても適している。
イ　比べる単位が違うので、二つの説明は両立する。
ウ　安い袋は重さを比べられない。
エ　小袋を買う人は必ず計算を間違えている。

（4）この「賄う」と「支払う」に合うものを選びなさい。

売上げで包装費を賄い、袋の代金を業者に支払った。

ア　どちらも品物を無償で渡すこと。
イ　前者は業者へ渡す、後者はお金を用意する意味である。
ウ　賄えたなら、代金を渡す必要はない。
エ　前者は費用を用意すること、後者は相手へ代金を渡すことに着目する。

（5）「助言」を使い、どんな考えや言葉を受けたかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「蓄える」を使い、何を何のためにためるかを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 相手より条件がよく、こちらに**ユウリ**な場面だ。	
(2) 店での品物の**バイバイ**について学ぶ。	
(3) 豆の**サンチ**を地図で確かめた。	
(4) 村の周りに**タハタ**が広がる。	
(5) 荷物を運ぶ**ウンチン**を調べた。	
(6) 細かな支払いのため、**コゼニ**を用意した。	
(7) 国が正式に招いた**コクヒン**を迎えた。	
(8) この道具は作業の改善に**ユウコウ**だ。	
(9) 会場の**シュウイ**を歩いて確かめる。	
(10) 畑で豆を**サイバイ**する。	
(11) 必要な分を超えた**ヨジョウ**の材料を保管する。	
(12) 将来のため、収入の一部を**チョチク**した。	
(13) 同じ量なら、こちらの方が**レンカ**だ。	
(14) 船の左右の側面を表す**ゲンソク**という語を調べた。	
(15) 祖父は町で**ショウバイ**を営んでいる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 備蓄	(17) 清廉	(18) 右舷	(19) 商品	(20) 賓客

この回を終えたら もう一度確かめる

一袋の価格と、同じ重さ当たりの価格を分けて比べましょう。
何が安いかだけでなく、使う人が何を必要としているかも考えます。

七　文章の中で考えよう

小さい袋を選ぶ理由

「百グラムだけ使うので、小袋を。」最初の客に、真帆は大袋を勧めた。目の前の札にも「大袋がお得」とある。客は笑った。「同じ量なら安いね。でも、今日は使う分だけ買いたいんだ。」真帆は、小袋を持つ手を止めた。

島の畑で栽培した豆を、港の商店で売る日だ。準備の時、真帆は売り場づくりを手伝った。日射を遮る囲いの内側にも畑がある。生産した豆が町へ届くのを楽しみにする農家の人を、開店の日には来賓として招くことになっていた。

港では、船の舷側を背景に豆を運んだ人の写真を撮った。買う人に支払ってもらう金銭で、栽培や運搬の費用を賄う。袋詰めや販売の賃金も必要だ。売上げの全てが利益ではないと聞き、真帆はノートへ項目を書き足した。

二種類の袋

袋	一袋の量	一袋の価格
小袋	100g	300 円
大袋	200g	500 円

同じ豆でも、小袋二つなら六百円、大袋一つなら五百円。同じ二百グラムで比べると、大袋の方が百円安く、廉価だ。だから「お得」と書いたのだった。でも今の客は、百グラムあれば足りる。小袋なら三百円で済む。

同じ量での安さと、今日払う額は違っていた。

店主の助言で、札には二つの価格を並べ、使う量も聞くことにした。袋一枚の費用は、量によらず八十円。小分けを増やせば包装の費用はかかる。それでも小袋を必要とする人はいる。効率のため、大袋だけにすればよいとは限らない。

材料の余剰を減らす工夫と、客の都合を両方考える。利益の一部は次の畑仕事に備えて蓄えるが、額はまだ計算していない。真帆は袋代だけで決めかけたノートを閉じた。ほかの費用も、まだ確かめる必要がある。

午後、最初の客が友人を連れてきた。「今度は皆で作るので、大袋を二つ。」真帆は、どちらにも同じ豆が入っていると伝えた。友人は棚を眺める。「百五十グラムの袋はないの？」真帆は相談用の紙を出した。新しい袋の値段を書くには、まだ空欄が多かった。

人物・店・商品・価格・費用は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と表を根拠に、比べる量や費用を確かめて答えなさい。

（1）本文から、物を作ったり運んだりするのに必要なお金を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）品物を包んだり袋へ入れたりする「ホウソウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）表の価格の比べ方として正しいものを選びなさい。

ア　大袋は 100g 当たり 300 円である。
イ　小袋二つは大袋一つより 100 円安い。
ウ　同じ 200g なら大袋が 100 円安いが、一袋の支払額は小袋が少ない。
エ　小袋一つと大袋一つの豆の量は同じである。

（4）利益について、本文から言えることを選びなさい。

ア　袋代だけを引けば、利益が全て分かる。
イ　小袋一つの利益は必ず 220 円である。
ウ　売上げが増えれば、費用は必ずなくなる。
エ　袋代のほか、栽培や運搬、賃金などの費用も確かめる必要がある。

（5）最初の客が大袋でなく小袋を選んだ理由を、使う量と支払う額を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）売り場の案内を、「量」「価格」を使って 70〜90 字で書きなさい。二種類を同じ量で比べつつ、客が選べるように伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　生産と流通

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　もうけの意味では、入ったお金の全額ではなく、費用を差し引いた残りに着目する。
（2）ア　働くことへの対価。家賃は家を借りる代金、運賃は人や物を運ぶ料金を表す。
（3）エ　必要な費用などを用意すること。会費で賄う、食事を賄うなどと使う。
（4）イ　必要分より多く余ったもの。余ったというだけで、利用できないとは決まらない。
（5）ア　値段が安いこと。安さだけで、量や品質、必要に合うかまでは決まらない。
（6）ウ　船の左右の側面。舷の字は船の側面を表す。左右の舷を、右舷・左舷という。

四　熟語を広げよう

（1）利益　（2）購買　（3）生産　（4）畑作　（5）賃金
（6）金銭　（7）賄う　（8）来賓　（9）補助　（10）効率
（11）招待　（12）囲い　（13）日射　（14）支払う

売上げと利益を区別する。賄うは費用などを用意して足りるようにすること、支払うは代金などを相手へ渡すことに着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　栽培は植物を育てる行為に着目する。農作物を育てることも生産に含まれる。
（2）ウ　余ることと、目的を持ってためることを区別する。材料の量と、お金の額も混同しない。
（3）イ　一回に払う額と、同じ量当たりの価格を分ける。必要量など、選ぶ条件は他にもある。
（4）エ　必要な費用をどこから出すかと、実際に相手へ渡す行為を分けている。

五　自分で書く問題

（5）解答例

使う量も聞いてみようという店主の助言で、袋の案内を見直した。

☆自分で確かめる点　相手の考えを助ける言葉や提案という意味に合うか。

（6）解答例

次の年に道具を買い替えられるよう、収入の一部を少しずつ蓄える。

☆自分で確かめる点　ためる対象や目的が分かり、余剰と混同していないか。

六　短文で使ってみよう

（1）有利　（2）売買　（3）産地　（4）田畑　（5）運賃
（6）小銭　（7）国賓　（8）有効　（9）周囲　（10）栽培
（11）余剰　（12）貯蓄　（13）廉価　（14）舷側　（15）商売
（16）びちく　（17）せいれん　（18）うげん　（19）しょうひん　（20）ひんきゃく／ひんかく

（5）運賃は人や物を運ぶ料金。（7）国賓は国が正式に招いた客。（11）余剰と、意図してためる貯蓄を分ける。（17）清廉は、心が清く、私欲に流されないこと。（20）は、どちらの読みも正しい。

七　文章の中で考えよう

（1）費用　栽培や運搬、袋詰めなどに必要なお金。袋代だけで全てが分かるわけではない。
（2）包装　品物を包むこと。本文では、小分けにすると袋の費用が増える場面で使う。
（3）ウ　200g なら 600 円と 500 円。一袋なら小袋が 300 円、大袋が 500 円。
（4）エ　袋代だけでなく、作る・運ぶ・販売するための費用がある。利益の額は未計算。

七　記述問題の考え方

（5）　小袋を選んだ理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

今回は百グラムだけ使うので、同じ量当たりでは大袋が安くても、三百円で必要な分だけ買える小袋を選んだから。

（5）別解例　50 字

使いたい量は百グラムで、大袋を買う五百円より、小袋なら三百円で済み、必要な分だけ買えると考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 客が今回は百グラムを使いたかった点を示したか。
② 小袋なら三百円で必要な量を買える点を書いたか。
③ 同じ重さ当たりの安さと、一回の支払額を区別したか。

小袋の品質が高い、余った豆が必ず傷む、などと本文にない理由を加えない。

（6）　二種類の袋の案内 70〜90 字

（6）解答例　88 字

小袋は百グラム三百円、大袋は二百グラム五百円です。同じ二百グラムなら、大袋の価格が百円安くなります。必要な量が百グラムなら小袋一つでも買えます。使う分に合わせてお選びください。

（6）別解例　87 字

百グラムの小袋は三百円、二百グラムの大袋は五百円です。大袋は同じ量当たりの価格が低く、小袋なら少ない支払額で百グラムだけ買えます。使う人数や必要な量に合わせてお選びください。

☆（6）自分で確かめる点

①「量」「価格」を使ったか。
② 袋の量と価格、同じ二百グラムでの比較を正しく伝えたか。
③ 大袋だけを勧めず、必要量に合う選択を残したか。

百五十グラムの新しい袋は、まだ販売が決まっていない。案内には、いま買える二種類を示す。

漢字から文章へ 第四冊

第十三回

水・熱・気象

古い写真に、夕日が二つ写っています。
祖父は、その写真が気に入っているようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

天	火	光	氷
空 自然	燃えて熱や光を出す	明るく照らすもの	水が凍ったもの

温	氾	雰	滑
あたたかさ 温度	水が広がりあふれる	立ちこめる気配	すべる なめらか

いっしょに覚える漢字

夕	陽	汽	泊	鮮	芳
咲	汰	澄	斑	漆	瀬

この回で読むお話

夕日が二つあった日

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
天	テン あめ あま	空／自然の大きな働き 天・天候・天気・天然	温	オン あたたかい あたためる	あたたかさ／温度 気温・水温・温度・保温
火	カ ひ ほ	燃えて熱や光を出す 火・火災・花火・火力	氾	ハン	水が広がりあふれる 氾濫・氾濫原
光	コウ ひかる ひかり	明るく見せるもの 光・日光・光線・観光	雰	フン	立ちこめる気配など 雰囲気・雰囲
氷	ヒョウ こおり ひ	水が凍ったもの 氷・氷点・氷河・結氷	滑	カツ コツ すべる なめらか	なめらかに動く／すべる 滑る・滑走・円滑・滑落

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
夕	セキ ゆう	日が沈むころ 夕方・夕日・夕立・一夕	咲	さく	花が開く 咲く・咲き誇る
陽	ヨウ ひ	太陽／明るい側 太陽・陽光・陽気・陰陽	汰	タ	洗い流す／選び分ける 淘汰・沙汰・音沙汰
汽	キ	水蒸気 汽船・汽車・汽笛	澄	チョウ すむ すます	濁りがなくなる 澄む・清澄・澄明
泊	ハク とまる とめる	夜を過ごす／船がとまる 宿泊・停泊・外泊・泊地	斑	ハン まだら	色の違う点や模様 斑点・斑紋
鮮	セン あざやか	新しい／色がはっきりする 鮮明・新鮮・鮮やか・生鮮	漆	シツ うるし	木の液／塗料に使う 漆・漆器・漆黒
芳	ホウ かんばしい	よい香り／評判がよい 芳香・芳しい・芳名	瀬	せ	川の浅い流れなど 浅瀬・早瀬・川瀬

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「天候」に合うものを選びなさい。
ア　空の色を塗る道具　　イ　その土地の写真全て
ウ　晴れや雨など、ある期間の天気の様子　　エ　太陽の数だけを表す語

(2)「氾濫」に合うものを選びなさい。
ア　川などの水があふれ広がること　　イ　水が凍ること
ウ　川の流れが必ず止まること　　エ　写真の色が変わること

(3)「雰囲気」に合うものを選びなさい。
ア　温度計の数値だけ　　イ　必ず雨が降るという予報
ウ　水に含まれる塩の量　　エ　その場を包む気配や感じ

(4)「鮮明」に合うものを選びなさい。
ア　撮影時刻が新しいことだけ　　イ　色や形、内容などがはっきりしていること
ウ　必ず本物であること　　エ　同じ物が二つあること

(5)「漆黒」に合うものを選びなさい。
ア　漆のような深い黒色　　イ　全て漆で作った道具
ウ　水の濁りの量だけ　　エ　太陽が出ていない時刻だけ

(6)「音沙汰」に合うものを選びなさい。
ア　波が立てる音だけ　　イ　写真の鮮やかさ
ウ　便りや知らせ　　エ　山の上の浅い川

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　夕暮れ　日光　鮮明　氾濫　天候　音沙汰　滑走
水温　宿泊　火災　芳香　印象　氷点　汽船

文	解答	文	解答
(1) 晴れや雨などの□□を調べる。		(8) 氷の上を□□して進む。	
(2) 火が広がる□□を防ぐ。		(9) 日が沈む□□□の空を眺める。	
(3) 太陽からの□□が差し込む。		(10) 蒸気機関で動く□□が港を出る。	
(4) 水が凍り始める□□を考える。		(11) 旅先の宿に□□する。	
(5) 水の□□を温度計で測る。		(12) 輪郭がはっきりした□□な写真だ。	
(6) 川の水があふれる□□が起きた。		(13) 花のよい香りである□□が漂う。	
(7) 見たり聞いたりして受けた□□を語り合う。		(14) 友人から□□□がない。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「光」と「温度」に合うものを選びなさい。

写真の夕日は暖かそうに見えるが、撮影時の気温は書かれていない。

ア　暖かい色なら、気温も必ず高い。
イ　色から受ける感じと、測った温度は分けて考える。
ウ　夕日の写真には温度が必ず写る。
エ　光が写れば、水は凍らない。

（2）この「澄む」と「鮮明」に合うものを選びなさい。

水は澄んでいたが、古い写真の輪郭はぼやけていた。

ア　澄んだ水なら写真も必ず鮮明だ。
イ　二つは必ず同じ物の状態を表す。
ウ　水の濁りと、写真の見え方をそれぞれ述べている。
エ　ぼやけた写真には水を写せない。

（3）ここでの「滑らか」に合うものを選びなさい。

水面は滑らかに見えたが、写真を拡大すると小さな波が写っていた。

ア　細かな波が少しでもあれば、その見え方はあり得ない。
イ　滑らかなら、物は必ず滑り落ちる。
ウ　波があるので写真は必ず偽物だ。
エ　遠くからの印象と、細部を見た結果を分けている。

（4）この「氷点」の読み取りに合うものを選びなさい。

氷点は、水が凍り始める温度を考える基準になる。

ア　凍り始める温度に着目している。
イ　氷が全て消える時刻だけを示す。
ウ　どの物質でも同じ値と断定している。
エ　写真の色だけで必ず測れる。

（5）「夕方」を使い、日が沈む頃の様子を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「雰囲気」を使い、その場で感じたことを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 星や月などの**テンタイ**を観察する。	
(2) 港の家々に**トウカ**がともった。	
(3) 窓から細い**コウセン**が差し込んだ。	
(4) 山の**ヒョウガ**を写した写真を見る。	
(5) 自分の**タイオン**を記録した。	
(6) 荷物を上げる道具の**カッシャ**を調べた。	
(7) 赤い**ユウヤケ**の空を描く。	
(8) 空の**タイヨウ**と、水に映った像を比べる。	
(9) 蒸気で鳴らす船の**キテキ**の音を聞いた。	
(10) 旅先の宿に**イッパク**した。	
(11) 庭の白い花が**サク**季節になった。	
(12) 濁りのない**セイチョウ**な水を眺めた。	
(13) 古い紙の小さな**ハンテン**を見つける。	
(14) 漆を塗った器である**シッキ**を使う。	
(15) 川の水が浅い**アサセ**の石を見た。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 天空	(17) 流氷	(18) 滑らか	(19) 漆黒	(20) 早瀬

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ写真でも、見えた像の説明と、そこから感じることは違います。
言葉がどちらを伝えているのか、前後を読みましょう。

七　文章の中で考えよう

夕日が二つあった日

「この町では、太陽が二つあったんだ。」祖父は、写真を逆さに持っていた。長く音沙汰のなかった友人から届いた、若い頃の旅の写真だ。港に停泊する漆黒の汽船と、赤い夕日。その下に、もう一つ夕日がある。彩は祖父の手から写真を受け取り、どちらが上か迷った。

上の船の輪郭は鮮明だが、下の船には細かな横線が入り、形も少し崩れていた。「下は水面に映った光だよ。」祖父は説明する。空に二つの太陽があったわけではない。彩は下の船を指でなぞり、写真を机へ戻した。

「暖かそうな夕方だね。」今度は祖父が首を振った。朝は岸に薄い氷が残り、その夕方も気温は低かったという。宿泊先から岸へ歩くと、水は澄んで浅瀬の石が見えた。友人が持ってきた温かい茶を、二人で交互に飲んだそうだ。

帰り道の白い花は、もう咲いていたのだろうか。祖父は花の芳香を覚えていた。宿の窓に揺れる火の明かりも。友人が船の名前を言い間違え、訂正するたび違う名になった話まで始める。静かな写真の雰囲気とは、ずいぶん違う旅だ。

彩は写真を複写する準備をした。古い紙の斑点を消し、端を切って、下の夕日も除けば見やすい。はさみを取る前に、祖父が言った。「二つとも残してくれないか。」川の氾濫で岸の形が変わり、今は同じ場所で同じ船を撮れないらしい。

余分だと見ていたのは、彩の方だった。

祖父が欲しいのは、昔の天候を調べる資料だけではない。一つの夕日を見ていた時、水にも別の明るさを見つけた。その驚きが下の像に残っている。水面が滑らかに見えたことも、茶を飲む時に二人の鼻が赤かったことも、写真の外から戻ってくる。

新しい写真立てに、彩は二つの夕日を収めた。裏には場所と分かっている時期を書き、祖父の言葉も添える。帰る時、祖父は友人への返事を書き始めていた。「あの船は何という名だったかね。」彩は、さっきの訂正をもう一度聞くことになった。

人物・旅・写真は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

写真から分かることと、祖父の話を区別して答えなさい。

（1）元の写真などを写して別の一枚を作ることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）覚えて心にとどめる「キオク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）下の船の像について、本文に合うものを選びなさい。

ア　上の船より輪郭が鮮明だった。
イ　水面に映り、小さな横線が入って形も少し崩れていた。
ウ　別の汽船が空を飛んでいた。
エ　写真を逆さにすると消えた。

（4）写真の色と当日の気温について、本文に合うものを選びなさい。

ア　赤い色から、暖かい日だと確定できる。
イ　夕日があるので、岸には氷がなかった。
ウ　祖父は、夕方も気温が低かったと話している。
エ　祖父は当日の気温を写真の色で測った。

（5）彩が下の夕日も残した理由を、祖父が覚えていた驚きと
水面の像の説明を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）写真の紹介文を、「太陽」「水面」を使って 70〜90 字で書きなさい。
像の理由を説明しつつ、祖父が残したいものも伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　水・熱・気象

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　晴れや雨、暑さ寒さなどの様子。天気を、よい・悪いという感想だけに限らない。
（2）ア　水があふれること。情報などが多く出回る場合にも使う。
（3）エ　その場の気配や感じ。数値で測った気温などとは区別する。
（4）イ　はっきりしていること。写真が鮮明でも、写った理由まで決まるわけではない。
（5）ア　漆のように深くつやのある黒色。写真では、船の色を表している。
（6）ウ　便りや知らせ。音沙汰がない、と連絡のない状態にも使う。

四　熟語を広げよう

（1）天候　（2）火災　（3）日光　（4）氷点　（5）水温
（6）氾濫　（7）印象　（8）滑走　（9）夕暮れ　（10）汽船
（11）宿泊　（12）鮮明　（13）芳香　（14）音沙汰
（7）印象は、見たり聞いたりして心に残る感じ。（9）夕暮れは日が暮れる頃。（12）鮮明は、色や形などがはっきりしていること。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　色の印象だけで、当日の気温を確定しない。何を測った情報かも確かめる。
（2）ウ　澄むは濁りがなくなること。水そのものと、それを写した写真の状態を分ける。
（3）エ　表面の見え方を述べた文。見る距離や細かさによって気づく点も変わる。
（4）ア　温度に関わる語。物質や条件を示さず、全てが同じ温度で凍るとはしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

夕方になると港の明かりが一つずつともり、海の色も変わっていった。

☆自分で確かめる点　時刻と、その時に見えた様子が分かるか。

（6）解答例

古い写真を囲んで話すうちに、部屋の雰囲気が少しやわらいだ。

☆自分で確かめる点　気温の値ではなく、場を包む感じに合うか。

六　短文で使ってみよう

（1）天体　（2）灯火　（3）光線　（4）氷河　（5）体温
（6）滑車　（7）夕焼け　（8）太陽　（9）汽笛　（10）一泊
（11）咲く　（12）清澄　（13）斑点　（14）漆器　（15）浅瀬
（16）てんくう　（17）りゅうひょう　（18）なめらか　（19）しっこく　（20）はやせ
（10）は一泊、（11）は送り仮名を含めて書く。（12）清澄は濁りがなく澄んでいること。（14）は「しっき」、（19）は「しっこく」。（20）早瀬は流れの速い浅い所。

七　文章の中で考えよう

（1）複写　元の写真などを写して別のものを作ること。彩は写真を複写する準備をしていた。
（2）記憶　覚えて心にとどめること。写真の像と、祖父が覚えていた出来事の違いを捉える。
（3）イ　上下の像の違いと、祖父の説明を結ぶ。
（4）ウ　写真の色の印象と、祖父が語った気温は異なる。

七　記述問題の考え方

（5）　下の夕日を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

水面に映った像だと分かっても、祖父が夕日を二つ見つけた驚きや楽しさを伝える大切な部分だと考えたから。

（5）別解例　50 字

下の夕日は水面の像だが、祖父にとっては旅先で別の明るさを見つけた驚きがあり、余分なものではないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 下の夕日は水面に映った像だと説明したか。
② 祖父の驚きや楽しさと結んだか。
③ 空に太陽が二つあったという話にしていないか。

像の仕組みが分かることと、思い出として残す価値を感じることは両立する。

（6）　写真の紹介文 70〜90 字

（6）解答例　83 字

写真には、空の太陽と水面に映った像が写っています。下の船の形には細かな横線が入り、少し崩れています。祖父が残したかったのは、旅先で夕日を二つ見つけた驚きと楽しさです。

（6）別解例　84 字

二つに見える太陽のうち、下の一つは水面に映った像です。祖父は、その理由を知っていても、旅先で別の明るさを見つけた思い出を残したいと考え、下の夕日も切らずに飾っています。

☆（6）自分で確かめる点

①「太陽」「水面」を使ったか。
② 空の太陽と水面の像を区別したか。
③ 祖父が残したい驚きや思い出を伝えたか。

花の香りや当日の寒さは祖父の話から分かったこと。写真だけで分かる情報と混ぜない。

漢字から文章へ 第四冊

第十四回

育つ・飼う・実る

林の中の名札屋には、動物たちがやって来ます。
名前を付けてもらうのに、注文が多いようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

犬	竹	林	牛
人と暮らす動物	節のある植物	木が集まって生える	大きな家畜など

羊	鹿	猫	獣
厚い毛のある動物	草などを食べる動物	人と暮らす小型動物	毛のあるけもの

いっしょに覚える漢字

牧	茨	杉	柳	牲	柿
菌	桃	蛇	蛮	穂	萎

この回で読むお話

林の中の名札屋

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
犬	ケン いぬ	人と暮らす動物 犬・番犬・愛犬・野犬	羊	ヨウ ひつじ	厚い毛のある動物 羊・羊毛・牧羊・子羊
竹	チク たけ	節のある常緑の植物 竹・竹林・竹材・竹細工	鹿	しか か	草などを食べる動物 鹿・子鹿・鹿革
林	リン はやし	木がまとまって生える所 林・森林・林業・林立	猫	ビョウ ねこ	人と暮らす小型の動物 猫・子猫・愛猫・野良猫
牛	ギュウ うし	家畜として飼われる大きな動物 牛・牛舎・牛乳・和牛	獣	ジュウ けもの	毛のあるけもの 野獣・鳥獣・獣医・猛獣

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
牧	ボク まき	家畜を飼う 牧場・放牧・牧草・牧畜	菌	キン	きのこ／細菌など 菌類・細菌・殺菌・菌糸
茨	いばら	とげのある低い木 茨・茨城・茨の道	桃	トウ もも	春に花が咲く果樹 桃・白桃・桃色・桃源
杉	サン すぎ	まっすぐ高く育つ常緑樹 杉・杉林・杉材・杉戸	蛇	ジャ ダ へび	細長い体で足のない動物 蛇・大蛇・蛇行・毒蛇
柳	リュウ やなぎ	枝が細く垂れる木 柳・柳並木・川柳	蛮	バン	荒々しい／見下す呼称 野蛮・蛮行・南蛮
牲	セイ	神へ供える家畜 犠牲・牲畜	穂	スイ ほ	稲や麦の実がつく先 穂・稲穂・穂先・出穂
柿	シ かき	秋に実る果樹 柿・干し柿・柿色	萎	イ なえる しおれる	元気を失いしぼむ 萎れる・萎縮・萎える

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「番犬」に合うものを選びなさい。
ア　家などを守る役目の犬　　イ　必ず野外で暮らす犬
ウ　鳴く犬全て　　エ　犬を診察する人

(2)「竹林」に合うものを選びなさい。
ア　竹で作った道具全て　　イ　竹がまとまって生えている所
ウ　一本の竹の節だけ　　エ　動物を放す場所全て

(3)「放牧」に合うものを選びなさい。
ア　全ての野生動物へ餌を与えること　　イ　家畜を飼うのを必ずやめること
ウ　家畜を野外に放して飼うこと　　エ　植物の種だけをまくこと

(4)「獣医」に合うものを選びなさい。
ア　野生動物だけを数える人　　イ　必ず森で暮らす人
ウ　木を育てる人　　エ　動物の病気やけがを診療する専門家

(5)「犠牲」に合うものを選びなさい。
ア　何かのために、命や利益などを失うこと　　イ　一つの物に別の名を付けること
ウ　花がしぼむことだけ　　エ　必ず相手が喜ぶ贈り物

(6)「萎縮」に合うものを選びなさい。
ア　枝を大きく広げること　　イ　実が多くなること
ウ　縮こまることや、元気をなくして小さくなること　　エ　新しい役目を得ること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　放牧　森林　犠牲　子鹿　番犬　萎縮　鳥獣
羊毛　杉林　竹林　稲穂　子猫　牛舎　茨の道

文	解答	文	解答
(1) 家などを守る □□を飼う。		(8) 鳥とけものを □□と呼ぶ。	
(2) 竹が集まって育つ □□を歩く。		(9) 家畜を外に放して □□する。	
(3) 多くの木が育つ □□を守る。		(10) 困難な道を □□□とたとえる。	
(4) 牛を飼う □□を見学する。		(11) 杉の集まる □□を抜ける。	
(5) 羊の毛である □□を使う。		(12) 何かを守るために 別のものを□□にした。	
(6) まだ幼い □□が歩いていた。		(13) 稲の実がつく □□が垂れた。	
(7) 小さな□□が 店番をしている。		(14) 元気を失い □□していた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「野生」と「野蛮」の読み分けに合うものを選びなさい。

森で暮らす動物を、野生だから野蛮だと決めた。

ア　二語はいつでも同じ意味である。
イ　人に飼われていないことだけで、乱暴だとは決まらない。
ウ　野生なら、必ず人を襲う。
エ　野蛮は毛の色だけを表す。

（2）ここでの「家畜」と名前の関係に合うものを選びなさい。

牛と羊はどちらも家畜と呼ばれるが、牧場では一頭ずつ別の名前がある。

ア　同じ呼び名があれば、個体の名前は付けられない。
イ　名前を付けると家畜ではなくなる。
ウ　飼われる動物のまとまりと、一頭を区別する名前がある。
エ　牛も羊も同じ一頭である。

（3）この「萎れる」と「萎縮」に合うものを選びなさい。

花が萎れ、人前で話す子は緊張して萎縮した。

ア　どちらも必ず病名を表す。
イ　どちらも花にだけ使う。
ウ　萎縮した子には必ず水が足りない。
エ　花がしぼむ状態と、人が気後れする様子を読み分ける。

（4）ここでの「犠牲」に合うものを選びなさい。

一人を待たせ続け、ほかの人の便利さだけを優先した。

ア　便利になった人だけでなく、負担を負う人にも注目できる。
イ　全員の希望が必ずかなった。
ウ　待つ人には何の負担もないと決まる。
エ　犠牲は物の色だけをいう。

（5）「柳」を使い、木やその枝の様子を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「穂」を使い、植物の実がつく部分に触れる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 大切にかわいがっている**アイケン**と散歩した。	
(2) 道具を作るための**チクザイ**を運ぶ。	
(3) 林の中の**リンドウ**を歩いた。	
(4) 乳を取るために飼う**ニュウギュウ**を見学した。	
(5) 生まれたばかりの**コヒツジ**が歩いている。	
(6) 林の奥から**シカ**が顔を出した。	
(7) 店には客を招く縁起物の**マネキネコ**が置かれていた。	
(8) 動物の診療をする**ジュウイ**という仕事を調べた。	
(9) 家畜を飼う**ボクジョウ**を訪ねた。	
(10) 山に育つ**スギ**の木を見上げた。	
(11) きのこの体をつくる糸状の**キンシ**を図で見た。	
(12) 乾燥させた**ホシガキ**を味わった。	
(13) 果肉の白い**ハクトウ**という桃を食べた。	
(14) 台所の**ジャグチ**を閉めた。	
(15) 物語で、乱暴な**バンコウ**をやめるよう訴えた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 茨	(17) 森林浴	(18) 牛乳	(19) 蛇行	(20) 萎れる

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ相手にも、種類・役目・その時の様子など、違う呼び名があります。
その呼び名だけでは分からないことも考えましょう。

七　文章の中で考えよう

林の中の名札屋

「家畜さん。」猫が呼ぶと、牛と羊が一緒に振り向いた。「ほら、二人とも来てしまうよ。」牛は、自分の名札を机に戻した。

竹林を抜け、杉と柳の間を行くと、猫が店主の名札屋がある。

朝は犬が来た。猫は「番犬」の札を出す。「今日は休みで、友達に会いに行くんだ。仕事の札じゃなく、ぼくの名前が欲しい。」犬は、札の角を前足で押し戻した。

次に牧場から来た二頭にも、猫は同じ札を渡したのだ。牛も羊も家畜で、言葉は間違っていない。でも、一頭ずつ呼び分けられない。羊は耳に合う小さな札を注文し、牛は雨で字が消えないかと尋ねた。大きさの相談なら、猫にもすぐ答えられた。

茨の垣から鹿が顔を出すと、猫は奥へ隠れた。立て札に「野蛮な獣はお断り」と書いてある。「君も獣の仲間だろう。」鹿に言われ、猫は自分の毛を見た。野生で暮らすことと乱暴にすることは違う。古い札を外し、「話を聞きます」と書き直した。

そこへ畑の主が来た。鹿は昨日、柿の若葉を食べたのだという。今度は桃の木も守りたい。鹿の名をきれいに書き直すだけでは片付かない。どちらかの都合を当然の犠牲にしてよいとも言えない。猫は、名札の紙とは別に、相談を書き留める紙を出した。

昼の注文は、蛇の札だった。「細長い方、こちらへ。」猫が呼ぶと、蛇は笑う。机の下から、落とした筆も拾ってくれた。足元のきのこには「菌類」、畑の稲穂には「穂」の札が立つ。物を探すには便利でも、それで相手の全てが分かるわけではない。

夕方、店先の花が萎れていた。名札の字は、朝より上手に書けている。けれど花は元気がない。名を整える仕事と、育つ条件を整える仕事は違う。猫は花を育てる人へ、水や置き場所のことを聞きに行った。帰ってくると、閉店の札が裏返っていた。

店の前の犬に「ルウ」の札を渡すと、うなずいた。「店主さん、君の名は。」

猫は自分の札を見た。表は「猫」、裏は「昼寝中」。どちらを見せても、犬の質問の答えにはなりそうにない。猫は空白の札を一枚、机へ置いた。

動物たちが話す林と名札屋は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

名札が何を表すかと、それだけでは分からないことを区別して答えなさい。

（1）店を営む者を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）違いに応じて分ける「クベツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）牛が「家畜」の札に困った理由を選びなさい。

ア　牛も羊も同じ札なので、一頭ずつ呼び分けられない。
イ　牛は牧場で飼われていないから。
ウ　家畜という言葉は羊にしか使えないから。
エ　耳に付ける札は全て禁止だから。

（4）立て札を書き直した後も残った問題を選びなさい。

ア　全ての動物が急に名前を忘れたこと。
イ　鹿が猫に変わったこと。
ウ　犬が店主になったこと。
エ　畑の木を守りたい人と、鹿の行動をどう調整するかということ。

（5）犬が「番犬」の札でなく自分の名前を求めた理由を、
その日の予定と、札の表す内容を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）名札について気づいたことを、「役目」「相手」を使って 70〜90 字で書きなさい。
本文の二つ以上の出来事を根拠にします。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　育つ・飼う・実る

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　番をする役目の犬。全ての犬が同じ役目を持つという意味ではない。
（2）イ　竹の集まる林。材料の竹材、加工した竹細工とは区別する。
（3）ウ　家畜を野外に放して飼うこと。野生で暮らすことと同じではない。
（4）エ　犬や猫なども診療の対象となる。獣の字を、野生だけに限らない。
（5）ア　命だけでなく、時間や利益などについても使う。負担を負う相手にも目を向ける。
（6）ウ　小さく縮むこと。気後れして十分に振る舞えない様子にも使う。

四　熟語を広げよう

（1）番犬　（2）竹林　（3）森林　（4）牛舎　（5）羊毛
（6）子鹿　（7）子猫　（8）鳥獣　（9）放牧　（10）茨の道
（11）杉林　（12）犠牲　（13）稲穂　（14）萎縮

鳥獣は鳥とけもの。獣の字は野生だけを表すわけではない。
茨の道は、困難の多い道のりをたとえる言い方。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　野生という暮らし方と、荒々しいという評価を混同しない。
（2）ウ　一つの呼び名が、どんな範囲をまとめているかを確かめる。
（3）エ　同じ字があっても、対象と語全体の意味を確かめる。原因まで一つに決めない。
（4）ア　誰の何が失われたり負担になったりするかを見る。犠牲を当然としない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

川沿いの柳の細い枝が風に揺れ、水面に映る影もゆっくり動いた。

☆自分で確かめる点　木の柳を使った文として意味が通るか。

（6）解答例

秋の田んぼで稲の穂が垂れ、歩くたびに風で揺れる音が聞こえた。

☆自分で確かめる点　穂を、実が集まってつく部分として使ったか。

六　短文で使ってみよう

（1）愛犬　（2）竹材　（3）林道　（4）乳牛　（5）子羊
（6）鹿　（7）招き猫　（8）獣医　（9）牧場　（10）杉
（11）菌糸　（12）干し柿　（13）白桃　（14）蛇口　（15）蛮行
（16）いばら　（17）しんりんよく　（18）ぎゅうにゅう　（19）だこう　（20）しおれる

（4）乳牛は乳を取るために飼う牛。（7）は招き猫、（11）は菌糸。（15）蛮行は乱暴な行い。野生の動物を、野蛮だと決める語ではない。（20）は「しおれる」。

七　文章の中で考えよう

（1）店主　店を営む者。この物語の名札屋では猫が店主である。
（2）区別　違いに応じて分けること。家畜のようにまとめる名と、一頭ずつの名前を比べる。
（3）ア　まとめる呼び名だけでは、一頭ずつを区別できなかった。
（4）エ　言葉を直すことと、畑の問題を解決することは別である。

七　記述問題の考え方

（5）　仕事の札と自分の名前 45〜55 字

（5）解答例　55 字

その日は仕事が休みで友達に会いに行くため、家を守る役目を示す札でなく、自分を呼んでもらう名前が欲しかったから。

（5）別解例　51 字

番犬は家を守る仕事の呼び名で、休みに友達と会う犬自身を区別する名前ではなく、求める札と違っていたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 休みに友達へ会いに行く予定を示したか。
② 番犬は役目の呼び名だと説明したか。
③ 犬自身を区別する名前を求めた点と結んだか。

その犬が二度と番犬をしないとは書かない。役目を表す語自体が間違いなのでもない。

（6）　名札から分かること 70〜90 字

（6）解答例　85 字

番犬は役目を表しますが、友達に会う犬の欲しい名前とは違いました。牛と羊を家畜とまとめても、一頭ずつは呼び分けられません。名札が何を表し、相手が何を求めるかも聞きたいです。

（6）別解例　85 字

役目を示す番犬の札も、種類をまとめる家畜の札も便利ですが、それだけで相手の全ては分かりません。犬の予定や、牛が呼び分けてほしいという希望を聞き、どんな札が必要か考えます。

☆（6）自分で確かめる点

①「役目」「相手」を使ったか。
② 犬と牛・羊など、二つ以上の出来事に触れたか。
③ 呼び名の働きと、その限界を結び付けたか。

鹿の出来事を根拠にしてもよい。名を変えれば畑の問題も解決した、と本文を変えない。

漢字から文章へ 第四冊

第十五回

繊維と金属

大きな釜が、自分の仕事を語り始めます。
どうやら、煮炊きは得意ではないようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

赤	青	物	白
あかい色	あおい色 若さ	もの 事柄	しろ 明らか

針	姿	維	釜
先のとがった道具	外に見える様子	つなぎ保つ 細い糸	煮炊きに使う器

いっしょに覚える漢字

縄	鉱	環	孔	朱	陶
紫	紺	鍛	塡	錬	質

この回で読むお話

煮炊きをしない釜

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
赤	セキ シャク あか あかい	あかい色 赤・赤色・赤銅・赤字	針	シン はり	先のとがった細い道具 針・針金・方針・秒針
青	セイ ショウ あお あおい	あおい色／若い 青・青色・青銅・青年	姿	シ すがた	外に見える形や様子 姿・姿勢・容姿・姿見
物	ブツ モツ もの	形のあるもの／事柄 物・物質・物体・品物	維	イ	つなぎ保つ／細い糸 繊維・維持・維新
白	ハク ビャク しろ しら しろい	しろい色／明らか 白・白色・空白・明白	釜	フ かま	煮炊きに使う器 釜・釜飯・大釜・製鉄釜

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
縄	ジョウ なわ	繊維などをより合わせたひも 縄・縄文・縄張り	紫	シ むらさき	赤と青の間の色 紫・紫色・紫外線
鉱	コウ	地中から得る有用な石 鉱石・鉱山・鉱物・採鉱	紺	コン	深い青色 紺・紺色・濃紺・紺青
環	カン わ	輪／めぐるつながり 循環・環境・環状・一環	鍛	タン きたえる	金属を打つ／技などを磨く 鍛造・鍛える・鍛錬
孔	コウ あな	突き抜けた穴 孔・気孔・孔版・瞳孔	塡	テン うずめる ふさぐ	隙間などを満たす 充塡・装塡・塡補
朱	シュ あけ	黄みを帯びた赤色 朱色・朱肉・朱筆・朱塗り	錬	レン	金属を精製する／技を磨く 精錬・鍛錬・錬金・錬成
陶	トウ	土を焼いて器を作る 陶器・陶芸・陶土・陶酔	質	シツ シチ チ	中身／性質／問いただす 性質・品質・物質・質問

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「繊維」に合うものを選びなさい。
ア　物の表面の色だけ　　イ　全ての金属板
ウ　必ず木でできた器　　エ　細い糸状のもの

(2)「空白」に合うものを選びなさい。
ア　必ず白色で塗った金属　　イ　何も書かれたり置かれたりしていない部分
ウ　青色と赤色を混ぜた色　　エ　器の重さだけ

(3)「鉱石」に合うものを選びなさい。
ア　有用な鉱物を含み、採る対象となる岩石　　イ　金属に塗る絵の具
ウ　糸をより合わせたひも　　エ　全ての舞台道具

(4)「陶器」に合うものを選びなさい。
ア　必ず紙で作った器　　イ　金属をより合わせたひも
ウ　粘土などを成形し、焼いて作る器物の一種　　エ　全ての舞台の看板

(5)「鍛錬」に合うものを選びなさい。
ア　必ず道具を捨てること　　イ　心身や技能などをきたえ磨くこと
ウ　表面を赤く塗ることだけ　　エ　穴を開けることだけ

(6)「充塡」に合うものを選びなさい。
ア　色を見分けること　　イ　空の容器を並べることだけ
ウ　外の形だけをほめること　　エ　容器や隙間に物を詰めること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　鉱石　品物　陶器　姿勢　赤色　充塡　釜飯
針金　朱色　青色　鍛錬　繊維　空白　循環

文	解答	文	解答
(1) 赤い色を□□と呼ぶ。		(8) 釜で炊いた□□を食べる。	
(2) 青い色を□□と呼ぶ。		(9) 地中から□□を採る。	
(3) 机の上の□□を数える。		(10) 水が巡る□□を考える。	
(4) 何も書かれていない□□を残す。		(11) 黄色みのある赤い□□で塗る。	
(5) 細い金属の□□を曲げる。		(12) 粘土を焼いて作る器の一種が□□だ。	
(6) 座る時の□□を整える。		(13) 技能を磨く□□を重ねる。	
(7) 糸状の細い□□を調べる。		(14) 隙間に材料を□□する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「品質」の考え方に合うものを選びなさい。

運ぶ舞台道具には軽さが役立つが、煮炊きする釜には別の条件も必要だ。

ア　重い物は全て品質が悪い。
イ　見た目が同じなら使い道も必ず同じだ。
ウ　使う目的と、必要な性質を結び付けて考える。
エ　軽ければ全ての料理に使える。

（2）この「姿」と「材料」に合うものを選びなさい。

銀色の姿をした釜の模型は、紙と布でできている。

ア　銀色なら必ず銀製だ。
イ　外から見える色と、実際の材料を分けている。
ウ　釜に似ていれば、火にかけられる。
エ　紙は必ず銀色になる。

（3）ここでの「維持」に合うものを選びなさい。

衣装の形を維持するため、ほつれた所を直した。

ア　状態や形を保つこと
イ　全ての布を捨てること
ウ　衣装に名前を付けることだけ
エ　衣装を必ず別の色に変えること

（4）ここでの「循環」に合うものを選びなさい。

水は蒸発し、雲や雨を経て地表へ戻るなどして循環する。

ア　全ての金属が紙になること
イ　水が必ず一か所に止まること
ウ　同じ釜を一度だけ使うこと
エ　水が形を変えながら巡ること

（5）「紺色」を使い、物の色が伝わる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「性質」を使い、材料について気づいたことを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 地球の**セキドウ**を地図で確かめた。	
(2) 雨がやみ、**アオゾラ**が見えた。	
(3) 池にすむ**セイブツ**を観察する。	
(4) まだ何も書いていない**ハクシ**を一枚出した。	
(5) 船の進む方向を示す**シンロ**を確かめる。	
(6) 外から見た姿を表す**ヨウシ**という語を学んだ。	
(7) 衣装の形を**イジ**するために直す。	
(8) 物語の大きな**カマ**が語り出した。	
(9) 歴史の授業で**ジョウモン**時代について学ぶ。	
(10) 石炭を採る**タンコウ**の記録を読んだ。	
(11) 生き物を取り巻く**カンキョウ**を調べる。	
(12) 葉の表面にある小さな**キコウ**を図で見た。	
(13) 赤と青の間の**ムラサキイロ**で幕を塗った。	
(14) 物語には金を作ろうとする**レンキンジュツ**の場面がある。	
(15) 分からない所を先生に**シツモン**する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 朱肉	(17) 紫外線	(18) 縄跳び	(19) 陶芸	(20) 精錬

この回を終えたら もう一度確かめる

似た姿の物でも、材料や役目は同じとは限りません。
何に使うのかを、説明する言葉と結び付けましょう。

七　文章の中で考えよう

煮炊きをしない釜

私は釜だ。大きな腹と丸い口、それに描かれた黒い焼け跡がある。今夜も、飯を山ほど入れた釜として運ばれる予定だ。

ただし、米を一粒も炊いたことはない。

私の腹は紙と布でできている。ここは劇場の道具部屋。白い布、赤い旗、青い屋根が棚に並ぶ。衣装の紫や紺の生地の横で、柱には朱色が塗られていた。銀色の私は金属の釜の姿だが、触れれば冷たさも重さも違う。新入りのやかんは、まだそれを知らない。

作られた時、布の繊維を見ながら、ほつれを針で縫ってもらった。取っ手の内側には針金、胴の小さな孔には縄がある。へこみへ材料を充塡し、見えない裏側まで形を整えた。運ぶ時に持つ所を確かめる手が、何度も私の腹の下へ回った。

道具係の棚には、鉱石から金属を取り出す仕事の本や、精錬の資料もある。けれど、私を金属に換えれば必ず品質が上がるだろうか。

この芝居では、一人の役者が私を抱えて階段を駆け上がる。重くなれば、その動きは難しい。今の材料の性質にも、仕事がある。

稽古で役者は、腰を落として私を持ち上げた。腕が震え、足がもつれる。それは何度も鍛錬した動きだった。軽い私も、山ほど飯の入った重い釜に見える。腹の中は空なのに、客席からは重そうだという声がした。役者は私を下ろすと、今度は軽々と抱えて帰った。

本番前、やかんが陶器の器へ尋ねた。「料理に使えない釜を、どうして大事にするの。」道具係は私の札を指す。空白だった欄に「舞台用。煮炊きには使えません」とある。使えないことを隠さず、何のための品物か伝える札だ。

照明や周りの環境でも、私の見え方は変わる。来月は魔法使いの釜になるらしい。「その時なら、何か煮えるの？」やかんが聞く。

答える前に幕が開いた。今夜はまだ飯の釜だ。空の腹を重そうに抱えてもらう時間だ。

釜が語る劇場と人物は、本教材のための創作です。舞台用の模型は調理に使えません。

七　文章の中で考えよう 問い

釜の材料・見た目・舞台での役目を結び付けて答えなさい。

（1）物を作るもとになる物を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）何のために使うかを表す「ヨウト」を、漢字二字で書きなさい。

（3）この釜について、本文に合うものを選びなさい。

ア　金属でできていて、毎日米を炊く。
イ　銀色なので、本物の銀でできている。
ウ　紙と布が使われ、舞台のために金属の釜に似せている。
エ　役者が触れると、本物の金属に変わる。

（4）札の説明に合うものを選びなさい。

ア　料理に使えないことを隠して売るための札。
イ　用途と、調理には使えないことを伝える札。
ウ　金属製であることを証明する札。
エ　役者の名前だけを書いた札。

（5）金属に換えれば必ず品質が上がるとはいえない理由を、
芝居での使い方と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）この釜の仕事を、「姿」「軽い」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
役者の動きと、客にどう見えるかにも触れます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　繊維と金属

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　細い糸状のもの。布に使うものなどがあり、材料を植物だけには限らない。
（2）イ　何もない部分。予定のない時間などにも使い、白い色そのものとは限らない。
（3）ア　役に立つ鉱物を含んだ岩石。光って見える物を全て鉱石と呼ぶわけではない。
（4）ウ　土をもとに形を作り、焼いたもの。器という字があっても、材料は同じとは限らない。
（5）イ　金属をきたえる意味のほか、心身や技能を磨くことにも使う。
（6）エ　物を詰めて満たすこと。充塡の塡は、この教材では右側が眞の字形で示している。

四　熟語を広げよう

（1）赤色　（2）青色　（3）品物　（4）空白　（5）針金
（6）姿勢　（7）繊維　（8）釜飯　（9）鉱石　（10）循環
（11）朱色　（12）陶器　（13）鍛錬　（14）充塡

朱色は黄みを帯びた赤色、紺色は深い青色。
鍛錬は金属に限らず技能にも使う。充塡は物を詰めて満たすこと。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　品質を考える時には、どんな用途に向くかも確かめる。軽さだけで全てを決めない。
（2）イ　形や色だけでは材料まで決まらない。模型の用途を実物と取り違えない。
（3）ア　保ち続けること。維があるからといって、語全体が繊維を表すわけではない。
（4）エ　巡り、つながって戻ること。物を一回運ぶことだけとは区別する。

五　自分で書く問題

（5）解答例

紺色の幕が開くと、明るい衣装を着た役者たちが舞台に現れた。

☆自分で確かめる点　深い青色として使い、何の色か示したか。

（6）解答例

同じ形の箱でも材料の性質が違い、持ち上げた時の重さも違った。

☆自分で確かめる点　見た目だけでなく、物の持つ特徴に触れたか。

六　短文で使ってみよう

（1）赤道　（2）青空　（3）生物　（4）白紙　（5）針路
（6）容姿　（7）維持　（8）釜　（9）縄文　（10）炭鉱
（11）環境　（12）気孔　（13）紫色　（14）錬金術　（15）質問
（16）しゅにく　（17）しがいせん　（18）なわとび　（19）とうげい　（20）せいれん

（5）針路は進む方向。（12）気孔は、植物の葉などの表皮にある小さな穴。（14）錬金術は、金などを作ろうとした術。（20）精錬は、金属の不純物を除くこと。

七　文章の中で考えよう

（1）材料　物を作るもとになる物。本文では紙や布と、金属を比べている。
（2）用途　何のために使うかということ。舞台用と調理用では、必要な性質も異なる。
（3）ウ　外から見える姿と、実際の材料を区別する。
（4）イ　舞台用という用途と、使えない用途を明示している。

七　記述問題の考え方

（5）　用途から考える品質 45〜55 字

（5）解答例　50 字

この芝居では役者が釜を抱えて階段を駆け上がるので、金属にして重くすると、必要な動きが難しくなるから。

（5）別解例　52 字

料理用でなく、役者が持って階段を駆け上がる舞台用なので、金属の重さがその仕事の妨げになることもあるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 舞台用の釜だと分かる説明か。
② 役者が抱えて階段を駆け上がる場面を示したか。
③ 材料の重さと、必要な動きの難しさを結んだか。

金属の釜は全て品質が悪い、とはしない。目的に合う性質を問うている。

（6）　釜の仕事を紹介する 70〜90 字

（6）解答例　87 字

金属の釜の姿をしていますが、紙と布でできた軽い舞台道具です。役者が重そうに持ち上げる動きと合わさると、飯の入った重い釜に見えます。煮炊きはできなくても、芝居の場面を伝えます。

（6）別解例　86 字

この釜は金属に似た姿ですが、役者が抱えて走れる軽い道具です。役者が腰を落として重そうに持つと、重い釜に見えます。料理に使うのでなく、客が芝居を思い浮かべるのを支えています。

☆（6）自分で確かめる点

①「姿」「軽い」を使ったか。
② 役者の動きと、重く見える効果を結んだか。
③ 調理用でなく、舞台を支える仕事を説明したか。

「偽物だから無価値」とだけ書かず、本文で担っている役目を伝える。

漢字から文章へ 第四冊

第十六回

家と日々の道具

遠い星から、家にお客さまが来ます。
梨花は、地球を紹介する準備で大忙しです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

着	茶	飲	飼
身につける 届く	茶の葉 飲み物	口から液体を取る	動物を養い育てる

炊	袖	餓	糧
米などを煮る	衣服の腕を通す部分	食物がなく苦しむ	食物 活動の支え

いっしょに覚える漢字

在	宇	複	乳	裕	垣
粒	桟	傘	粧	褐	椅

この回で読むお話

お客さまは座らない

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
着	チャク ジャク きる つく	身につける／場所に届く 着る・着用・到着・着席	炊	スイ たく	火を使って米などを煮る 炊く・炊飯・自炊・炊事
茶	チャ サ	茶の葉／飲み物 茶・茶葉・緑茶・茶室	袖	シュウ そで	衣服の腕を通す部分 袖・袖口・半袖・長袖
飲	イン のむ	口から液体を取る 飲む・飲料・飲食・飲水	餓	ガ うえる	食物がなく苦しむ 飢餓・餓死・餓える
飼	シ かう	動物に食物を与えて育てる 飼う・飼料・飼育・放し飼い	糧	リョウ ロウ かて	食物／活動を支えるもの 食糧・糧食・兵糧・心の糧

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
在	ザイ ある	その場所にいる／存在する 在宅・存在・現在・在庫	粒	リュウ つぶ	小さく丸いもの 粒・米粒・粒子・一粒
宇	ウ	大きな屋根／空間 宇宙・宇内・堂宇	桟	サン	渡した細い木／足場など 桟・窓の桟・桟橋・桟道
複	フク	二つ以上重なる 複数・複合・重複・複写	傘	サン かさ	雨や日光を防ぐ道具 傘・雨傘・日傘・傘下
乳	ニュウ ちち ち	子を育てるために出る液 牛乳・乳製品・母乳・乳児	粧	ショウ よそおう	顔や物を美しく整える 化粧・化粧品・薄化粧
裕	ユウ	ゆとりがある 余裕・裕福・富裕	褐	カツ	黒みを帯びた茶色 褐色・茶褐色・褐炭
垣	エン かき	土地を区切る囲い 垣根・石垣・生垣	椅	イ	腰掛ける道具 椅子・長椅子

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「到着」に合うものを選びなさい。
ア　服を必ず着替えること　　イ　目的の場所へ着くこと
ウ　飲み物を選ぶこと　　エ　食糧を使い切ること

(2)「飼料」に合うものを選びなさい。
ア　家を訪ねる人の呼び名　　イ　人の服の材料だけ
ウ　全ての木の枝　　エ　飼う動物に与える食物

(3)「飢餓」に合うものを選びなさい。
ア　少し退屈すること　　イ　必ず料理を作ること
ウ　食物がなく、飢えて苦しむこと　　エ　服の袖が長いこと

(4)「食糧」に合うものを選びなさい。
ア　食べ物、特に米や麦など生きるための糧　　イ　家にいる人の数
ウ　飲食店の名前だけ　　エ　外から来た客の衣服

(5)「複数」に合うものを選びなさい。
ア　家にある食器の材料　　イ　必ず同じ一つであること
ウ　服を着る順序だけ　　エ　二つ以上の数や、二人以上であること

(6)「余裕」に合うものを選びなさい。
ア　何も準備できないこと　　イ　時間や気持ち、物などにゆとりがあること
ウ　必ずたくさん食べること　　エ　物の暗い茶色だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　在宅　飲料　裕福　半袖　到着　褐色　食糧
炊飯　複数　緑茶　桟橋　飢餓　飼料　宇宙

文	解答	文	解答
(1) 目的の場所へ□□する。		(8) 旅で必要な□□を積む。	
(2) 客に□□をすすめる。		(9) 家にいる□□の時間を伝える。	
(3) 口から取る液体の□□を用意する。		(10) 広大な□□を旅する物語だ。	
(4) 動物に与える□□を運ぶ。		(11) 一つでない□□の案を考える。	
(5) 米を炊く□□の道具を洗う。		(12) 財産が多く、□□な暮らしをしている。	
(6) 短い袖の□□を着る。		(13) 港の□□から船に乗る。	
(7) 食物がなく苦しむ□□の記録を読む。		(14) 暗い茶色の□□で塗る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「在宅」に合うものを選びなさい。

午後は在宅しているので、家へ訪ねてきてください。

ア　午後は家にいる予定だと伝えている。
イ　午後は必ず旅行中である。
ウ　午後は家が存在しなくなる。
エ　訪ねる人が複数だと断定している。

（2）この「糧」に合うものを選びなさい。

旅の食糧とは別に、友人の手紙が心の糧になった。

ア　手紙を必ず食べたという意味だ。
イ　糧は全て米だけを表す。
ウ　食糧を用意する必要がなくなった。
エ　食べ物と、気持ちを支えるものを読み分ける。

（3）ここでの「複数」と「重複」に合うものを選びなさい。

複数の招待状を調べると、同じ人の名前が重複していた。

ア　複数なら、全て同じ相手だと決まる。
イ　重複は、暗い色で書くことだ。
ウ　数が二つ以上あることと、同じものが重なることは違う。
エ　二語は必ず同じ意味だ。

（4）ここでの「茶褐色」に合うものを選びなさい。

客は、茶褐色の布で包んだ荷物を持っていた。

ア　必ず茶の葉から作った布である。
イ　茶色がかった褐色の布を表す。
ウ　布は全て飲み物になる。
エ　客が茶を飲むと断定できる。

（5）「傘」を使い、使う場面が分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「余裕」を使い、時間や気持ちのゆとりを書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 自分の席に**チャクセキ**した。	
(2) 茶をいれるための**チャバ**を量った。	
(3) ここでは**インショク**してよいか確かめた。	
(4) 学校で動物の**シイク**を担当する。	
(5) 台所で**スイジ**をする。	
(6) 寒い日は**ナガソデ**の服を着る。	
(7) 牛乳から作る**ニュウセイヒン**について調べた。	
(8) そこにあるという**ソンザイ**を確かめる。	
(9) 名簿で同じ名前が**チョウフク**していた。	
(10) 庭の境にある**カキネ**を直した。	
(11) 炊いた飯の**コメツブ**を眺める。	
(12) 窓の横木である**サン**をふいた。	
(13) 舞台に出る前に**ケショウ**をした。	
(14) 暗い茶色の**チャカッショク**の布で包んだ。	
(15) 客に**イス**をすすめた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 茶室	(17) 粒子	(18) 乳児	(19) 褐炭	(20) 座椅子

この回を終えたら もう一度確かめる

準備に役立つ知識と、相手に聞いて初めて分かる希望があります。
誰のどんな事情を述べた言葉か、確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

お客さまは座らない

梨花が椅子を引くと、客は、もう一歩後ろへ下がった。

宇宙を旅するノノが家へ到着したところだ。茶褐色の布で包んだ荷物を持ち、長い尾を床へ伸ばしている。梨花は袖のしわを直し、もう一度すすめた。「何か失礼があったかな。」聞くと、客は笑った。「尾を伸ばして立つ方が、楽なんです。」

朝から梨花は、地球を紹介する本を複数そろえていた。写真集の隣には、飢餓に苦しんだ町の記録も置く。よい面だけを見せるのでは、地球を知ったことにならないと思ったのだ。部屋の化粧直しまで考え、用意する物が増えるほど時間の余裕はなくなった。

家族はいつもどおりだった。母は在宅の予定を変えず、米を炊く。父は犬へ飼料を与え、庭の垣根を直している。梨花だけが落ち着かないまま、茶と牛乳を盆に並べた。その盆を今、ノノの前へ差し出してみる。「飲み物は、あとでお願いします。」

客の荷物には旅の食糧があるが、今は食べたくないそうだ。せっかく準備したのに、と梨花は思った。盆を持って台所へ戻ると、母が「あとでね」と言った。梨花は、まだ湯の入っていない急須を棚へ置いた。

分厚い本を開きかけた時、客が台所を向いた。「今、聞こえた音は何ですか。」炊飯器のふたを開けた音だった。湯気の向こうの米粒や、母が飯をよそう動きを、面白そうに見ている。ノノは一粒を指さし、地球のどこで育つ物なのか尋ねた。

質問集にはない話だった。

窓の桟に夕方の光が差す。庭に干した傘を見て、客はまた尋ねた。梨花は雨の日の話をした。地球の全てを知らなくても、今日の家のことなら自分の言葉で話せる。ノノも故郷の雨を話し始めた。尾をよけて立つと、二人とも同じ庭がよく見えた。

帰り際、ノノは犬の声を心の糧にすると言った。旅では、その声を聞く機会がなかったという。次の招待状に梨花は、「立って話せる場所も空けておきます」と書く。飲み物のことは、来た時に聞こう。その下には、故郷の雨について、聞いてみたいことを一つ足した。

遠い星の客とその体の特徴、人物・出来事は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

梨花が用意したものと、ノノが実際に望んだことを読み分けて答えなさい。

（1）生まれ育った土地を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）人の家やある場所へ訪ねていく「ホウモン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）ノノが椅子に座らなかった理由を選びなさい。

ア　尾を伸ばし、立っている方が楽だったから。
イ　梨花の用意が全て嫌いだったから。
ウ　地球の本を全て読んでいたから。
エ　雨傘を持っていなかったから。

（4）台所での会話について、本文に合うものを選びなさい。

ア　客は地球の歴史の試験を始めた。
イ　梨花は本の内容しか話さなかった。
ウ　客は米を見たくないと言った。
エ　身近な音への質問から、日々の暮らしの話が始まった。

（5）梨花が分厚い本だけに頼らず話せるようになった理由を、
台所での客の関心と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）次に客を迎える梨花へ、「準備」「希望」を使って 70〜90 字で助言しなさい。
椅子と飲み物の二つの出来事を根拠にします。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　家と日々の道具

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　目的地に着くこと。着の字は、衣服を身につける場合以外にも使う。
（2）エ　家畜などの動物に与える食物。食料・資料などと、文脈と字を確かめて区別する。
（3）ウ　食物がなく飢えること。一食を楽しみに待つ様子だけを表す語ではない。
（4）ア　生きるための食べ物。心の糧では、活動を支えるものという比喩でも使う。
（5）エ　一つでなく二つ以上。単数と対になる語で、重複とは語全体の意味が違う。
（6）イ　必要を満たした上でのゆとり。お金の豊かさだけに限らない。

四　熟語を広げよう

（1）到着　（2）緑茶　（3）飲料　（4）飼料　（5）炊飯
（6）半袖　（7）飢餓　（8）食糧　（9）在宅　（10）宇宙
（11）複数　（12）裕福　（13）桟橋　（14）褐色

到着の着は場所に着くこと。飼料は動物に与える食物。（12）裕福は財産が多く暮らしが豊かなこと。時間や気持ちのゆとりを表す余裕とは使う場面を分ける。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　家にいること。存在の在とは、語全体としての使い方も確かめる。
（2）エ　心の糧は、気持ちや活動を支えるもののたとえ。文字どおりの食物と分ける。
（3）ウ　数が多いことと、同一の内容が重なることを区別する。
（4）イ　布の色を表す語。茶の字だけで、材料や客の好みまで決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

雨が上がったので傘を閉じ、ぬれた道に残る空の色を眺めた。

☆自分で確かめる点　何のための道具か、場面と合っているか。

（6）解答例

早めに用意ができたので時間に余裕ができ、客とゆっくり話せた。

☆自分で確かめる点　時間や気持ちにゆとりがある意味で使ったか。

六　短文で使ってみよう

（1）着席　（2）茶葉　（3）飲食　（4）飼育　（5）炊事
（6）長袖　（7）乳製品　（8）存在　（9）重複　（10）垣根
（11）米粒　（12）桟　（13）化粧　（14）茶褐色　（15）椅子
（16）ちゃしつ　（17）りゅうし　（18）にゅうじ　（19）かったん　（20）ざいす

（7）乳製品は乳を原料に作る食品。（9）重複は同じものが重なること。（12）桟は戸や窓などの横木。（15）は「椅子」と書く。（19）は「かったん」、（20）は「ざいす」。

七　文章の中で考えよう

（1）故郷　生まれ育った土地。ノノは自分の故郷の雨を話し始めた。
（2）訪問　人の家やある場所を訪ねること。訪ねる側と迎える側の希望も、同じとは限らない。
（3）ア　梨花への不満ではなく、ノノ自身の体に合う姿勢だった。
（4）エ　用意した質問集になかった、身近な暮らしの会話が生まれた。

七　記述問題の考え方

（5）　自分の言葉で話せる理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

客が炊飯器の音や米粒など身近な暮らしに関心を示し、地球の全てを知らなくても今日の家のことなら話せたから。

（5）別解例　52 字

客が知りたいのは本にある地球の説明だけでなく、梨花が普段見ている炊飯や家の暮らしにもあると分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 客が炊飯など身近なものに関心を示したと書いたか。
② 梨花が自分の経験から話せることと結んだか。
③ 本を用意したこと自体を無意味にしていないか。

本を読まなくてよいという結論にしない。会話のきっかけが、用意した本だけではなかった。

（6）　次のもてなしへの助言 70〜90 字

（6）解答例　83 字

準備した椅子でも、客は立つ方が楽で、飲み物はあとでと頼みました。用意した物を必ず使ってもらおうとせず、相手の希望を聞き、立つ場所や飲む時を選べるようにするとよいです。

（6）別解例　87 字

客が座らず飲み物を断っても、準備を嫌っているとは限りません。尾を伸ばしたいことや、今は飲まないという希望を聞き、椅子に座るか、いつ飲むかを相手が選べる迎え方にするとよいです。

☆（6）自分で確かめる点

①「準備」「希望」を使ったか。
② 椅子と飲み物の二つの出来事を根拠にしたか。
③ 相手に聞いたり、選べるようにしたりする助言か。

準備を全部やめる必要はない。ノノ一人の好みを、全ての客に共通する性質と決めない。

漢字から文章へ 第四冊

第十七回

構造と計測

模型の町には、二本の坂道があります。
弟は短い道を選び、姉は長い道を選びました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

式	電	額	枝
決まった形 計算	電気 電報	ひたい 金額 枠	幹から分かれた部分

巧	克	軸	斜
技がすぐれている	困難に打ち勝つ	回転などの中心	水平などに対し傾く

いっしょに覚える漢字

玉	科	巻	織	矛	刈
伎	揚	酵	楼	礎	槽

この回で読むお話

長い坂道が先に着く

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
式	シキ	決まった形／計算の表し方 方式・公式・数式・儀式	巧	コウ たくみ	技がすぐれている 巧み・巧妙・技巧・精巧
電	デン	電気／電報 電気・電流・発電・電線	克	コク かつ	困難に打ち勝つ 克服・克己・相克
額	ガク ひたい	ひたい／金額／枠 金額・額縁・多額・半額	軸	ジク	回転などの中心となるもの 軸・回転軸・車軸・座標軸
枝	シ えだ	幹から分かれた部分 枝・枝分かれ・枝葉・小枝	斜	シャ ななめ	水平などに対して傾く 斜面・斜線・傾斜・斜光

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
玉	ギョク たま	丸いもの／美しい石 玉・鉄の玉・目玉・玉石	伎	ギ キ わざ	技や芸 伎芸・歌舞伎・伎倆
科	カ	分野／分類 科学・教科・学科・科目	揚	ヨウ あげる あがる	高く上げる／油で熱する 揚力・掲揚・水揚げ・揚げる
巻	カン まく まき	まわして包む／ひとまとまり 巻く・巻線・一巻・渦巻	酵	コウ	発酵に関わる 発酵・酵母・酵素
織	ショク シキ おる	糸を組み合わせて布にする 織る・織物・組織・機織り	楼	ロウ	高く造った建物 高楼・楼閣・鐘楼
矛	ム ボウ ほこ	長い柄に刃を付けた武器 矛・矛盾・矛先	礎	ソ いしずえ	建物の土台／物事の基 基礎・礎石・礎
刈	ガイ かる	草や稲を切り取る 刈る・草刈り・刈り入れ	槽	ソウ ふね	液体などを入れる容器 水槽・発酵槽・浴槽・槽

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「精巧」に合うものを選びなさい。
ア　細かい所までよくできていること　　イ　必ず電気を使うこと
ウ　必ず大きいこと　　エ　金額が高いことだけ

(2)「克服」に合うものを選びなさい。
ア　長さを測る単位　　イ　服を重ねて着ること
ウ　困難などに打ち勝つこと　　エ　道が二つに分かれること

(3)「回転軸」に合うものを選びなさい。
ア　物の価格を示す札　　イ　回転の中心となる軸
ウ　必ず建物の土台になる石　　エ　全ての坂道の終点

(4)「矛盾」に合うものを選びなさい。
ア　二つの道が同じ場所へ着くこと　　イ　道が曲がっていることだけ
ウ　計測を三回行うこと　　エ　二つの事柄のつじつまが合わないこと

(5)「掲揚」に合うものを選びなさい。
ア　木の枝を数えること　　イ　旗を必ず捨てること
ウ　旗などを高く掲げること　　エ　水を容器へ注ぐことだけ

(6)「基礎」に合うものを選びなさい。
ア　建物の土台や、物事のもととなるもの　　イ　必ず最も高い部分
ウ　建物の飾りだけ　　エ　水槽の中の生き物

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　織物　金額　歌舞伎　克服　数式　基礎　斜面
精巧　草刈り　電気　掲揚　回転軸　枝分かれ　矛盾

文	解答	文	解答
(1) 数量の関係を□□で表す。		(8) 傾いた□□を下りる。	
(2) 道具を動かす□□を調べる。		(9) 糸を組んだ□□を飾る。	
(3) 使える□□の範囲を考える。		(10) 前後の話が□□している。	
(4) 道が二つへ□□□□している。		(11) 草を切る□□□を手伝う。	
(5) 細部まで作り込んだ□□な模型だ。		(12) 日本の伝統芸能の□□□を見る。	
(6) 苦手を□□しようとする。		(13) 旗を高く□□する。	
(7) 回る中心の□□□を確かめる。		(14) 建物の土台となる□□を固める。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「最短」と「最速」に合うものを選びなさい。

最短の道を進む玉より、別の長い道の玉が先に着いた。

ア　最短と最速は必ず同じ意味である。
イ　距離の短さと、着くまでの時間を区別する。
ウ　早く着くなら、道は必ず短い。
エ　玉が動けば長さは測れない。

（2）この「軸」に合うものを選びなさい。

車の軸を調べる人と、比較の軸を決める人がいる。

ア　回転を支えるものと、比べる基準を読み分ける。
イ　比較には中心となる考えを使えない。
ウ　どちらも必ず鉄の棒を探している。
エ　二つの軸はいつでも同じ物である。

（3）この「傾斜」に合うものを選びなさい。

坂は途中で傾斜が変わり、初めの方が急になっている。

ア　道の色が変わるという意味だ。
イ　全ての部分の傾きが同じだ。
ウ　曲がった道は全て傾斜がない。
エ　水平などに対する傾きが、場所によって違う。

（4）ここでの「基礎」に合うものを選びなさい。

同じ条件で測ることを、比較の基礎にした。

ア　測った結果を全て捨てた。
イ　必ず地面に石を埋めた。
ウ　比べるためのもととなる条件を整えた。
エ　金額だけを比較した。

（5）「巻く」を使い、何をどうしたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「鐘楼」を使い、建物について一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 書類を決まった**ケイシキ**で書く。	
(2) 時計の**デンチ**を取り替えた。	
(3) 券に書かれた金額の**ガクメン**を確かめた。	
(4) 木の**シヨウ**が風に揺れる。	
(5) 物語の**コウミョウ**な仕掛けに驚いた。	
(6) 一つ一つの結果を**コクメイ**に記録した。	
(7) 車輪を支える**シャジク**を調べる。	
(8) 坂の**ケイシャ**が途中で変わる。	
(9) 白玉粉で作った団子の**シラタマ**を食べた。	
(10) 学校で学ぶ**カモク**の時間割を見る。	
(11) 布を手で織る**テオリ**の作業を見た。	
(12) 物語で、武器の**ホコサキ**が光った。	
(13) 畑で実った麦を**カリトル**。	
(14) パンづくりで、生地の**ハッコウ**の様子を学ぶ。	
(15) 風呂の**ヨクソウ**に湯をためた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 儀式	(17) 電報	(18) 玉手箱	(19) 酵母	(20) 水槽

この回を終えたら もう一度確かめる

何の長さ、何の時間を比べたかを確かめましょう。
一つの模型の結果を、全ての坂道へ広げないことも大切です。

七　文章の中で考えよう

長い坂道が先に着く

「最短便、出発。」航は模型の坂へ鉄の玉を置いた。

科学クラブで姉の紗季と作った町だ。歌舞伎小屋、織物の工場、酵母を使う工場の槽もある。鐘楼の屋根や、旗を掲揚する棒まで精巧にできた。使える金額が少なく、木の枝や糸を巻く軸も材料になった。窓の一つは、まだ紙でふさいである。

町には二本の道がある。同じ出発点から、同じ低い終点へ下りる道だ。Aはまっすぐな斜面、Bは初めに急に下り、その後は緩やかになる曲線。全体ではBの方が長い。航は、短いAが先に着くと予想し、「最短便」の札を作ったのだった。

一つの玉を両方の道で使い、出発位置をそろえて、押さずに放す。電池で動く時計で三回ずつ測った。どちらでも玉は途中で止まらない。紗季は結果を書き、航は玉を取りに行く。時計を操作する時のずれなどで、同じ道の値にも少し違いがあった。

二本の道の記録

道	長さ	一回目	二回目	三回目
A	80cm	1.8秒	1.9秒	1.8秒
B	100cm	1.5秒	1.6秒	1.5秒

「長いのに早い。矛盾しているよ。」三回ともBが先に着いた記録を、航は見直した。紗季は草刈りをする人形の横へ、「道の長さ」と「着くまでの時間」の札を置く。航は短い方へ手を伸ばしかけ、二枚を並べた。

Bの玉は、最初の急な下りで早く速さを増す。Aの玉と、ずっと同じ速さで進むわけではない。長さと時間は別の量だった。航は速さが一定でないことを忘れ、一つの式だけで考えようとしていた。短い道なら短い時間、という予想は当たらなかった。

それでも、曲線なら何でも早いのか。

調べたのは、この二本だけだ。道の形も玉の転がり方も関わる。同じ条件で比べることを、調べ方の基礎にしよう。航は外れた予想を消さず、「次はどこを変える？」と聞いた。隠すより試す方が、苦手の克服にもつながりそうだ。

Aの「最短便」は残し、Bには「今回の先着便」と書いた。見学に来た友人が、二枚の札の前で迷っている。航は答えを言いかけてやめ、玉を渡した。紗季は時計を用意する。まずは、どちらだと思うか聞くことにした。

町・人物・測定値は創作です。表はこの模型の記録であり、全ての曲線についての法則ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と表の条件・数値を根拠にして答えなさい。

（1）まだ分からない結果を前もって考えることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）長さや時間などの量を器具で調べる「ソクテイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）比べ方について、本文に合うものを選びなさい。

ア　道ごとに違う玉を使った。
イ　Ｂだけ強く押して放した。
ウ　一つの玉を使い、出発位置をそろえて押さずに放した。
エ　到着時刻は道の長さから想像しただけだった。

（4）表からいえることを選びなさい。

ア　世界中の曲線は必ず直線より早い。
イ　この模型では、三回ともＢの到着までの時間が短かった。
ウ　Ａの長さは 100cm だった。
エ　同じ道の三回の値は、全て完全に一致した。

（5）長いＢの方が早く着くことを、矛盾とはいえない理由を、速さの変化に触れて 45〜55 字で書きなさい。

（6）「最短便」「今回」を使い、二枚の札の付け方を 70〜90 字で説明しなさい。道の長さと記録からいえる範囲を、両方示します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　構造と計測

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　細かい所まで巧みに作られていること。大きさや価格だけでは決まらない。
（2）ウ　困難や苦手などに打ち勝つこと。克の字を使い、服装の話とは区別する。
（3）イ　回る運動の中心となる軸。軸の字は、話や活動の中心という比喩にも使う。
（4）エ　前後の話や二つの事柄が食い違い、両立しないこと。違いがあるだけとは限らない。
（5）ウ　旗などを掲げること。揚げるの語があっても、油で調理する意味とは違う。
（6）ア　建物を支える土台。また、学習や活動のもととなる事柄にも使う。

四　熟語を広げよう

（1）数式　（2）電気　（3）金額　（4）枝分かれ　（5）精巧
（6）克服　（7）回転軸　（8）斜面　（9）織物　（10）矛盾
（11）草刈り　（12）歌舞伎　（13）掲揚　（14）基礎

精巧は細かい所まで巧みにできていること。短い道と短い時間は別の量なので、道が長くても早いというだけでは矛盾とはいえない。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　長さと時間は別の量。速さが変わる場合、距離だけで到着時刻を決められない。
（2）ア　物の軸と、考えの中心や基準を表す使い方を区別する。
（3）エ　傾斜は傾き。曲がるかどうかだけでなく、どこでどの程度傾くかを見る。
（4）ウ　考えや作業を支えるもと。建物の土台以外にも使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

ほどけた糸を軸に巻くと、机の上を片付けて模型を広げられた。

☆自分で確かめる点　糸などを、物の周りへ回して付ける意味に合うか。

（6）解答例

町の模型の鐘楼には小さな鐘があり、広場からでもよく見えた。

☆自分で確かめる点　鐘をつるす建物として、場面に合う文か。

六　短文で使ってみよう

（1）形式　（2）電池　（3）額面　（4）枝葉　（5）巧妙
（6）克明　（7）車軸　（8）傾斜　（9）白玉　（10）科目
（11）手織り　（12）矛先　（13）刈り取る　（14）発酵　（15）浴槽
（16）ぎしき　（17）でんぽう　（18）たまてばこ　（19）こうぼ　（20）すいそう

（4）枝葉は枝と葉で、ここでは「しよう」と読む。（6）克明は細かい所まで念を入れること。（9）は団子の白玉。（13）は送り仮名も書く。（19）は「こうぼ」。

七　文章の中で考えよう

（1）予想　前もって結果を考えること。航は短いＡが先に着くと予想していた。
（2）測定　器具を使って量を調べること。何を、どんな条件で測ったかも確かめる。
（3）ウ　玉と出発位置、押さないという条件をそろえた。
（4）イ　この模型の三回の記録はそうなっている。全ての曲線へ一般化しない。

七　記述問題の考え方

（5）　長さと時間を分ける 45〜55 字

（5）解答例　51 字

道の長さと着くまでの時間は別で、Ｂでは初めの急な下りで速さが増し、Ａと同じ速さで進むわけではないから。

（5）別解例　51 字

Ｂは道が長くても、最初の急な下りで早く速さを増すため、距離の長さだけで到着までの時間は決まらないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 長さと時間が別の量だと分かるか。
② Ｂの最初の急な下りと、速さの変化に触れたか。
③ 長い道は必ず早い、という別の断定にしていないか。

到着時の速さだけでは、途中にかかった時間まで説明できない。最初からの進み方を見る。

（6）　二枚の札を説明する 70〜90 字

（6）解答例　84 字

Ａは 80cm でＢより短いので、最短便の札を残せます。一方、Ｂは三回とも早く着きましたが、この模型での結果です。曲線は全て早いと広げず、今回の先着便という札にしています。

（6）別解例　84 字

最短便は道の長さを比べた呼び名で、短いＡに合っています。Ｂは長くても三回とも早く着きましたが、他の道は調べていません。そこで、今回の先着便と、結果の範囲を示しています。

☆（6）自分で確かめる点

①「最短便」「今回」を使ったか。
② Ａの短さと、Ｂの三回の先着を区別したか。
③ 全ての曲線への断定を避け、記録の範囲を示したか。

二本以外の全ての道を比べたわけではない。Ａが世界で最も短い道だという意味にしない。

漢字から文章へ 第四冊

第十八回

芸能と信仰

祭りの記事に、短い見出しを付ける仕事です。
奈緒は、一枚の写真から書き始めました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

楽	神	寺	典
音を奏でる 楽しむ	人を超えると考える	仏教の施設	書物 儀式

宗	禅	魂	禍
中心となる教え	仏教の教え 修行	命や心の根本	わざわい

いっしょに覚える漢字

示	祝	笛	尼	亜	拍
塚	踊	塔	棋	雅	文

この回で読むお話

踊りの輪の外で

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
楽	ガク ラク たのしい たのしむ	音を奏でる／心が安らぐ 音楽・楽器・楽しむ・雅楽	宗	シュウ ソウ	中心となる教え／祖先 宗教・宗派・宗旨・祖宗
神	シン ジン かみ かん こう	人を超えると考えられる存在 神・神社・神話・精神	禅	ゼン	仏教の教え／悟りを求める 禅・座禅・禅宗・禅寺
寺	ジ てら	仏教の施設 寺・寺院・古寺・尼寺	魂	コン たましい	命や心の根本と考えるもの 魂・霊魂・鎮魂・魂胆
典	テン	よりどころとなる書物／儀式 祭典・古典・辞典・典礼	禍	カ わざわい	わざわい 災禍・戦禍・禍根・禍福

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
示	ジ シ しめす	見せて伝える 示す・展示・指示・暗示	塚	チョウ つか	土を盛った墓や目印 塚・貝塚・一里塚・古塚
祝	シュク シュウ いわう	喜びを表していわう 祝う・祝祭・祝福・祝日	踊	ヨウ おどる おどり	音に合わせて体を動かす 踊る・舞踊・踊り・盆踊り
笛	テキ ふえ	息を吹いて鳴らす楽器 笛・横笛・汽笛・口笛	塔	トウ	高く重ねて建てた建造物 塔・仏塔・鉄塔・五重塔
尼	ニ あま	出家した女性 尼・尼僧・尼寺	棋	キ	将棋や囲碁など 将棋・棋士・棋譜・棋戦
亜	ア	次ぐ／同じではない 亜流・亜細亜・亜種	雅	ガ みやび	上品で趣がある 雅楽・優雅・雅号・風雅
拍	ハク ヒョウ	手を打つ／リズムの単位 拍子・拍手・脈拍・一拍	文	ブン モン ふみ あや	文字で表す／文化 文化・文章・文字・文芸

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「祭典」に合うものを選びなさい。
ア　全ての遊び道具　　イ　文字の数え方だけ
ウ　必ず一人で行う読書　　エ　祭りの儀式や、祭りの行事

(2)「寺院」に合うものを選びなさい。
ア　仏教の施設　　イ　全ての舞台
ウ　必ず神社と同じ施設　　エ　将棋の駒だけ

(3)「鎮魂」に合うものを選びなさい。
ア　必ず新しい踊りを作ること　　イ　亡くなった人の魂などを静めること
ウ　拍手の速さを測ること　　エ　本の表紙を飾ること

(4)「災禍」に合うものを選びなさい。
ア　舞台の照明だけ　　イ　必ずよい知らせ
ウ　災い、災難　　エ　新しい音楽の名前

(5)「雅楽」に合うものを選びなさい。
ア　全ての音楽の別名　　イ　宮廷などで伝えられてきた、日本の伝統的な音楽や舞の一つ
ウ　必ず音のない踊り　　エ　将棋の勝ち負けだけ

(6)「亜流」に合うものを選びなさい。
ア　全く似ていない物だけ　　イ　最初に生まれた作品だけ
ウ　必ず外国で作られた音楽　　エ　まねるだけで独創性に乏しいものなど

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　展示　寺院　拍手　座禅　音楽　文章　災禍
宗教　尼僧　神社　舞踊　鎮魂　古典　祝福

文	解答	文	解答
(1) 音を組み合わせた □□を聴く。		(8) 大きな災いを □□と呼ぶ。	
(2) 神をまつる □□へ行く。		(9) 資料を並べて □□する。	
(3) 仏教の施設である □□を訪ねる。		(10) 幸せを願い □□の言葉を贈る。	
(4) 古くからの作品を □□で読む。		(11) 出家した女性の □□が話す。	
(5) 信仰や教えに関わる □□を調べる。		(12) 手を打って □□を送る。	
(6) 座って修行する □□の話を聞く。		(13) 音に合わせた □□を楽しむ。	
(7) 亡くなった人の魂を 静める□□の祈りだ。		(14) 言葉をつなぎ □□にまとめる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「典」の使い分けに合うものを選びなさい。

辞典で語を調べてから、町の祭典を取材した。

ア　二語とも必ず書物だけを表す。
イ　辞典は必ず踊りを表す。
ウ　言葉を集めた書物と、祭りの行事を読み分ける。
エ　祭典は辞典を捨てることである。

（2）この「拍子」と「拍手」に合うものを選びなさい。

笛の拍子に合わせて踊り、終わると客が拍手した。

ア　拍子は全て客の手だけを指す。
イ　拍手は楽器の名前である。
ウ　二語はどんな文でも置き換えられる。
エ　音楽のリズムと、手を打つ行為を区別する。

（3）ここでの「祈り」と「祝う」に合うものを選びなさい。

祭りの日に、新しい生活を祝う人も、亡くなった人を思って祈る人もいた。

ア　同じ日に、違う思いで過ごす人がいる。
イ　祈る人は必ず祭りを嫌っている。
ウ　祝う人は誰も思い出を持たない。
エ　祭りなら全員が同じ気持ちだと決まる。

（4）この「文化」に合うものを選びなさい。

古い型を学びながら、新しい踊りも作る文化がある。

ア　古いものは全てなくなった。
イ　受け継ぐことと、新しく作ることが共に述べられている。
ウ　新しい踊りは必ず亜流だ。
エ　文化は文章だけに限られる。

（5）「笛」を使い、聞いた音や演奏の場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「将棋」を使い、遊ぶ人の様子を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 笛や太鼓などの**ガッキ**を用意する。	
(2) 神々の物語である**シンワ**を読んだ。	
(3) 昔の学びの場である**テラコヤ**について調べた。	
(4) 言葉の意味を**ジテン**で調べた。	
(5) 同じ宗教の中の**シュウハ**について学ぶ。	
(6) 仏教の**ゼンシュウ**の寺を調べた。	
(7) 物語には、人の**タマシイ**が旅をする場面がある。	
(8) 物語で、後の災いのもととなる**カコン**を残した。	
(9) 入口に予定を**ケイジ**した。	
(10) 国民の**シュクジツ**を暦で確かめる。	
(11) 出家した女性たちの暮らす**アマデラ**を物語に描いた。	
(12) まねるだけで独創性に乏しい**アリュウ**と評した。	
(13) 昔の人が捨てた貝殻などの積もる**カイヅカ**を見学する。	
(14) 仏教の建物である**ブットウ**を訪ねた。	
(15) 伝統的な音楽の**ガガク**を聴いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 横笛	(17) 霊魂	(18) 戦禍	(19) 棋士	(20) 舞踏

この回を終えたら もう一度確かめる

行事の名称と、そこにいる人の思いを分けて読みましょう。
短い文章でまとめる時も、違いを消していないか確かめます。

七　文章の中で考えよう

踊りの輪の外で

写真の中では、町中の人が踊っているように見えた。奈緒はその下に、「町中が踊って祝う一日」と書いた。祭りを紹介する新聞へ、初めて記事を載せてもらうのだ。編集係に見出しを示すと、祖母が横から荷物を取った。「私は、もう帰るね。」

朝の神社の祭典には、雅楽の演奏があった。笛の長い音は、今の広場の踊りと拍子も違う。祖母は昔の災禍で亡くなった友人を思い、鎮魂の祈りをささげに来たのだという。「にぎやかだから来た、だけではないのよ。」奈緒の写真に、祖母は写っていなかった。

通りの先の禅寺では、尼僧が座禅について話している。神社の祭典とは別の集まりだ。塔のそばの人は、宗教や建物に関心があると言った。同じ日の催しを並べた地図でも、同じ教えを一つに示す地図ではない。奈緒は、寺の門で一度メモを閉じた。

古い塚の横を抜けると、友人の陸が将棋を指していた。「踊らないの。」「この一局が終わったら、見に行く。」陸は盤から目を離さない。踊りを嫌っているとも、輪に入るとも言わなかった。背後に太鼓が響くと、相手の駒を持つ手が、少し止まった。

見ただけでは、まだ聞いていないことがある。

舞台では中学生が新しい踊りを見せていた。兄は初め、古い型のまねにすぎない亜流ではないかと言っていたが、今は黙って見ている。奈緒にも、どこを受け継ぎ、どこを変えたかは分からない。演じ終えた一人が、ほどけかけた帯を結び直した。

輪の外には拍手する人、椅子で休む人、写真を撮る人がいる。踊らないから退屈だとも、そこにいるから全員楽しいとも決められない。奈緒は、見えた動作と本人に聞いた言葉を分けて書いた。祖母への質問も、まだ一つ残っている。

記事には、踊る人の写真と祖母の話、将棋盤を囲む二人を載せることにした。文化を一枚の笑顔だけで伝えるのは難しい。見出しは「それぞれの一日が集まる町の祭り」へ。

踊り手に頼まれ、奈緒は輪の外へ下がった。写真を撮るには、そこがちょうどよかった。

町・祭り・人物・各施設の催しは創作です。個々の行事や参加者の思いは、一つには限られません。

七　文章の中で考えよう 問い

催しや人々の様子を、奈緒が確かめた内容と結び付けて答えなさい。

（1）記事の内容を短く示す言葉を表す語を、本文から三字で抜き出しなさい。

（2）記事を集め、内容や並べ方を整える「ヘンシュウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）祖母が朝の行事に来た理由を選びなさい。

ア　新しい踊りを採点するため。
イ　将棋の大会に出るため。
ウ　昔の災禍で亡くなった友人を思い、祈るため。
エ　奈緒の写真を全て消すため。

（4）本文の人々について、合うものを選びなさい。

ア　踊らない人は、全員祭りを嫌っている。
イ　同じ日の催しを、それぞれの関心や思いで訪ねている。
ウ　全ての催しは、同じ教えで行われている。
エ　兄は新しい踊りの評価を最後に断定した。

（5）奈緒が最初の見出しを変えた理由を、祖母と陸の過ごし方に触れ、
45〜55 字で書きなさい。

（6）記事の紹介文を、「踊り」「祈り」を使って 70〜90 字で書きなさい。
本文の二人以上の過ごし方を伝え、全員を一つの気持ちにまとめません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　芸能と信仰

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　祭りの儀式や行事。辞典のような書物の意味だけで典を考えない。
（2）ア　仏教の施設。神社と寺院は、いつも同じ施設を表す語ではない。
（3）イ　魂を静めること。ここでは、亡くなった人を思う祈りとして使われる。
（4）ウ　災い。禍福は災いと幸せの両方、禍根は後の災いのもととなるもの。
（5）イ　日本で伝えられてきた音楽や舞。優雅という印象の語と、芸能の名称を区別する。
（6）エ　まねるだけで独創性が乏しいものなど。新作を全てそう呼ぶわけではない。

四　熟語を広げよう

（1）音楽　（2）神社　（3）寺院　（4）古典　（5）宗教
（6）座禅　（7）鎮魂　（8）災禍　（9）展示　（10）祝福
（11）尼僧　（12）拍手　（13）舞踊　（14）文章

寺院は仏教の施設、神社は神をまつる施設。鎮魂は亡くなった人を思う文脈で使われ、祝う気持ちだけとは限らない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　同じ典があっても、辞典と祭典は語全体の意味が違う。
（2）エ　音の進むリズムと、手を打つことを読み分ける。
（3）ア　行事名だけで参加者の思いを一つに決めない。本文に示された違いを読む。
（4）イ　文化には芸能なども含む。新旧どちらか一方だけを、字から決め付けない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

広場の向こうから笛の音が聞こえ、踊りを見ていた人が振り向いた。

☆自分で確かめる点　楽器と、その音や場面が結び付いているか。

（6）解答例

将棋を指す二人は盤を見つめ、次の一手を考えながら静かに待った。

☆自分で確かめる点　盤上の遊びとして、文の意味が通るか。

六　短文で使ってみよう

（1）楽器　（2）神話　（3）寺子屋　（4）辞典　（5）宗派
（6）禅宗　（7）魂　（8）禍根　（9）掲示　（10）祝日
（11）尼寺　（12）亜流　（13）貝塚　（14）仏塔　（15）雅楽
（16）よこぶえ　（17）れいこん　（18）せんか　（19）きし　（20）ぶとう

（3）寺子屋は江戸時代に庶民の子どもが読み書きなどを学んだ所。「寺小屋」も可。（8）禍根は後の災いのもと。（13）は「かいづか」、（14）は「ぶっとう」。（19）棋士は将棋や囲碁の専門家。

七　文章の中で考えよう

（1）見出し　記事の内容を短く示す言葉。奈緒は、取材した人々の違いを伝える見出しへ直した。
（2）編集　記事などの内容や並べ方を整えること。短くまとめる時も、人々の違いを消していないか確かめる。
（3）ウ　祖母自身の言葉に示されている。にぎやかさだけが理由ではない。
（4）イ　参加の仕方や思いは違う。外から見える行動だけで気持ちを決めない。

七　記述問題の考え方

（5）　見出しを変えた理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

祖母は友人を思って祈り、陸は将棋を指していて、町中の人が踊って祝っているという見出しでは違いが消えるから。

（5）別解例　52 字

祖母には亡くなった友人への祈りがあり、陸は将棋を指していて、全員が踊って祝う一日とはまとめられないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 祖母の祈りに触れたか。
② 陸が将棋を指していたことに触れたか。
③ 全員を踊りと祝う気持ちでまとめられない点と結んだか。

祈る人は楽しくない、陸は踊りが嫌いだ、とは決めない。本文で確認できる違いを示す。

（6）　それぞれの一日を紹介する 70〜90 字

（6）解答例　87 字

祭りには踊りを楽しむ人もいれば、祖母のように亡くなった友人への祈りをささげる人もいます。陸は将棋の後で踊りを見に行く予定です。同じ日でも、過ごし方や思いは一つではありません。

（6）別解例　83 字

広場では踊りや拍手が続き、将棋を指す陸にも音楽が聞こえます。祖母は祭典で、亡くなった友人を思う祈りをささげました。一枚の笑顔だけでは伝えきれない、それぞれの一日です。

☆（6）自分で確かめる点

①「踊り」「祈り」を使ったか。
② 祖母・陸など、二人以上の過ごし方を示したか。
③ 全員の気持ちを一つに決めず、違いを伝えたか。

輪の外で見る人を取り上げてもよい。奈緒が全員の内心を知ったことにはしない。